

2

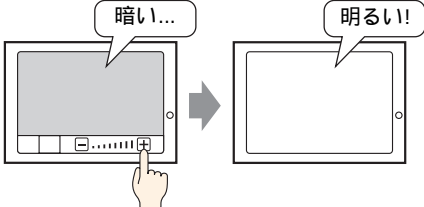
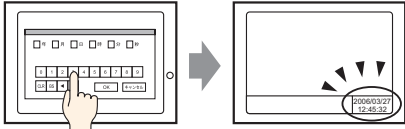
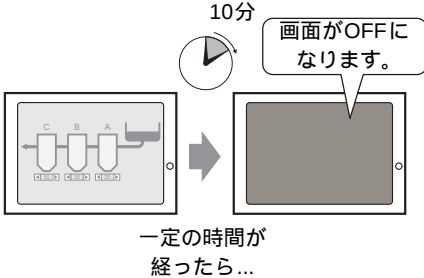
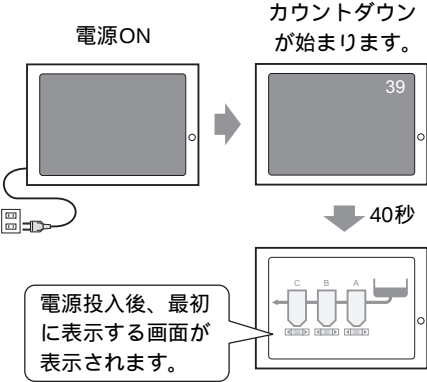
メンテナンス編

この章では、GPの「オフラインモード」についての基本的な説明と、基本操作について説明します。まず「2.1 オフラインモードでできること」(2-2 ページ)から目的に合った説明ページへ読み進めてください。

2.1	オフラインモードでできること.....	2-2
2.2	オフラインモードについて.....	2-15
2.3	表示器の画面設定.....	2-20
2.4	周辺機器設定.....	2-33
2.5	イーサネット設定.....	2-38
2.6	パスワード、ライセンス設定.....	2-40
2.7	メモリやCFカードの初期化.....	2-44
2.8	表示器本体の動作チェック.....	2-48
2.9	ロジック機能の動作(通信)チェック.....	2-51
2.10	コントローラ設定.....	2-67
2.11	ビデオ表示の調整と確認.....	2-70
2.12	GP-Pro EXからの画面転送.....	2-74
2.13	IPC本体の再起動とデバイスの取り外し(パネルコンピュータ使用時のみ).....	2-78
2.14	遠隔監視設定.....	2-83
2.15	オフライン設定ガイド.....	2-85

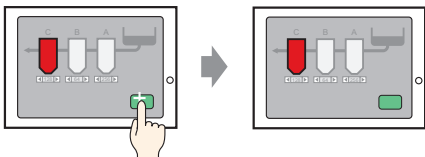
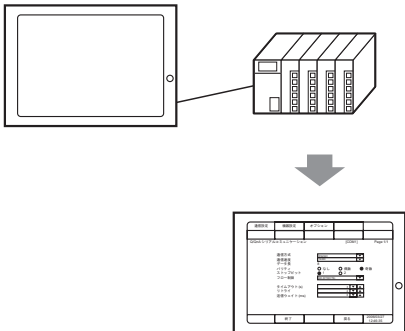
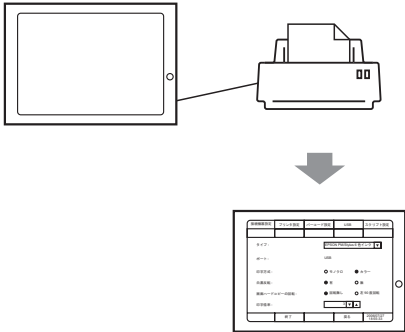
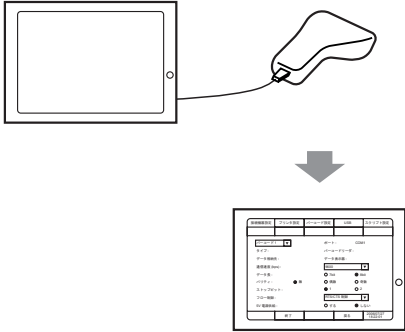
2.1 オフラインモードでできること

表示器のオフラインモードでは以下のような設定ができます。

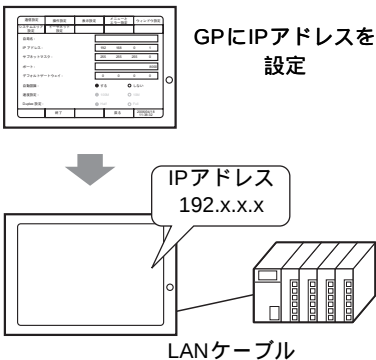
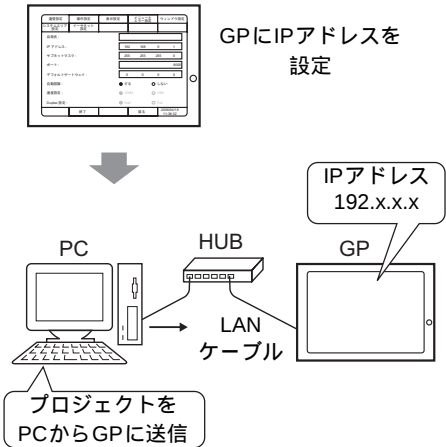
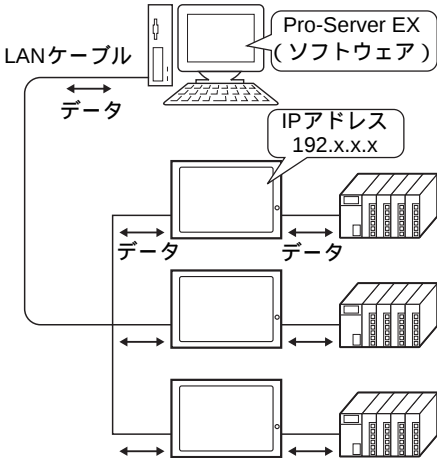
できること	設定手順
表示器の画面や操作に関する設定ができます。 - 表示器の輝度、コントラストの調整  - 表示器の時刻の設定  - スタンバイモードの設定  - 表示器の起動タイミングの設定 	☞「2.3 表示器の画面設定」(2-20 ページ) 次のページに続きます。

できること	設定手順
- 表示器に最初に表示される画面の設定 電源 ON - タッチ音の有無の設定 - オフラインモードのメニューを英語で設定 メニューを英語に切換 日本語 英語 - タッチの認識タイミングを設定 タッチを押した時にビットをON タッチを離した時にビットをON - バックライト切れ時の誤動作防止設定 バックライトが切れた！	☞「2.3 表示器の画面設定」(2-20 ページ)

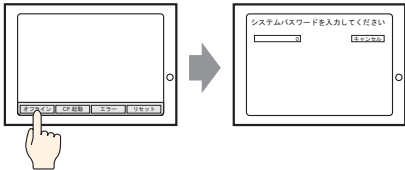
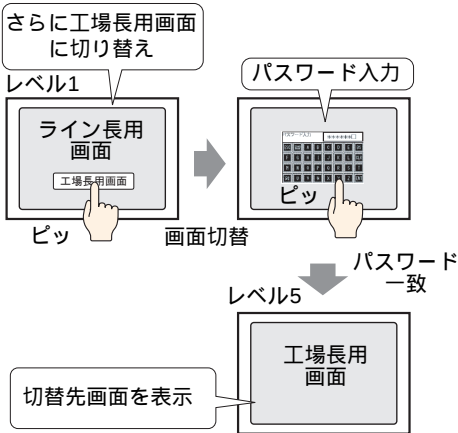
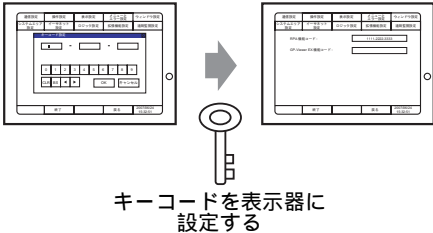
次のページに続きます。

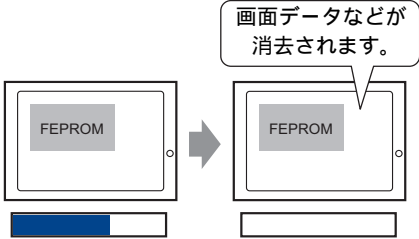
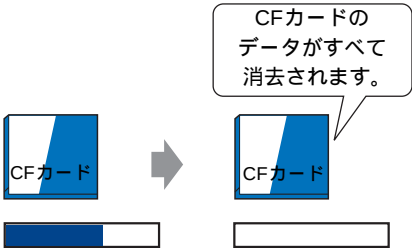
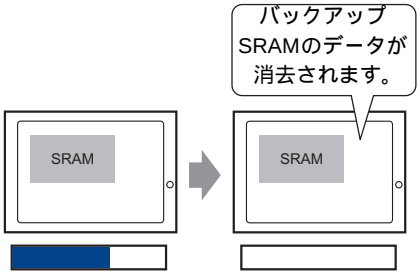
できること	設定手順
タッチした位置を消去（GP3200 シリーズをご利用の場合） 	☞「2.3 表示器の画面設定」（2-20 ページ）
周辺機器に関する設定や確認ができます。 - 接続している接続機器の通信設定や確認  - 接続しているプリンタの印刷方法変更や確認  - 接続しているバーコードの通信設定や確認 	☞「2.4 周辺機器設定」（2-33 ページ）

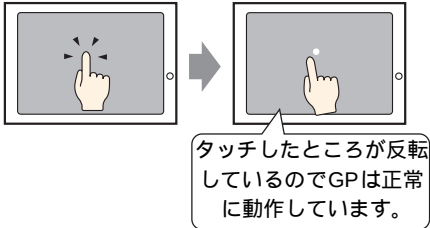
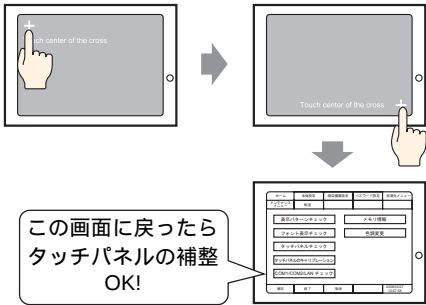
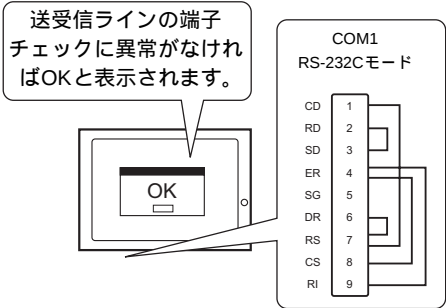
次のページに続きます。

できること	設定手順
下記のような通信時に表示器に IP アドレスを設定します。 - 接続機器とイーサネットで通信する場合  GPにIPアドレスを設定 IPアドレス 192.x.x.x LANケーブル - プロジェクトファイルを転送する場合  GPにIPアドレスを設定 IPアドレス 192.x.x.x PC HUB LANケーブル GP プロジェクトをPCからGPに送信 - Pro-Server EX 使用時に通信する場合  LANケーブル データ Pro-Server EX (ソフトウェア) IPアドレス 192.x.x.x データ データ データ	設定手順 ☞「2.5 イーサネット設定」(2-38 ページ)

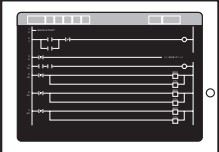
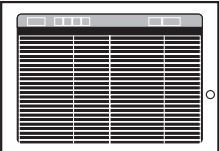
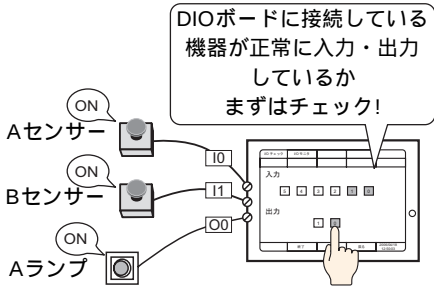
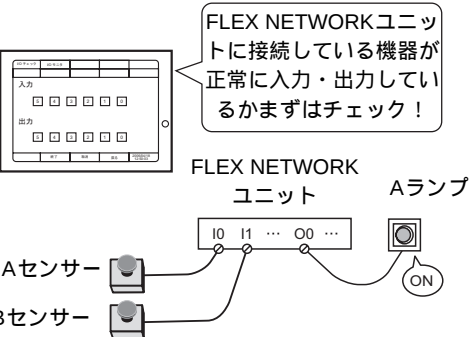
次のページに続きます。

できること	設定手順
オフラインモードに入るとき、メモリやCFカードの初期化や各画面操作のパスワードを設定できます。またライセンスのキーコードを設定します。 - 初期化やオフラインモードに入る場合のパスワードを設定  - 権限別に操作できる画面を設定  - GP-Viewer EX や RPA 機能のライセンスを設定  キーコードを表示器に設定する	☞「2.6 パスワード、ライセンス設定」 (2-40 ページ) 次のページに続きます。

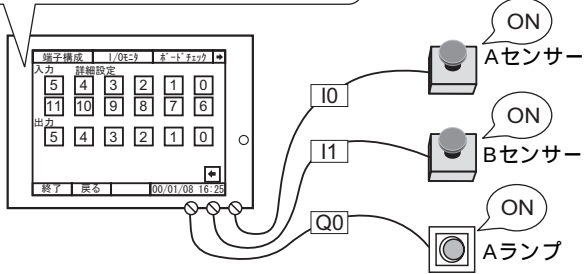
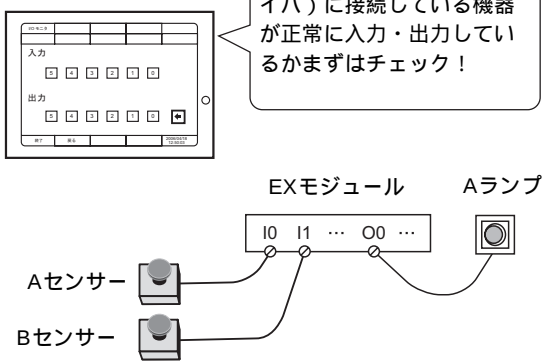
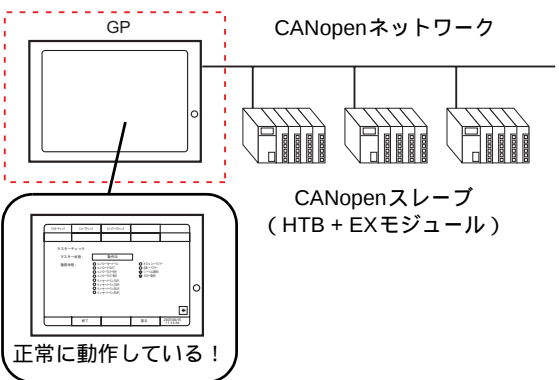
できること	設定手順
メモリや CF カードのデータを初期化できます。初期化できるデータは下記のとおりです。 - ユーザメモリ (FEPROM) の初期化  - CF カードの初期化  - バックアップ SRAM の初期化 	☞「2.7 メモリや CF カードの初期化」(2-44 ページ) 次のページに続きます。

できること	設定手順
表示器本体が正常に動作しているか下記のようなチェックができます。 - タッチパネルチェック  - アナログタッチパネルの補正  - COM1/COM2/LAN のチェック  * COM1 と COM2 の端子をチェックするにはループバックケーブルの作成が必要になります。	設定手順 ☞ 「2.8 表示器本体の動作チェック」(2-48 ページ)

次のページに続きます。

できること	設定手順
ロジックプログラムが正常に動作するか、また GP3000 シリーズ DIO ボードタイプ、FLEX NETWORK ユニットに接続している機器が正常に動作するかチェックできます。 - ロジックプログラムのモニタ  ロジックプログラムの動作状況と命令で 使用している変数の 状態をチェックでき ます。 - ロジックプログラムで使用されている変数のアドレスモニタ  ロジックプログラム で使用されている 変数の変数名と 現在値をチェックで きます。 - GP3000 シリーズ DIO ボードタイプに接続している機器の動作チェック  DIOボードに接続している 機器が正常に inputs・outputs しているか まずはチェック! - FLEX NETWORK ユニットに接続している機器の動作チェック  FLEX NETWORKユニットに接続している機器が 正常に inputs・outputs しているか まずはチェック! FLEX NETWORK ユニット Aランプ	☞「2.9 ロジック機能の動作（通信） チェック」（2-51 ページ）

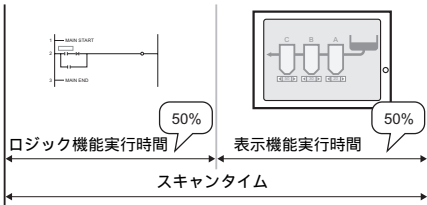
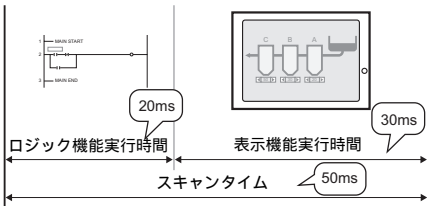
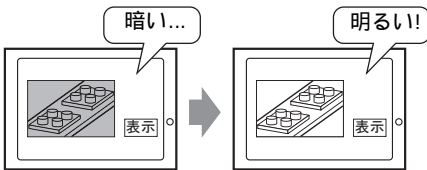
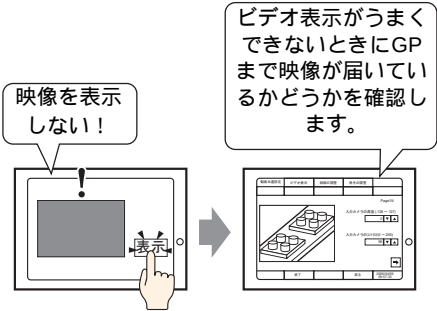
次のページに続きます。

できること	設定手順
• LT3000 シリーズ本体の DIO インターフェースに接続している機器の動作チェック DIOインターフェース (STDドライバ) に接続している機器が正常に入力・出力しているかまずはチェック! 	☞「2.9.4 LT3000 シリーズ本体の DIO インターフェースに接続している機器の動作チェックをしたい」(2-60 ページ)
• EX モジュールへの通信ができるかどうかチェック EXモジュール (EXMドライバ) に接続している機器が正常に入力・出力しているかまずはチェック! 	☞「2.9.5 EX モジュールへの通信ができるかどうかチェックしたい」(2-62 ページ)
• CANopen マスタ対応 GP 側 (マスタ側) の通信ができるかどうかチェックしたい GP CANopenネットワーク CANopenスレーブ (HTB + EXモジュール) 正常に動作している! 	☞「2.9.6 CANopen マスタ対応 GP 側 (マスタ側) の通信ができるかどうかチェックしたい」(2-64 ページ)

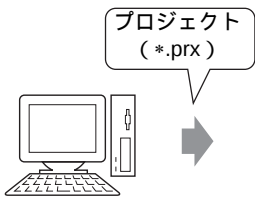
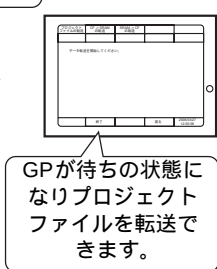
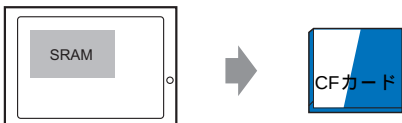
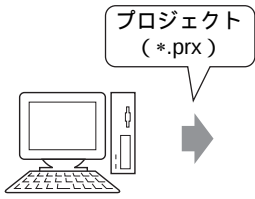
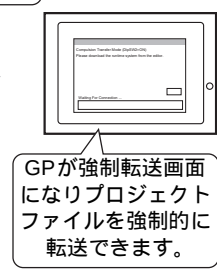
次のページに続きます。

できること	設定手順
• HTB ユニット側（スレーブ側）のチェック GP CANopenネットワーク CANopenスレーブ (HTB + EXモジュール) 1つ目のスレーブが動作していることを確認！	☞「2.9.7 HTB ユニット側（スレーブ側）の通信ができるかどうかチェックしたい」(2-65 ページ)
• CANopen 通信時にネットワーク全体の状態をチェックしたい GP CANopenネットワーク CANopenスレーブ (HTB + EXモジュール) スレーブのケーブルが抜けている！	☞「2.9.8 CANopen 通信時にネットワーク全体の状態をチェックしたい」(2-66 ページ)

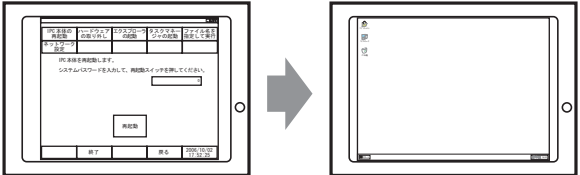
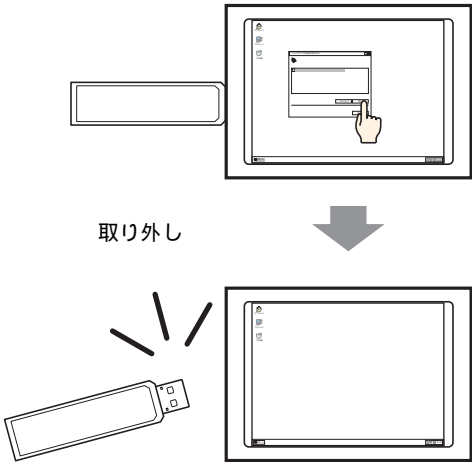
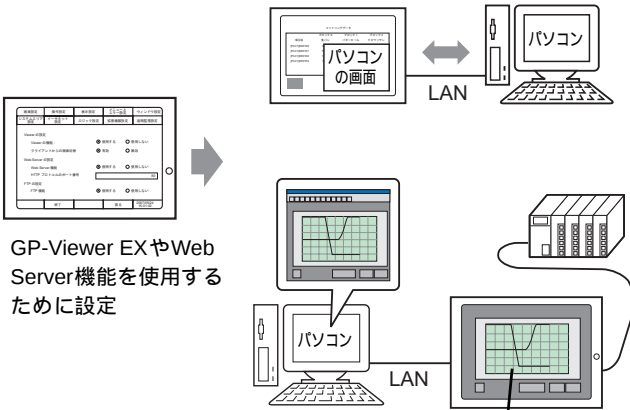
次のページに続きます。

できること	設定手順
ロジックプログラムの実行時間を下記のどちらかの方法で設定できます。 - コントローラ機能実行時間の割合で設定  ロジック機能実行時間 50% 表示機能実行時間 50% スキャンタイム - コントローラ機能実行時間と表示機能実行時間で設定  ロジック機能実行時間 20ms 表示機能実行時間 30ms スキャンタイム 50ms	☞「2.10 コントローラ設定」(2-67 ページ)
GP-3*50 シリーズの動画機能や VM ユニット使用時にビデオ表示の調整や確認ができます。 - ビデオ表示の画質調整  - ビデオ表示できない時の映像の確認  映像を表示しない! ビデオ表示がうまくできないときにGPまで映像が届いているかどうかを確認します。	☞「2.11 ビデオ表示の調整と確認」(2-70 ページ)

次のページに続きます。

できること	設定手順
プロジェクトファイルを転送できないときに下記のような転送ができます。 オフラインモードで転送 GP が自動で転送モードにならない時に以下の転送を行います。  プロジェクト (*.prx)  GPが待ちの状態になりプロジェクトファイルを転送できます。 SRAM のデータを CF カードにバックアップ  SRAMのデータを バックアップ 強制転送 GP が自動で転送モードにならず、オフラインモードにも入れない場合に以下の転送を行います。  プロジェクト (*.prx)  GPが強制転送画面になりプロジェクトファイルを強制的に転送できます。	☞「2.12 GP-Pro EX からの画面転送」 (2-74 ページ)

次のページに続きます。

できること	設定手順
IPC 本体の再起動 再起動 	
IPC に接続しているデバイスの取り外し  取り外し	☞「2.13 IPC 本体の再起動とデバイスの取り外し（パネルコンピュータ使用時のみ）」（2-78 ページ）
GP-Viewer EX や Web Server 機能を設定  GP-Viewer EXやWeb Server機能を使用するために設定 パソコンにインストールされたGP-Viewer EXで表示器の内容を表示 GP-Pro EXで作成したプロジェクトファイル	☞「2.14.1 遠隔監視機能（GP-Viewer EX、Web Server）を設定したい」（2-84 ページ）

2.2 オフラインモードについて

オフラインモードとは、システム設定・自己診断などを行うモードのことです。運転する前の準備をここで行います。

重要

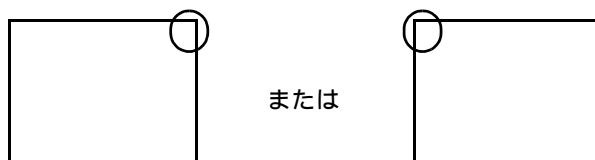
- 購入後初めて本機を使用する場合、GP 画面作成ソフトからシステムを GP に転送しないとオフラインモード（システム設定）へは入れません。
転送は GP の電源が ON の状態で行います。画面データを GP に送信すると、自動的にシステムが GP に送信されます。転送方法については「GP-Pro EX リファレンスマニュアル」を参照してください。

2.2.1 オフラインモードへの入り方

GP 本体には使用時に必要な各種の設定をするためのオフラインモードがあります。オフラインモードへの移行方法は電源投入時と運転時によって異なります。

■ 電源投入時

起動中画面表示後に、パネルの右上隅または左上隅（縦横 40 ドット以内）を 3 秒以上タッチします。



■ 運転時

- 1 パネルの右上隅 → 左下隅または左上隅 → 右下隅（縦横 40 ドット以内）の順に 0.5 秒以内にタッチします。



- 2 画面にシステムメニューが表示されますので「オフライン」をタッチします。

システムメニューの各ボタンの詳細については下記を参照してください。

☞ 「2.15.10 システムメニュー」(2-168 ページ)



次のページに続きます。

MEMO

- ・システムメニューが表示されない場合は GP-Pro EX で [本体設定] の [メニューとエラー設定] で [システムメニューの表示] が [表示しない] になっています。表示する設定に変更して再度プロジェクトファイルを転送してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.15.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド・メニューとエラー設定」(5-127 ページ)

- ・「パスワード設定」でパスワードを設定していると、オフラインモードに入る前にパスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力してオフラインモードに入ります。

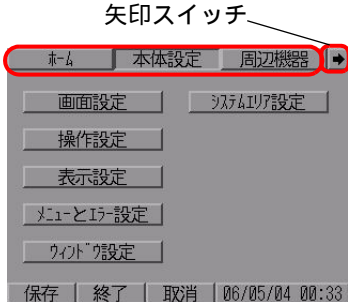
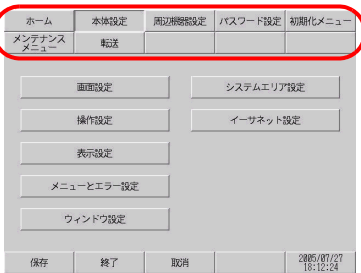
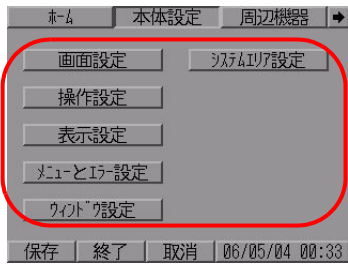
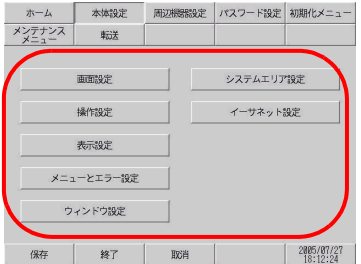
パスワード設定、パスワードの数値入力については下記を参照してください。

☞ 「2.6 パスワード、ライセンス設定」(2-40 ページ)

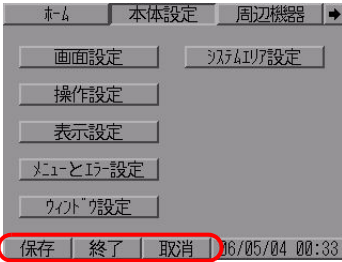
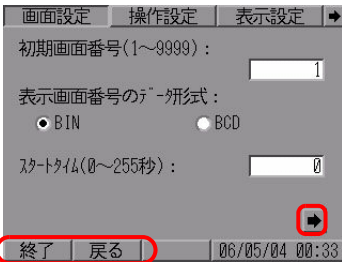
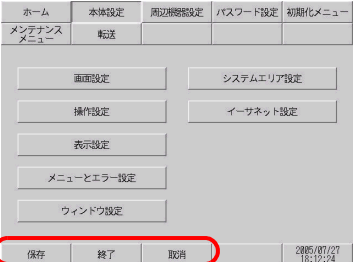
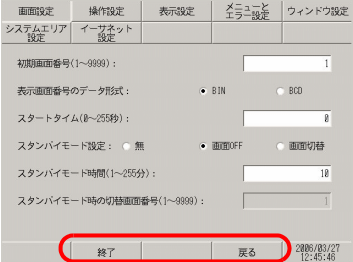
☞ 「2.2.3 オフラインモードでの操作」(2-18 ページ)

2.2.2 オフラインモード共通スイッチ

オフラインモードで使用する共通のスイッチをご紹介します。ただし、GP の表示ドット数によりスイッチの表示または表示方法が異なる場合があります。

スイッチ	画面の表示ドット数が 320 × 240 ドット	画面の表示ドット数が 640 × 480 ドット
・ 項目切替スイッチ 表示される設定項目を切り替えます。すべてのスイッチが一度に表示できない場合、スイッチの右端に矢印スイッチが表示されます。矢印スイッチをタッチすることで残りのスイッチが表示されます。	矢印スイッチ 	
・ 設定項目 GP 使用時に必要な項目を設定します。すべての項目が一度に表示できない場合、設定項目の右下にページ切替スイッチが表示されます。[ページ切替スイッチ] をタッチすることで残りの項目が表示されます。		

次のページに続きます。

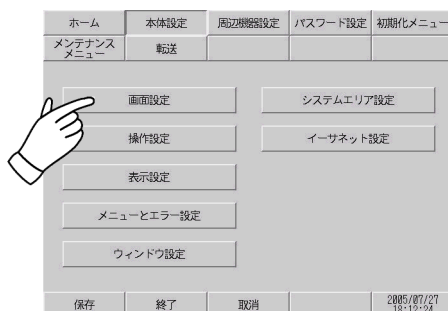
スイッチ	画面の表示ドット数が 320 × 240 ドット	画面の表示ドット数が 640 × 480 ドット
・ コントロールスイッチ オフラインモードで「保存」「取消」「終了」「戻る」を実行させるボタンです。 保存.. 変更した項目の設定を保存します。 取消.. 変更した項目の設定を以前の状態（前回保存した状態）に戻します。 終了.. オフラインモードを終了します。 戻る.. 一つ上の階層の画面に戻ります。	 	 

2.2.3 オフラインモードでの操作

ここでは設定を行っていくうえで必要な操作について説明します。

■ メニューを選択するとき

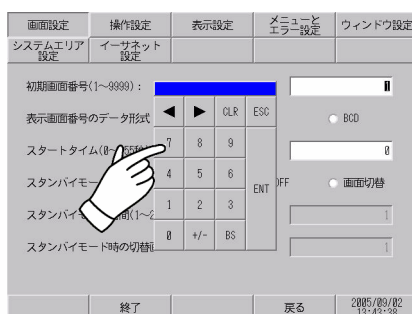
設定したいメニュー項目にタッチします。



■ 数値を入力するとき

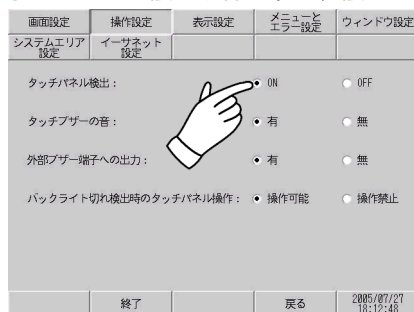
メニューを選択、または入力枠をタッチすると、数値入力が可能となります。

画面に表示されるテンキーで入力します。



■ 設定条件を選択するとき

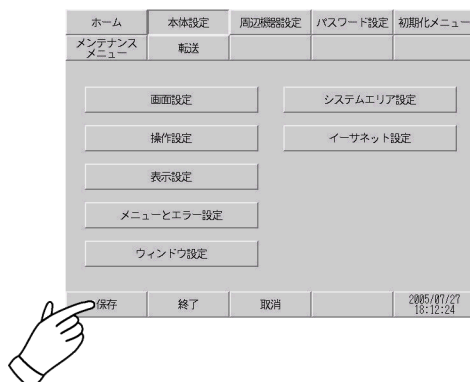
メニューを選択した後、表示されている設定条件のうち、設定したい条件を選んでタッチします。



■ すべての設定を終えたら

画面下の「保存」ボタンをタッチします。

設定内容を取り消したいときは、「取消」ボタンをタッチします。

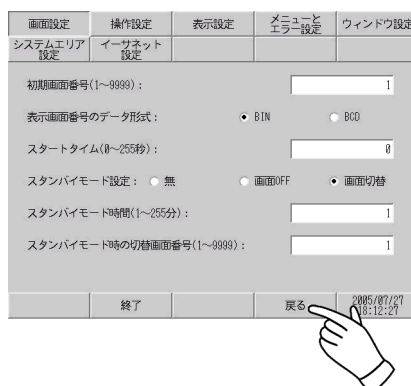


重要

- 「保存」ボタンをタッチすることによって、内部 FEPROM に設定内容が書き込まれます。
- 「保存」ボタンのタッチで内部 FEPROM へ書き込むため、元のメニューに戻るのに時間がかかる場合があります。元のメニューに戻るまでは、何もタッチしないでそのままお待ちください。
- 設定内容の保存中は GP の電源を切らないようにしてください。内部 FEPROM の内容が破損する恐れがあります。
- 「取消」ボタンをタッチした場合は、変更した項目の設定を以前の状態（前回保存した状態）に戻します。

■ 一つ上の階層に戻りたいとき

「戻る」ボタンにタッチします。

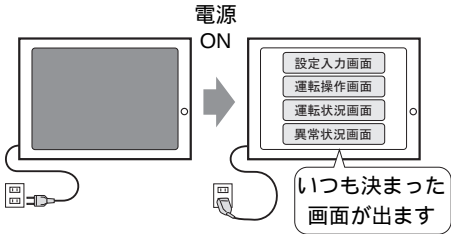
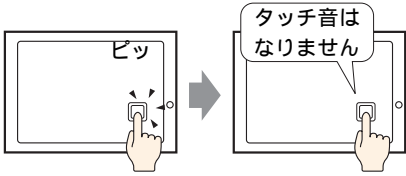
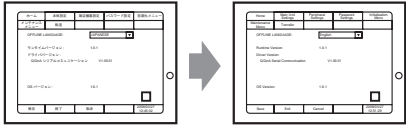
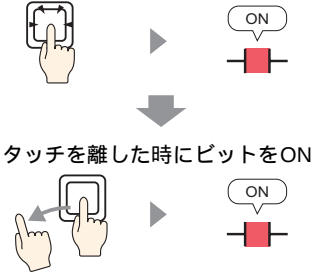


2.3 表示器の画面設定

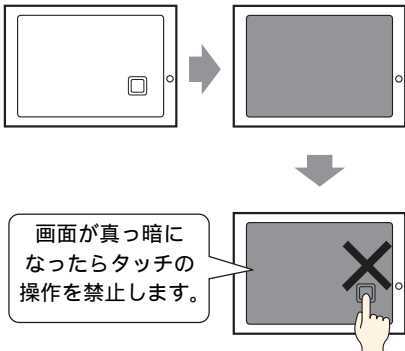
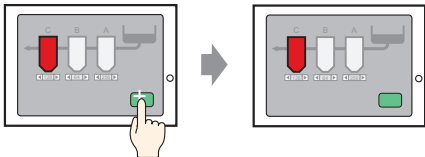
表示器の画面や操作に関する設定ができます。

できること	設定手順
• 表示器の輝度、コントラストの調整	☞「2.3.1 明るさ（輝度、コントラスト）を調整したい」（2-23 ページ）
• 表示器の時刻の設定	☞「2.3.2 表示器の時刻を調整したい」（2-24 ページ）
• スタンバイモードの設定	☞「2.3.3 一定の時間がたつと画面を消したい」（2-25 ページ）
• 表示器の起動タイミングの設定	☞「2.3.4 電源を入れてから本体が起動するまでの時間を設定したい」（2-26 ページ）

次のページに続きます。

できること	設定手順
• 表示器に最初に表示される画面の設定 	☞「2.3.5 電源投入時に最初に表示する画面番号を設定したい」(2-27 ページ)
• タッチ音の有無の設定 	☞「2.3.6 タッチした時の音を消したい」(2-28 ページ)
• オフラインモードのメニューを英語で設定 メニューを英語に切換 	☞「2.3.7 システムメニューやオフラインモードメニューの表示を英語にしたい」(2-29 ページ)
• タッチの認識タイミングを設定 タッチを押した時にビットをON  タッチを離れた時にビットをON	☞「2.3.8 タッチを認識するタイミングを変更したい」(2-30 ページ)

次のページに続きます。

できること	設定手順
・ バックライト切れ時の誤動作防止設定 バックライトが切れた！ 	☞「2.3.9 バックライトが切れたときの誤動作を防止したい」(2-31 ページ)
・ タッチした位置を消去 (GP3200 シリーズをご利用の場合) 	☞「2.3.10 タッチした位置を消したい (GP3200 シリーズをご利用の場合)」(2-32 ページ)

2.3.1 明るさ（輝度、コントラスト）を調整したい

GP の画面の明るさ（輝度、コントラスト）を調整する設定を行います。

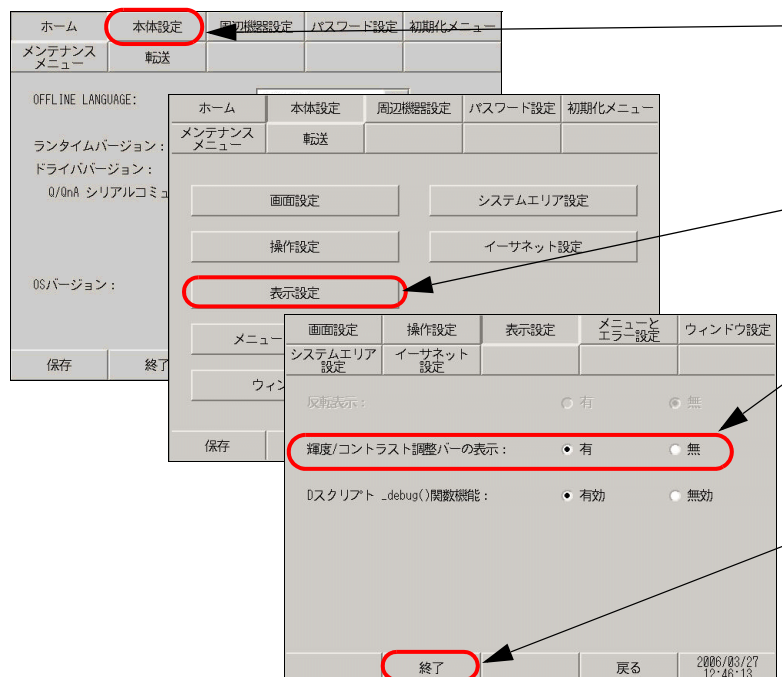
MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 表示設定」(2-89 ページ)

■ オフラインモードでの設定

GP の明るさ（輝度、コントラスト）を調整するバーを画面に表示するかどうかを設定します。



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[表示設定]をタッチします。

[表示設定]が開くので[輝度/コントラスト調整バーの表示]で[有]を選択します。

[終了]をタッチしてオフラインモードを終了します。

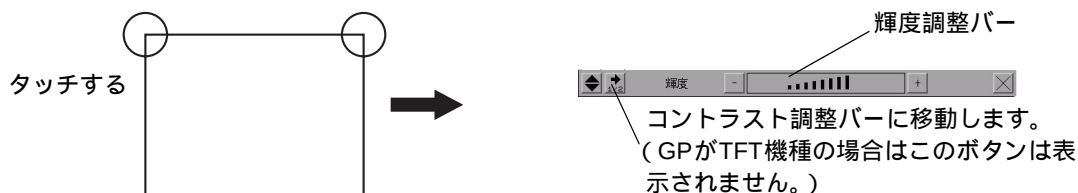
■ 輝度 / コントラスト調整バーの表示

オフラインモードの[表示設定]で[輝度 / コントラスト調整バーの表示]を[有]に設定すると、輝度 / コントラスト調整バーを GP の画面で表示することができます。

重要

- ・ GP 起動中は、このモードには入れません。運転画面が表示されてからこのモードに入ってください。
- ・ 運転中（接続機器と通信中）でもこの操作は可能です。

パネルの右上隅 → 左上隅または左上隅 → 右上隅（縦横 40 ドット以内）の順に 0.5 秒以内にタッチします。



輝度 / コントラスト調整バーの[+][-]で強弱を設定し、[×]で調整を終了します。TFT カラー LCD の機種（AGP-3500T など）では輝度調整のみ設定できます。

輝度 / コントラスト調整モードの終了

輝度 / コントラスト調整バーの[×]をタッチしてください。

2.3.2 表示器の時刻を調整したい

GP に表示される日付、時間を設定します。

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			
OFFLINE LANGUAGE: JAPANESE ランタイムバージョン: 2.0.0 ドライババージョン: 0/0nA シリアルコミュニケーション V1.10.02 OSバージョン: 2.0.0				
保存	終了	取消	2006/09/15 14:24:53	

オフラインモードに入り、コントロールスイッチの時刻表示エリアをタッチすると[時刻の設定]ダイアログボックスが表示されます。

変更したい日付、時刻の単位をタッチし、黒く反転したら下のテンキー数値入力キーで入力します。

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			
時刻の設定				
00	01	02	03	04
05	06	07	08	09
00	01	02	03	04
05	06	07	08	09
CLR	BS	▶	◀	
OK	キャンセル			

入力が完了したら[OK]をタッチし、[時刻の設定]ダイアログボックスを閉じます。

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			
OFFLINE LANGUAGE: JAPANESE ランタイムバージョン: 1.0.1 ドライババージョン: 0/0nA シリアルコミュニケーション V1.00.01 OSバージョン: 1.0.1				
保存	終了	取消	2006/03/27 12:45:32	

[ホーム]の[終了]をタッチし、以上で設定完了です。

重要

- GP に内蔵されている時計には誤差があります。設定した現在時刻をタグ設定などで表示させる場合は、実際の時刻との誤差にご注意ください。常温無通電状態（バックアップ時）での誤差は、1ヶ月±65秒です。温度差や使用年数によっては1ヶ月に-380～+90秒の誤差になります。時計の誤差が問題となるシステムでご使用になる場合、定期的に正確な時間の設定をしてください。
- [RAAA051 バックアップ電池の充電が必要です]というメッセージが表示された場合、GPへ電源を供給し、十分な充電を行ってください。充電は電源投入後、24時間でバックアップ可能なレベルまで充電され、充電を完了するには約96時間（4日間）を必要とします。

2.3.3 一定の時間がたつと画面を消したい

液晶ディスプレイを保護するために、自動的に画面を消す機能（スタンバイモード）があります。スタンバイモードを設定するには以下の順番で「画面設定」を開きます。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.15.1 表示器共通 画面設定」(2-87 ページ)

オフラインモードに入り項目切り替えスイッチから
[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので
[画面設定]をタッチします。

[画面設定]が開くので[スタンバイモード設定]で
[画面OFF]をタッチします。

一定の時間（例：10 分）がたったら画面を消したい場合は下記のように詳細を設定します。

[スタンバイモード設定]で入力枠をタッチするとテンキーが表示されるので「10」と入力し、[ENT]キーをタッチします。

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

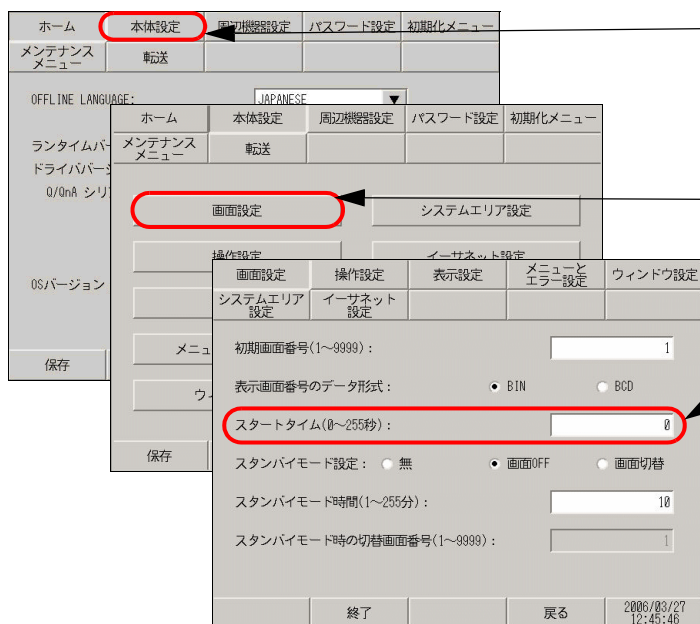
2.3.4 電源を入れてから本体が起動するまでの時間を設定したい

GP の立ち上げ時間の設定です。電源を入れ、接続機器の立ち上げ後に GP を立ち上げるなど、電源投入時間を調整するために設定します。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.15.1 表示器共通 表示設定」(2-89 ページ)

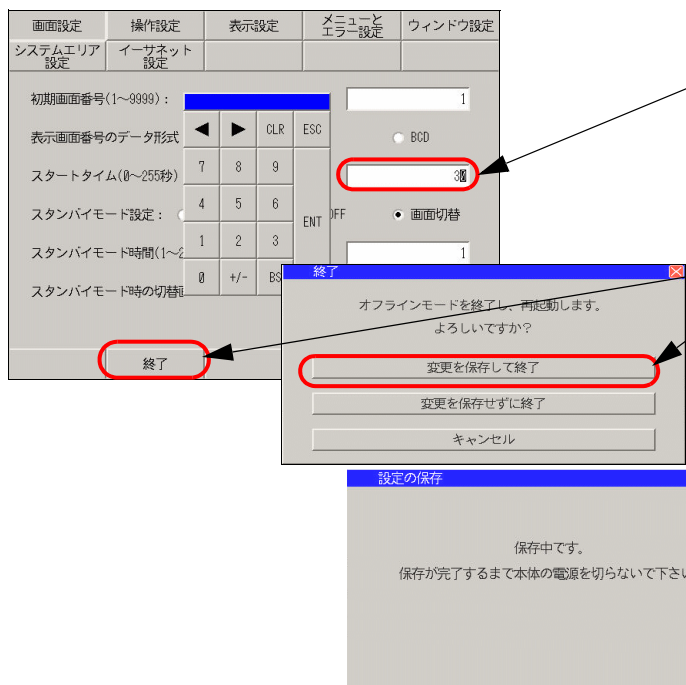


オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[画面設定]をタッチします。

[画面設定]画面が開くので[スタートタイム(0～255秒)]の入力枠をタッチします。

電源投入後、30 秒後に初期画面を表示したい場合は下記のように設定します。



入力枠をタッチするとテンキーが表示されるので「30」と入力し、[ENT]キーをタッチします。

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

再起動後、初期画面を表示するまでの間、で設定したスタートタイムの秒数がカウントダウンされ、画面の右上に表示されます。

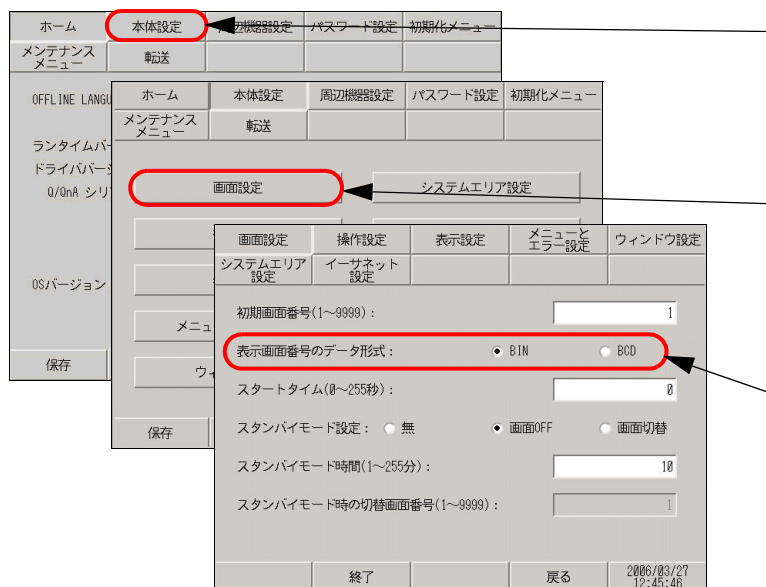
2.3.5 電源投入時に最初に表示する画面番号を設定したい

電源を投入後、最初に表示させたい画面ファイル番号を変更します。

MEMO

・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 表示設定」(2-89 ページ)

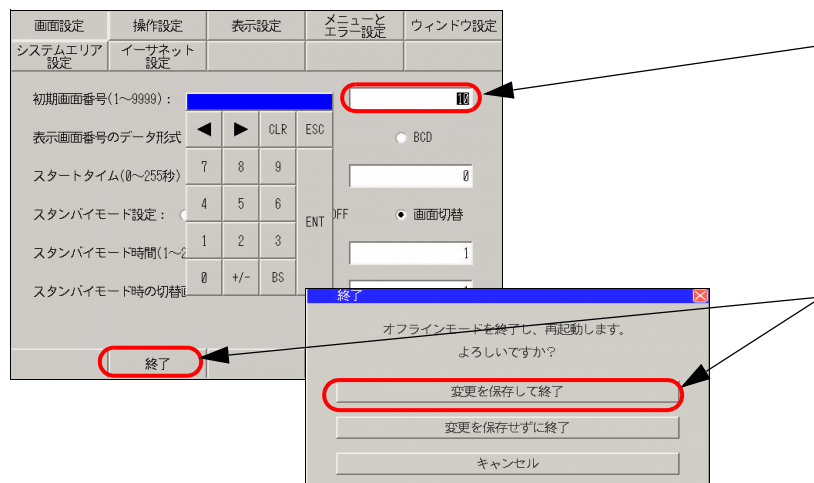


オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[画面設定]をタッチします。

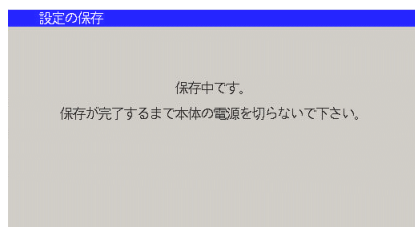
[画面設定]が開くので[表示画面番号のデータ形式]で画面番号のデータ形式を[BIN]、[BCD]から選択します。

電源投入後、最初に表示する画面を（例：表示画面番号のデータ形式 BIN、ベース画面 10）変更したい場合は下記のように設定します。



[初期画面番号(1 ~ 9999)]の入力枠をタッチするとテンキーが表示されるので「10」と入力し、[ENT]キーをタッチします。

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。



[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

2.3.6 タッチした時の音を消したい

画面をタッチした時に内部ブザー音を出すか出さないかの設定を行います。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 操作設定」(2-88 ページ)

■ タッチ音、有効無効の設定

The screenshot shows the settings menu with the following structure:

- Top bar: ホーム, 本体設定 (highlighted), 周辺機器設定, パスワード設定, 初期化メニュー
- Left sidebar: メンテナンスメニュー, 転送, OFFLINE LANGUAGE: JAPANESE, ランタイムバージョン: 2.0.0, ドライババージョン: 0/0nA シリ, OSバージョン, 保存
- Main area:
 - Buttons: 画面設定, システムエリア設定, 操作設定 (highlighted), イーサネット設定
 - Sub-menu:
 - 画面設定, 操作設定 (highlighted), 表示設定, メニューとエラー設定, ウィンドウ設定
 - システムエリア設定, イーサネット設定
 - Settings:
 - タッチパネル検出: ☒ ON ☐ OFF
 - タッチブザーの音: ☒ 有 ☐ 無 (highlighted)
 - 外部ブザー端子への出力: ☒ 有 ☐ 無
 - バックライト切れ検出時のタッチパネル操作: ☒ 操作可能 ☐ 操作禁止
 - Bottom: 終了, 戻る, 2006/03/27 12:45:49

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[操作設定]をタッチします。

[操作設定]が開くので[タッチブザーの音]で[無]を選択します。

The dialog box titled '終了' (End) contains the following text and buttons:

- Text: オフラインモードを終了し、再起動します。よろしいですか？
- Buttons: 変更を保存して終了 (highlighted), 変更を保存せずに終了, キャンセル

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

The dialog box titled '設定の保存' (Save Settings) contains the following text:

- Text: 保存中です。保存が完了するまで本体の電源を切らないで下さい。

[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

2.3.7 システムメニューやオフラインモードメニューの表示を英語にしたい

MEMO

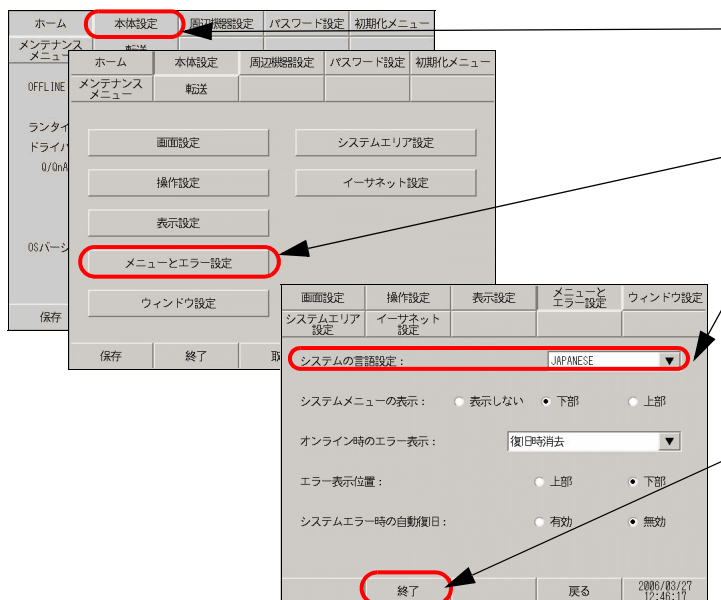
- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 メニューとエラー設定」(2-89 ページ)

☞ 「2.15.1 表示器共通 ■ [ホーム] の設定ガイド」(2-86 ページ)

■ システムメニューやエラーメッセージ

システムメニューやエラーメッセージで表示される文字列の言語を設定します。



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

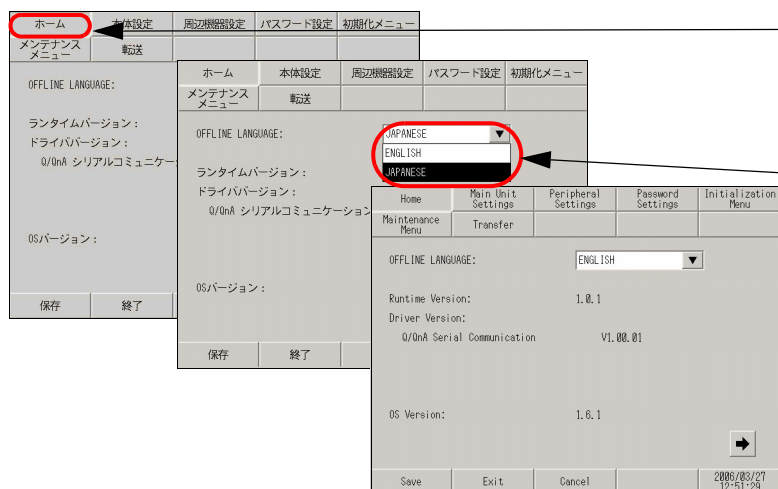
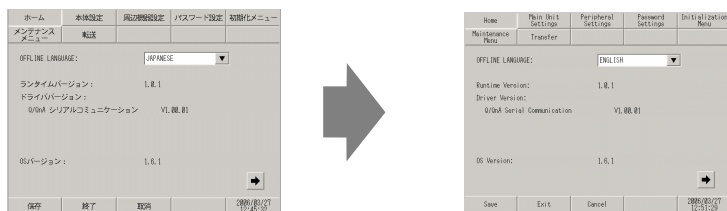
[本体設定]が開くので[メニューとエラー設定]をタッチします。

[メニューとエラー設定]が開くので[システムの言語設定]で▼をタッチして[ENGLISH]を選択します。

[終了]をタッチして変更を保存すると自動的にGPが再起動されます。

■ オフラインモードメニュー

オフラインメニューで表示される文字列の言語を設定します。



オフラインモードに入り[ホーム]が表示されていることを確認します。

[OFFLINE LANGUAGE]で▼をタッチし、[ENGLISH]を選択します。

オフラインメニューが英語で表示されます。

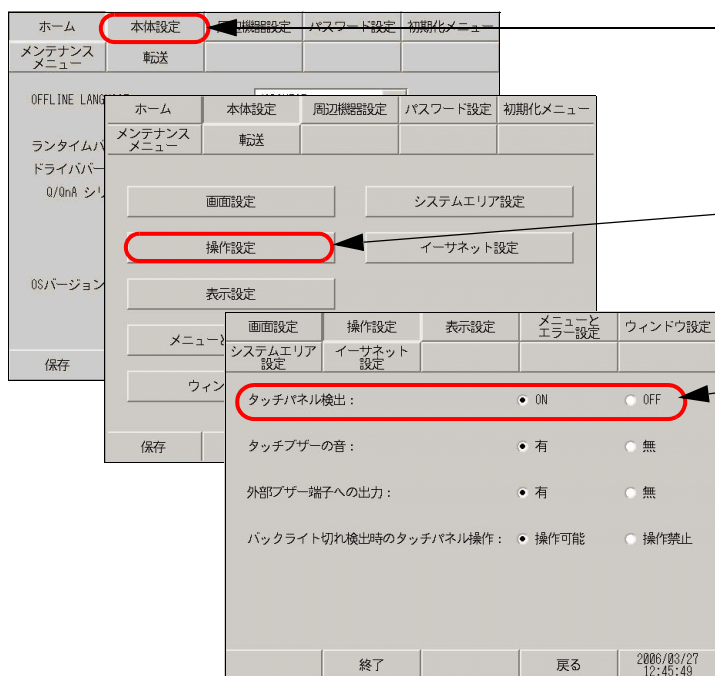
2.3.8 タッチを認識するタイミングを変更したい

タッチが押された時のタイミングでタッチを検出するか、タッチをはなした時にタッチを検出するかを設定します。

MEMO

・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 操作設定」(2-88 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

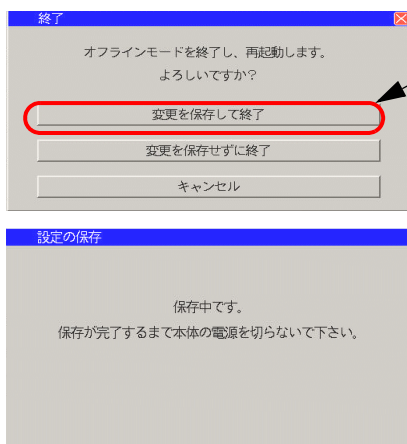
[本体設定]が開くので[操作設定]をタッチします。

[操作設定]が開くので[タッチパネル検出]で[ON]、[OFF]を選択します。

ON タッチが押された時にタッチを検出します。

OFF タッチをはなした時にタッチを検出します。

モーメンタリ動作の場合は、タッチパネル検出の設定に関係なくタッチが押された時にタッチ検出されます。リピート動作の場合、タッチパネル検出は無効になります。



[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

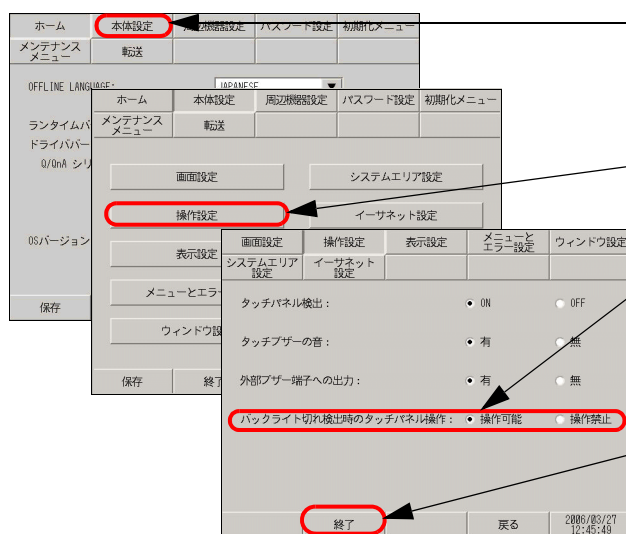
2.3.9 バックライトが切れたときの誤動作を防止したい

バックライト切れを検出した場合のタッチパネル操作を有効にするか無効にするかを設定します。
[無効]にするとバックライトが切れた際にタッチパネル操作を受け付けなくなり、誤動作を防止することができます。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 操作設定」(2-88 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので
[操作設定]をタッチします。

[操作設定]が開くので
[バックライト切れ検出時のタッチパネル操作]から[操作可能]、[操作禁止]を選択します。

[終了]をタッチして変更を保存すると自動的にGPが再起動されます。

操作可能 ... バックライトが切れた場合でも、タッチで操作できます。

操作禁止 ... バックライトが切れた場合、タッチ操作を受け付けなくなり、誤動作を防止することができます。

MEMO

- ・ バックライト切れを検出するとステータス LED は橙色に点灯します。
- ・ GP3000 シリーズではバックライト (CCFL) を使用しています。バックライトが切れた場合には、バックライト切れの検出を行い、タッチパネル操作を無効にできます。また、バックライトを 2 本使用している機種では 1 本が切れた場合でもバックライト切れが検出されます。
- ・ バックライト切れを検出するとシステムデータエリアの「ステータス」のビット 10⁻¹ が ON になります。
- ・ 「システムメニューの表示」を「下部」または「上部」に設定している場合、メニューバーを表示させることができます。(画面は真っ暗で見えない状態ですが、メニューバーでのタッチパネル操作は有効です。)
- ・ オフラインモード中にバックライトが切れた場合は、ここでの設定に関わらず、タッチパネル操作は有効です。

- 1 ダイレクトアクセス方式でご使用の場合は +6、メモリリンク方式でご使用の場合は 11 が対象のアドレスになります。

重要

- ・ バックライト切れは、消費する電流を監視しています。バックライトの故障状態によっては、検出できない場合や完全にバックライトが切れる前に検出される場合があります。

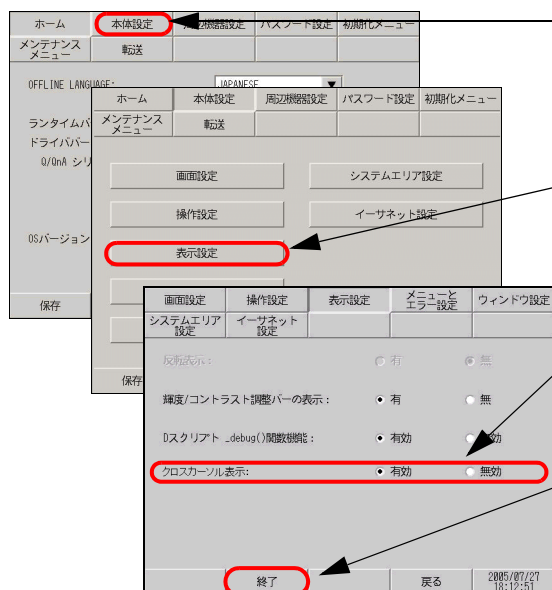
2.3.10 タッチした位置を消したい (GP3200 シリーズをご利用の場合)

画面をタッチした位置に「+」(クロスカーソル)が表示され、この「+」と描画位置のずれからタッチキャリブレーションのずれを確認することができます。

クロスカーソルの表示を消したい場合は以下の設定で消すことができます。

設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.9 「GP-32** シリーズ」をご利用の場合 [表示設定]」(2-167 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

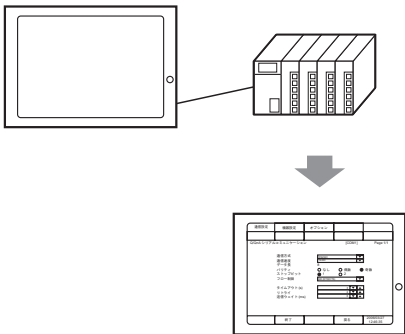
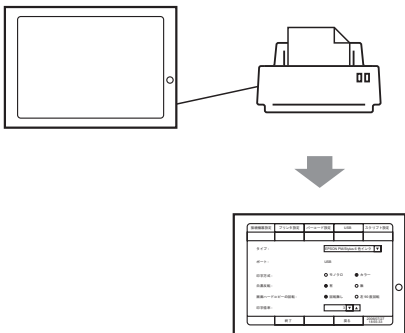
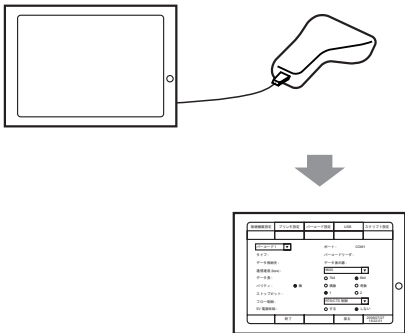
[本体設定]が開くので[表示設定]をタッチします。

[表示設定]が開くので[クロスカーソル表示]で[無効]を選択します。

[終了]をタッチしてオフラインモードを使用します。

2.4 周辺機器設定

周辺機器に関する設定や確認ができます。

できること	設定手順
• 接続している接続機器の通信設定や確認 	☞「2.4.1 接続機器の通信設定を確認したい」(2-34 ページ)
• 接続しているプリンタの印刷方法変更や確認 	☞「2.4.2 プリンタの設定を確認したい」(2-36 ページ)
• 接続しているバーコードの通信設定や確認 	☞「2.4.3 バーコードの設定を確認したい」(2-37 ページ)

2.4.1 接続機器の通信設定を確認したい

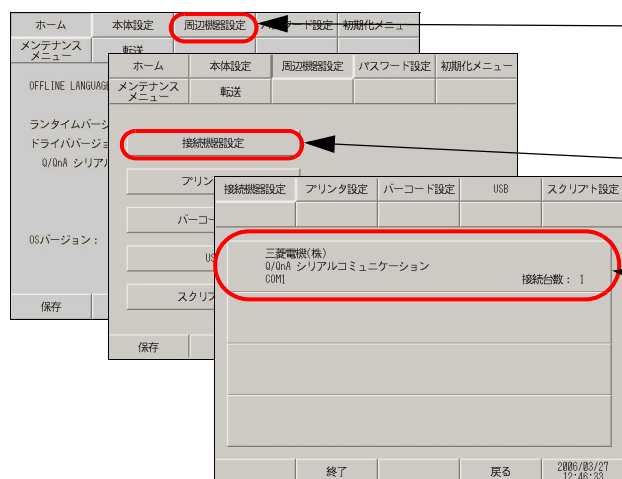
接続機器の通信の設定や確認ができます。接続機器の通信設定と合わせるようにしてください。選択された項目は接続機器によって異なります。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.15.1 表示器共通 接続機器設定」(2-97 ページ)

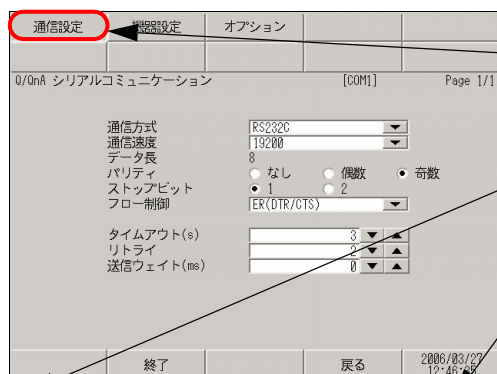
■ シリアル接続



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[接続機器設定]をタッチします。

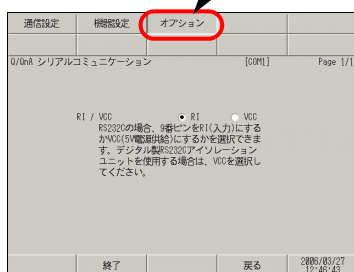
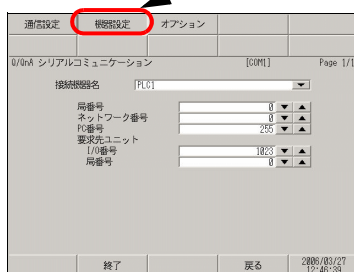
[接続機器設定]が開くので詳細設定を確認、または変更する場合は接続機器の項目をタッチします。



- ・ [通信設定]
[通信設定]をタッチすると、通信するための設定を行えます。

- ・ [機器設定]
[機器設定]をタッチすると、各接続機器に応じた内容を設定できます。

- ・ [オプション]
RS-232C を使用の場合 9 番ピンの信号を変更する設定を行えます。

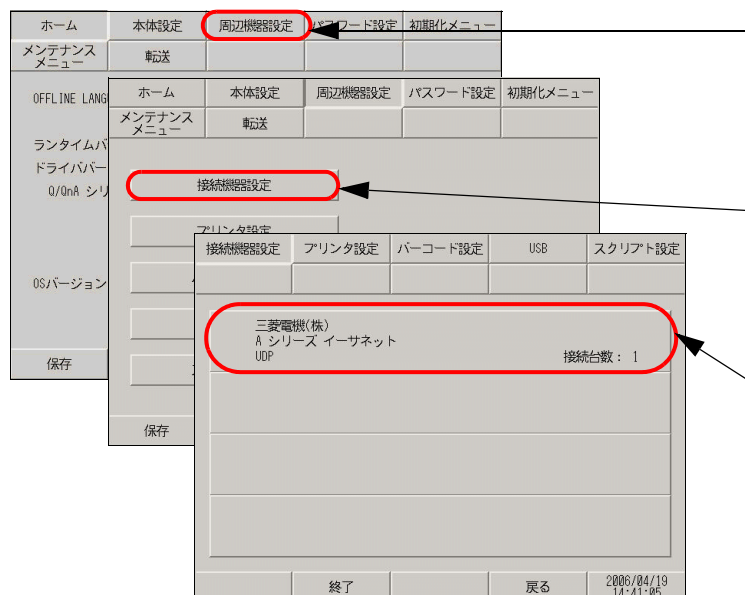


設定を変更した場合、[終了]をタッチして変更を保存します。保存した後は、自動的にGPが再起動されます。

MEMO

- ・ [通信設定] [機器設定] [オプション] の設定内容は各接続機器シリーズにより異なります。ご使用になる接続機器の「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。ただし、[受信タイムアウト]、[リトライ]、[送信ウェイト]は初期設定の状態でご使用になることをおすすめします。

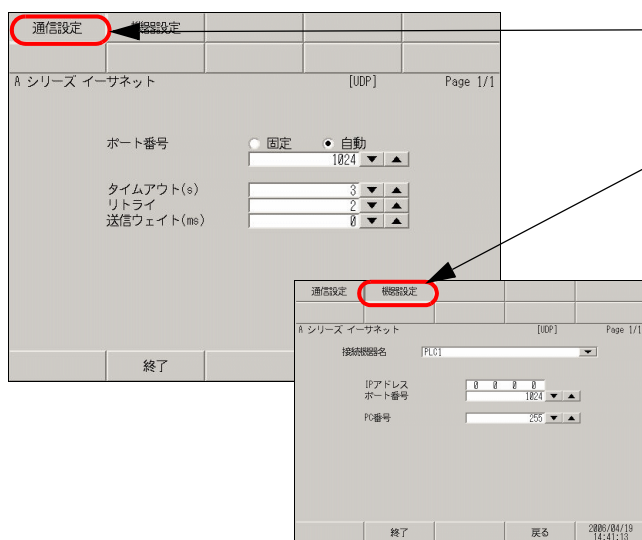
■ イーサネット接続



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[接続機器設定]をタッチします。

[接続機器設定]が開くので詳細設定を確認、または変更する場合は接続機器の項目をタッチします。



・ [通信設定]
[通信設定]をタッチすると、通信するための設定を行えます。

・ [機器設定]
[機器設定]をタッチすると、各接続機器に応じた内容を設定できます。

設定を変更した場合、[終了]をタッチして変更を保存します。保存した後は、自動的にGPが再起動されます。

MEMO

- ・ [通信設定] [機器設定] の設定内容は各接続機器シリーズにより異なります。ご使用になる接続機器の「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。ただし、[受信タイムアウト]、[リトライ]、[送信ウェイト]は初期設定の状態でご使用になることをおすすめします。

2.4.2 プリンタの設定を確認したい

プリンタの設定を確認する画面を開く手順をご説明します。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 プリンタ設定」(2-98 ページ)

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[プリンタ設定]をタッチします。

[プリンタ設定]が開くので設定を確認、または変更する項目をタッチします。

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

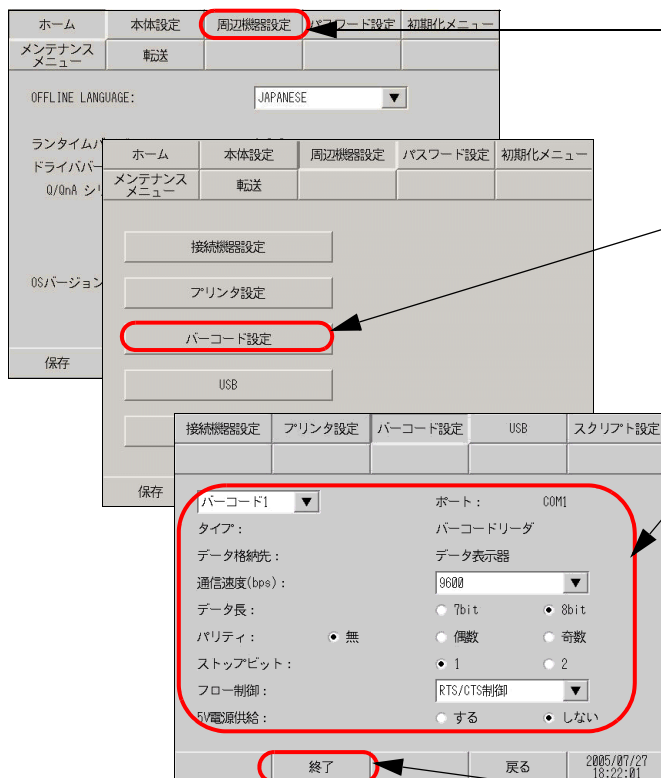
2.4.3 バーコードの設定を確認したい

バーコードの設定を確認する画面を開く手順をご説明します。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

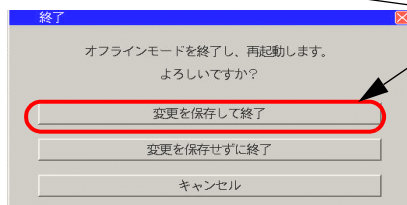
☞「2.15.1 表示器共通 バーコード設定」(2-99 ページ)



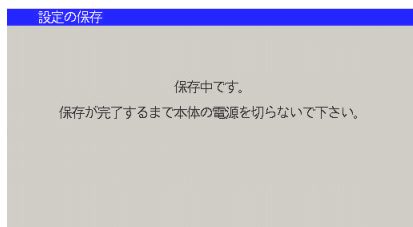
オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[バーコード設定]をタッチします。

[バーコード設定]が開くので設定を確認、または変更する項目をタッチします。



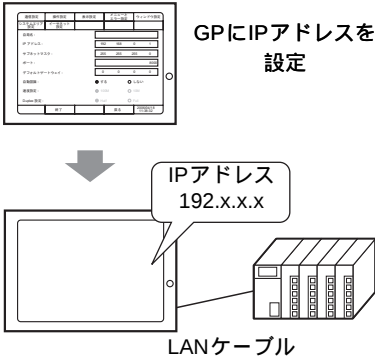
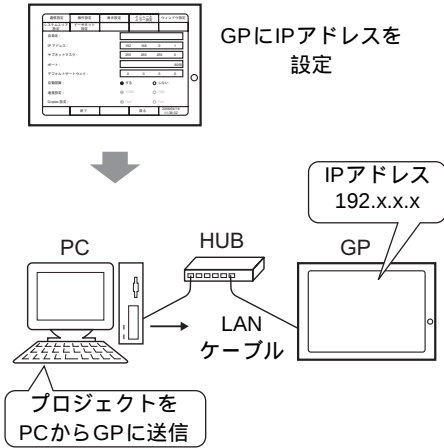
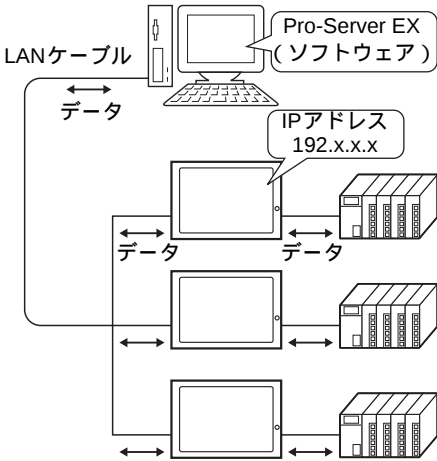
[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。



[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

2.5 イーサネット設定

下記のような通信時に表示器に IP アドレスを設定します。

できること	設定手順
接続機器とイーサネットで通信する場合  プロジェクトファイルを転送する場合  Pro-Server EX 使用時に通信する場合 	☞ 「2.5.1 表示器にIPアドレスを設定したい」(2-39 ページ)

2.5.1 表示器に IP アドレスを設定したい

イーサネットに関する設定を行います。ここでのイーサネット情報は、接続機器とイーサネットで通信する場合や、プロジェクトファイル転送、Pro-Server EX 使用時の通信に関する設定です。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.15.1 表示器共通 イーサネット設定」(2-94 ページ)

ホーム 本体設定 周辺機器設定 パスワード設定 初期化メニュー

メンテナンスメニュー 転送

OFFLINE LANGUAGE: JAPANESE

ランタイムドライバ Q/OnA S

OSバージョン

画面設定 システムエリア設定

操作設定 イーサネット設定

表示設定

メニューとエラー設定

保存

画面設定 操作設定 表示設定 メニューとエラー設定 ウィンドウ設定

システムエリア設定 イーサネット設定

保存

自局名:

IPアドレス: 192 168 0 100

サブネットマスク: 255 255 255 0

ポート: 8000

デフォルトゲートウェイ: 0 0 0 0

自動認識: する (選択) しない

速度設定: 100M (選択) 10M

Duplex設定: Half (選択) Full

終了 戻る 2006/04/18 11:38:32

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[イーサネット設定]をタッチします。

[イーサネット設定]が開きます。IPアドレス入力枠をタッチするとテンキーが表示されるのでIPアドレスを入力します。(例: 192.168.0.1) IPアドレスの設定等についてはネットワーク管理者の方にご連絡ください。

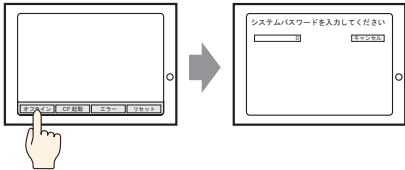
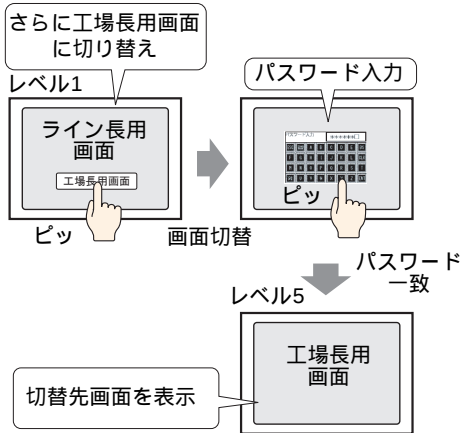
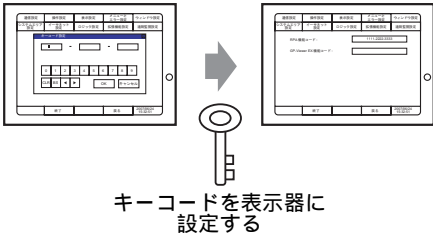
同様に、[サブネットマスク]、[ポート]¹、[デフォルトゲートウェイ]を設定します。

¹ ここで設定する[ポート]番号はイーサネット経由でのセットアップやプロジェクトファイル転送、Pro-Server EX 使用時の通信の際に設定するポート番号です。初期値[8000]のままご使用ください。

[終了]をタッチして変更を保存すると自動的にGPが再起動されます。

2.6 パスワード、ライセンス設定

オフラインモードに入るとき、メモリや CF カードの初期化や各画面操作のパスワードを設定できます。

できること	設定手順
初期化やオフラインモードに入る場合のパスワードを設定 	☞「2.6.1 他の人がオフライン設定を変更できないようにしたい」(2-41 ページ)
権限別に操作できる画面を設定 	☞「2.6.2 権限別に操作できる画面を設定したい」(2-42 ページ)
GP-Viewer EX や RPA 機能のライセンスを設定 	☞「2.6.3 GP-Viewer EX や RPA のライセンスを設定したい」(2-43 ページ)

2.6.1 他の人がオフライン設定を変更できないようにしたい

オフラインモードに入る時や、メモリの初期化を行う場合に入力するパスワードを設定します。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 システムパスワード」(2-102 ページ)

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[パスワード設定]をタッチします。

[パスワード設定]が開くので[システムパスワード]をタッチします。

[システムパスワード]が開きます。入力枠をタッチするとテンキーが表示されるのでパスワードを入力します。
(例：1234)

確認のため再度パスワードを入力します。

[パスワードの保存]ダイアログボックスが表示されるので[はい]をタッチします。自動的にGPが再起動され、設定完了です。

2.6.2 権限別に操作できる画面を設定したい

レベル 15 のパスワードを入力すると、レベル 1 からレベル 15 までのパスワードが変更できるようになります。各レベルのパスワードを変更する際は、現在設定されているパスワードを入力後に変更したいパスワードを入力します。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 セキュリティパスワード」(2-102 ページ)

重要

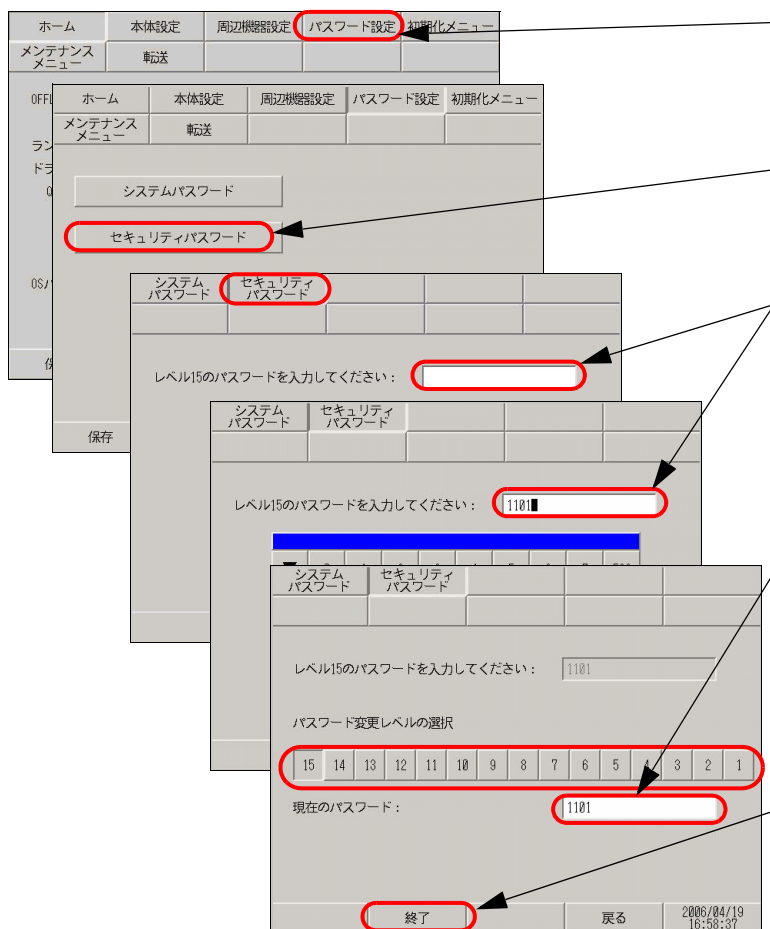
- ・ GP-Pro EX でレベル 15 のセキュリティパスワードが設定されていない場合、オフラインモードではセキュリティパスワードの設定変更はできません。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21.3 さらに、権限により使える画面を制限したい」(21-7 ページ)

■ GP-Pro EX の設定

- 1 GP-Pro EX で [共通設定 (R)] メニューの、[セキュリティ設定 (O)] から、[パスワード設定 (P)] を選択します。パスワード設定画面が開くので [セキュリティ機能] を使用するにチェックを入れ [レベル 15] にパスワードを設定します。
- 2 1 で設定したプロジェクトファイルを GP に転送します。

■ オフラインモードの設定



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [パスワード設定] をタッチします。

[パスワード設定] が開くので [セキュリティパスワード] をタッチします。

[セキュリティパスワード] が開きます。入力枠をタッチするとテンキーが表示されるので GP-Pro EX で設定したパスワードを入力します。(例: 1101)

[パスワード変更レベルの選択] でレベルの番号をタッチして、パスワードを変更します。パスワードは半角英数8文字以内で入力します。

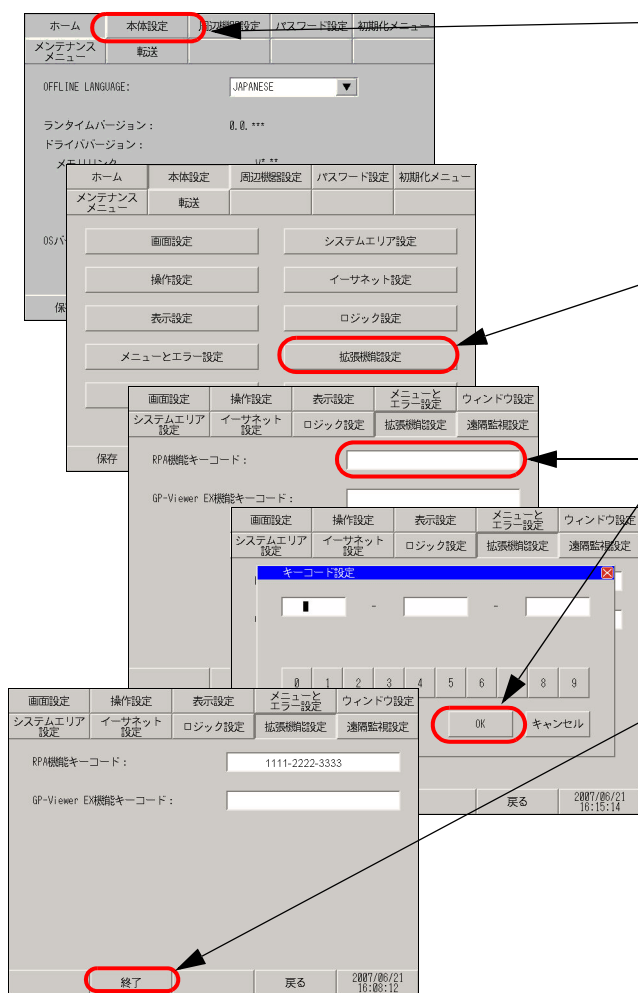
[終了] をタッチして変更を保存します。保存後は自動的に GP が再起動されます。

2.6.3 GP-Viewer EX や RPA のライセンスを設定したい

RPA 機能や GP-Viewer EX 機能を使用するためのライセンスを設定します。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。
- ☞ 「2.15.1 表示器共通 拡張機能設定」(2-95 ページ)
- ・ RPA 機能、GP-Viewer EX 機能を使用するためには事前に RPA 専用キーコード (型式: EX-RPA) GP-Viewer EX 専用キーコード (型式: EX-VIEWER-LICENSE) の購入が必要です。



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[拡張機能設定]をタッチします。

[拡張機能設定]が開きます。[RPA機能コード]の入力枠をタッチするとテンキーが表示されるのでキーコードを入力し、[OK]をタッチします。
(例: [RPA機能キーコード]1111-2222-3333)

[終了]をタッチして変更を保存すると自動的にGPが再起動されます

MEMO

- ・ ライセンスを設定したら、各機能の設定を GP-Pro EX で行ってください。各機能の設定手順、詳細は以下を参照してください。
- ☞ RPA 機能 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「35.3.2 設定手順」(35-6 ページ)
- ☞ GP-Viewer EX 機能 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「36.5.2 設定手順」(36-21 ページ)

2.7 メモリやCFカードの初期化

メモリやCFカードのデータを初期化できます。初期化できるデータは下記のとおりです。

できること	設定手順
・ ユーザメモリ (FEPROM) の初期化	☞ 「2.7.1 ユーザメモリ (FEPROM) の初期化をしたい」 (2-45 ページ)
・ CF カードの初期化	☞ 「2.7.2 CF カードを初期化したい」 (2-46 ページ)
・ バックアップ SRAM の初期化	☞ 「2.7.3 バックアップSRAMの初期化をしたい」 (2-47 ページ)

2.7.1 ユーザメモリ (FEPROM) の初期化をしたい

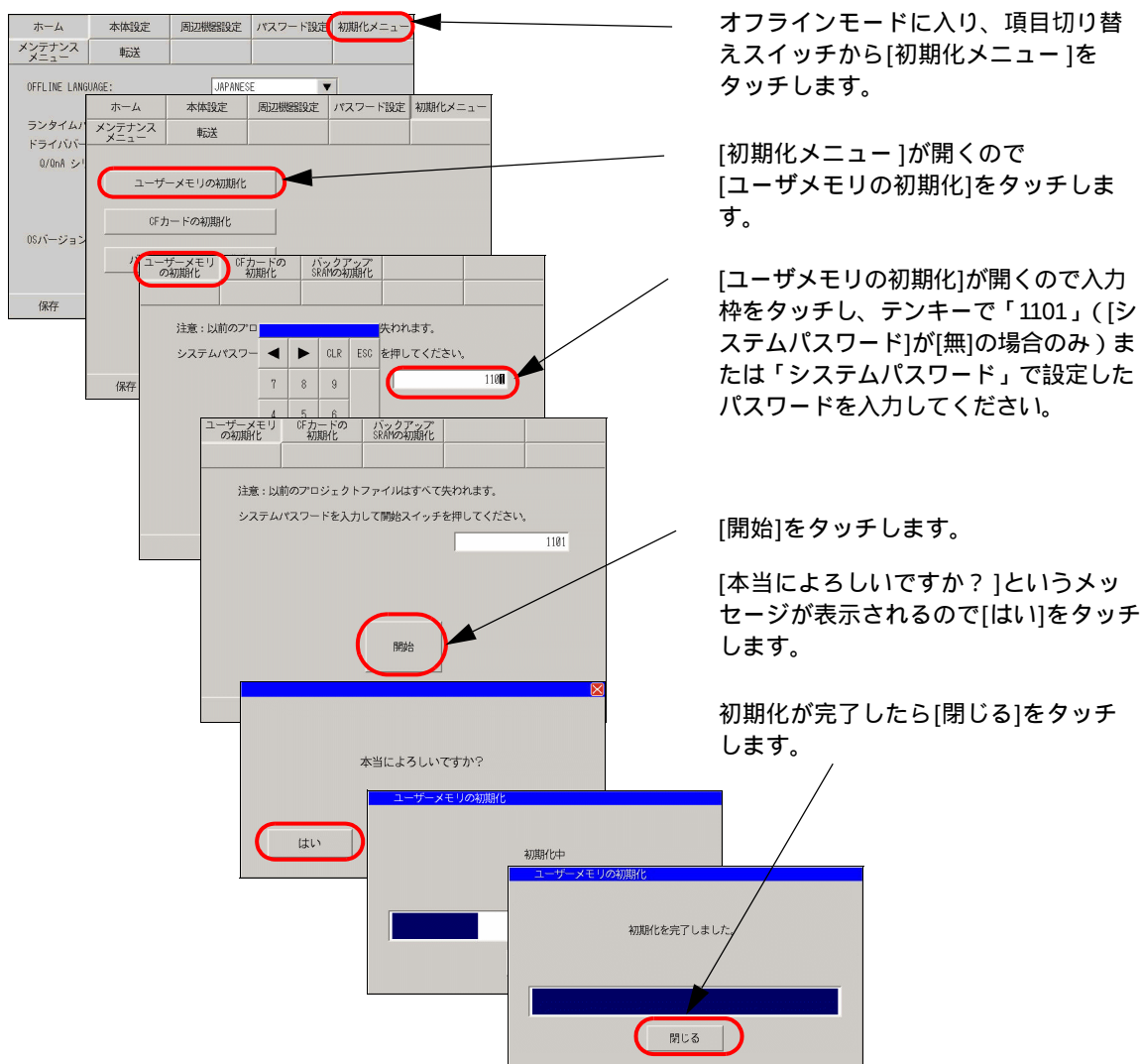
GP のユーザメモリ (FEPROM) に格納されているデータをすべて消去します。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。
- ☞ 「2.15.1 表示器共通 ユーザメモリの初期化」(2-103 ページ)
- ・ 初期化に数十秒かかる場合があります。

重要

- ・ 「開始」スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。
- ・ バックアップ SRAM のデータも消去されます。
- ・ 初期化を行っても、GP のシステム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データは消去されません。
- ・ ロジックプログラムの保持データもすべて消去されます。



2.7.2 CFカードを初期化したい

GP に装着された CF カードのデータをすべて消去します。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 CF カードの初期化」(2-104 ページ)

重要

- ・ 「開始」スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[初期化メニュー]をタッチします。

[初期化メニュー]が開くので[CFカードの初期化]をタッチします。

[CFカードの初期化]が開くので入力枠をタッチし、テンキーで「1101」([システムパスワード]が[無]の場合のみ)または「システムパスワード」で設定したパスワードを入力してください。

[開始]をタッチします。

[本当によろしいですか?]というメッセージが表示されるので[はい]をタッチします。

初期化が完了したら[閉じる]をタッチします。

2.7.3 バックアップSRAMの初期化をしたい

GPのバックアップSRAMに格納されているデータをすべて消去します。

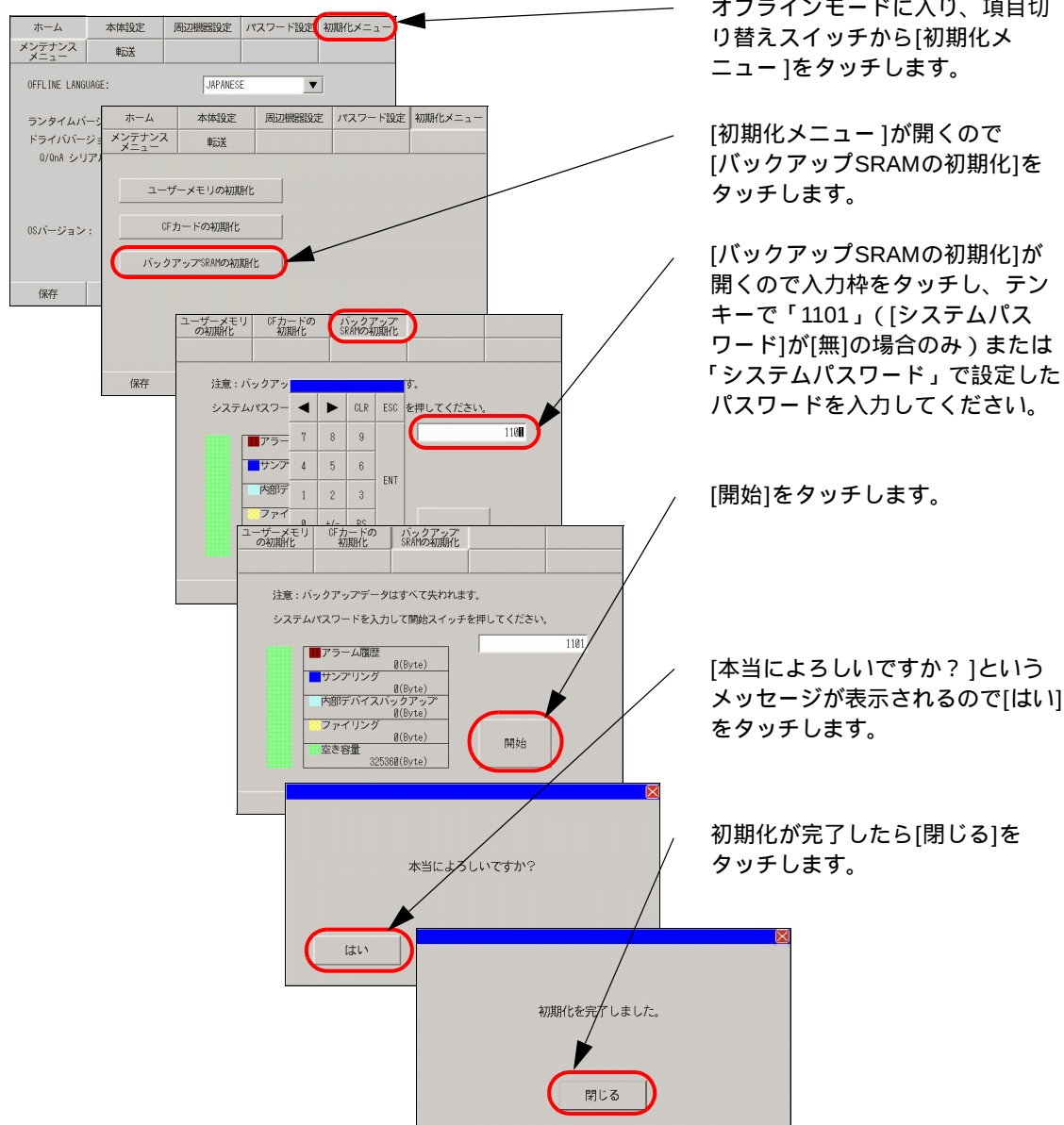
MEMO

- ・設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.15.1 表示器共通 バックアップSRAMの初期化」(2-104 ページ)

重要

- ・「開始」スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。
- ・バックアップしているデータは消去されます。
- ・初期化を行っても、システム、通信プロトコル、時刻の設定データ、ロジックプログラムの保持データは消去されません。



2.8 表示器本体の動作チェック

表示器本体が正常に動作しているか下記のようなチェックができます。

MEMO

・ 液晶ディスプレイの表示、フォントの表示、GP 本体のメモリ情報、オフラインモードの色調などのチェック項目については下記を参照してください。

☞「2.15.1 表示器共通 ■ [メンテナンスメニュー] の設定ガイド」(2-105 ページ)

できること	設定手順
・ タッチパネルチェック	☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ■ タッチパネルチェック」(2-49 ページ)
・ アナログタッチパネルの補正	☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ■ キャリブレーション」(2-49 ページ)
・ COM1/COM2/LAN のチェック * COM1 と COM2 の端子をチェックするにはループバックケーブルの作成が必要になります。	☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ■ COM1/COM2/LAN チェック」(2-50 ページ)

2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい

GP のシステムやインターフェイスが正常に動作するかをチェックします。ここでは、[タッチパネルチェック]と[キャリブレーション]、[COM1/COM2/LAN チェック]チェックの手順をご紹介します。

MEMO

- 液晶ディスプレイの表示、フォントの表示、GP 本体のメモリ情報、オフラインモードの色調などのチェック項目については下記を参照してください。

☞「2.15.1 表示器共通 ■ [メンテナンスメニュー] の設定ガイド」(2-105 ページ)

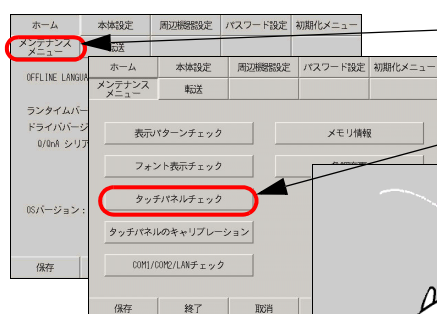
■ タッチパネルチェック

タッチパネルのチェックを行います。タッチした箇所が正しく点灯するかチェックします。

MEMO

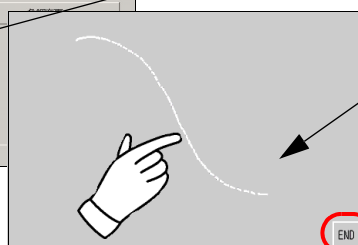
- 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.15.1 表示器共通 タッチパネルチェック」(2-107 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[メンテナンスメニュー]をタッチします。

[メンテナンスメニュー]が開くので[タッチパネルチェック]をタッチします。



[タッチパネルチェック]画面が開くのでタッチして入力された箇所にドット表示されるか、表示反転を見て確認します。

チェックを終了するためには[END]をタッチします。

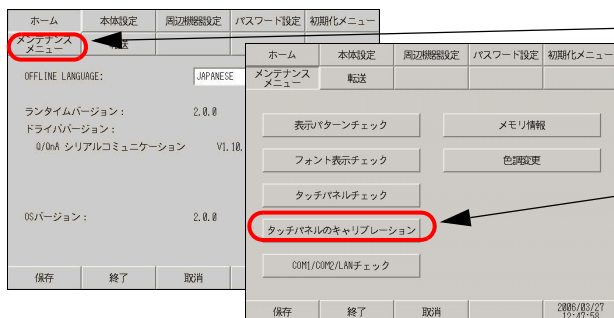
■ キャリブレーション

アナログタッチパネルの補正 (キャリブレーションの設定) を行います。

MEMO

- 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

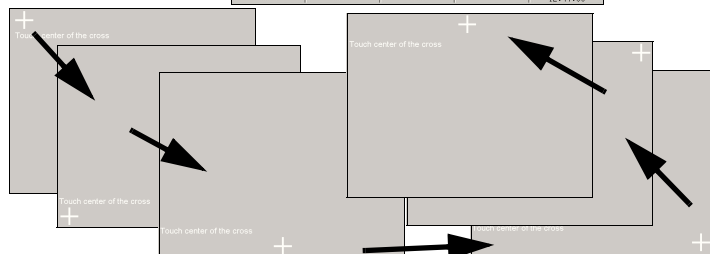
☞「2.15.1 表示器共通 タッチパネルのキャリブレーション」(2-107 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[メンテナンスメニュー]をタッチします。

[メンテナンスメニュー]が開くので[タッチパネルのキャリブレーション]をタッチします。

[タッチパネルのキャリブレーション]が開き、+マークが表示されるので、このマークが消えるまでタッチしつづけます。



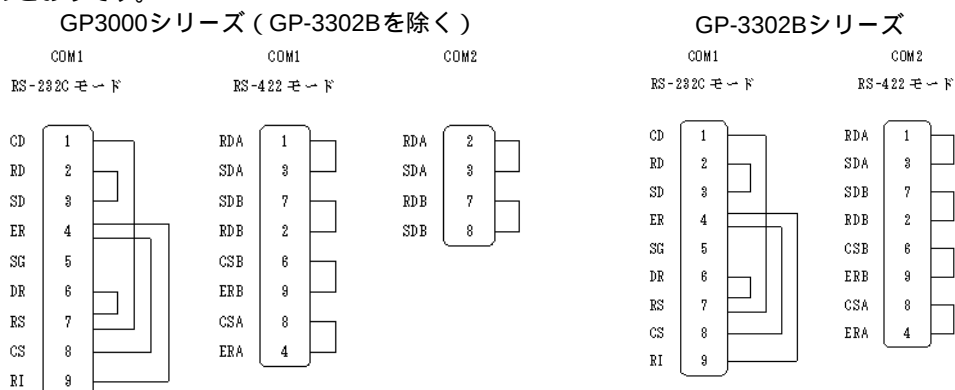
正常に認識できたら[メンテナンスメニュー]画面に戻ります。

■ COM1/COM2/LAN チェック

RS-232C、RS-422、LAN の送受信ラインのチェックです。異常が発生したときにチェックします。
COM1、COM2 のチェックを行うには SIO ケーブルの接続が必要です。

ループバックケーブルの作成

チェックを行うためにループバックケーブルを作成する必要があります。ループバックの配線は以下のとおりです。



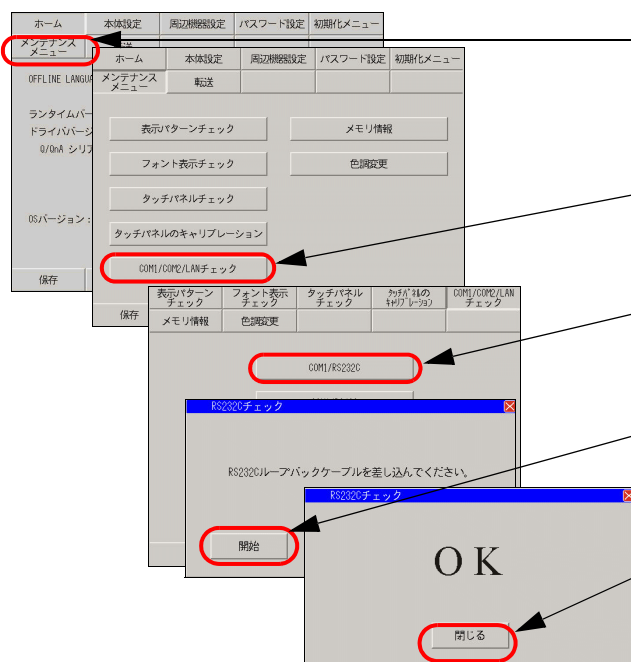
チェック

作成したループバックケーブルをインターフェイスに接続し、チェックを行います。正常なら [OK]、異常なら [NG] が表示されます。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 COM1/COM2/LAN チェック」(2-108 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[メンテナンスメニュー]をタッチします。

[メンテナンスメニュー]が開くので[COM1/COM2/LANチェック]をタッチします。

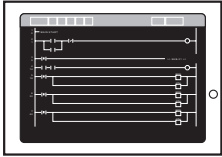
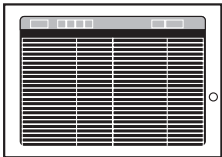
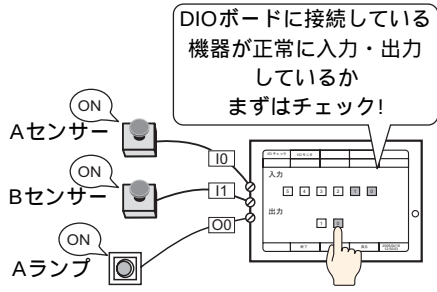
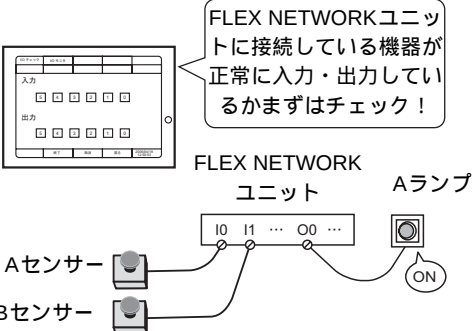
[COM1/COM2/LANチェック]が開くのでチェックするインターフェイスを選択します。(例：COM1/RS232C)

次のようなメッセージが表示されるのでループバックケーブルを差し込んで[開始]をタッチしてください。

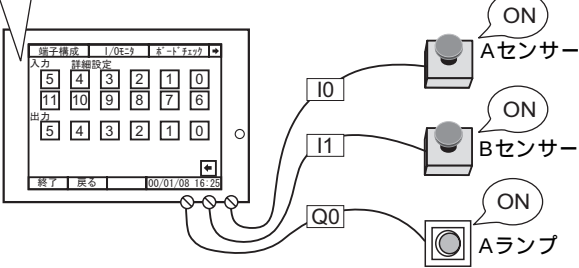
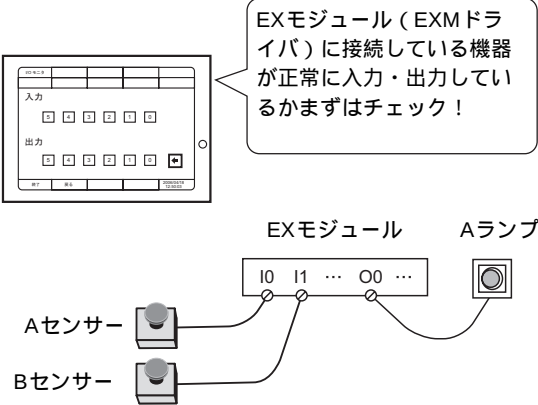
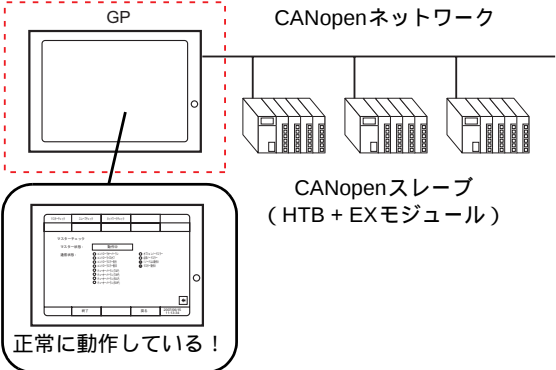
チェックに異常がなければ[OK]、エラーが発生した場合は[NG]と表示されます。チェック確認後は[閉じる]をタッチします。

2.9 ロジック機能の動作（通信）チェック

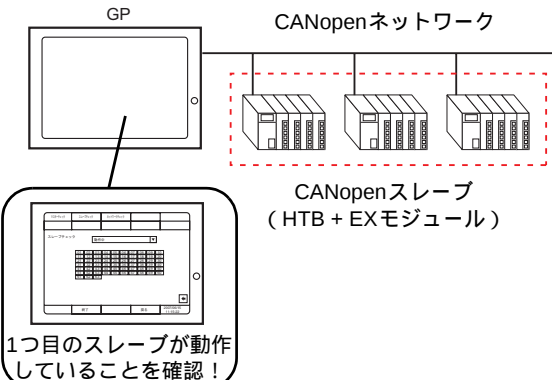
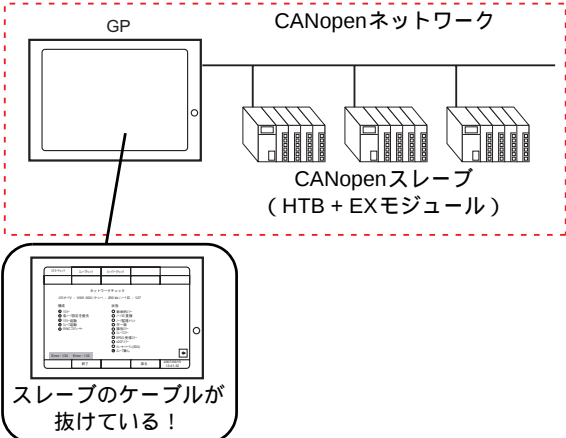
ロジックプログラムが正常に動作するか、また GP3000 シリーズ DIO ボードタイプ、FLEX NETWORK ユニットに接続している機器が正常に動作するかチェックできます。

できること	設定手順
・ ロジックプログラムのモニタ  ロジックプログラムの動作状況と命令で使用する変数の状態をチェックできます。	☞「2.9.1 ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい ■ ロジックモニタ」(2-54 ページ)
・ ロジックプログラムで使用されている変数のアドレスモニタ  ロジックプログラムで使用されている変数の変数名と現在値をチェックできます。	☞「2.9.1 ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい ■ アドレスモニタ」(2-55 ページ)
・ GP3000 シリーズ DIO ボードタイプに接続している機器の動作チェック  DIOボードに接続している機器が正常に入力・出力しているかまずはチェック！	☞「2.9.2 本体 DIO インターフェイスの ON/OFF が正常かチェックしたい」(2-56 ページ)
・ FLEX NETWORK ユニットに接続している機器の動作チェック  FLEX NETWORKユニットに接続している機器が正常に入力・出力しているかまずはチェック！	☞「2.9.3 FLEX NETWORK への通信ができるかチェックしたい」(2-58 ページ)

次のページに続きます。

できること	設定手順
• LT3000 シリーズ本体の DIO インターフェースに接続している機器の動作チェック DIOインターフェース（STDドライバ）に接続している機器が正常に入力・出力しているかまずはチェック！ 	☞「2.9.4 LT3000 シリーズ本体の DIO インターフェースに接続している機器の動作チェックをしたい」(2-60 ページ)
• EX モジュールへの通信ができるかどうかチェック EXモジュール（EXMドライバ）に接続している機器が正常に入力・出力しているかまずはチェック！ 	☞「2.9.5 EX モジュールへの通信ができるかどうかチェックしたい」(2-62 ページ)
• CANopen マスタ対応 GP 側（マスタ側）の通信ができるかどうかチェックしたい GP 	☞「2.9.6 CANopen マスタ対応 GP 側（マスタ側）の通信ができるかどうかチェックしたい」(2-64 ページ)

次のページに続きます。

できること	設定手順
• HTB ユニット側（スレーブ側）のチェック  GP CANopenネットワーク CANopenスレーブ （HTB + EXモジュール） 1つ目のスレーブが動作していることを確認！	☞「2.9.7 HTB ユニット側（スレーブ側）の通信ができるかどうかチェックしたい」（2-65 ページ）
• CANopen 通信時にネットワーク全体の状態をチェックしたい  GP CANopenネットワーク CANopenスレーブ （HTB + EXモジュール） スレーブのケーブルが抜けている！	☞「2.9.8 CANopen 通信時にネットワーク全体の状態をチェックしたい」（2-66 ページ）

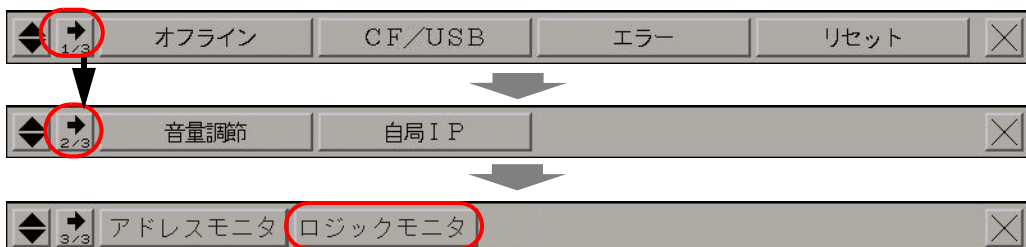
2.9.1 ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい

ロジックプログラムが GP で正常に動作するか、またロジックプログラムの命令を確認します。またロジックプログラムでの動作確認やロジックプログラムで使用されている変数名とその現在値を一覧で確認できます。

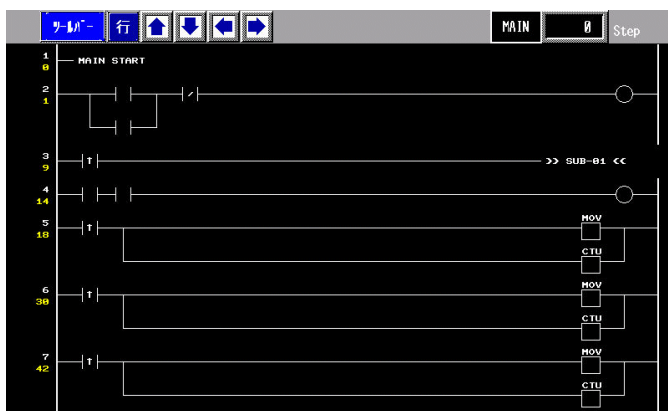
■ ロジックモニタ

ロジック全体のモニタを行います。ロジックモニタではプログラムの動作状況と命令で使用している変数の状態が確認できます。

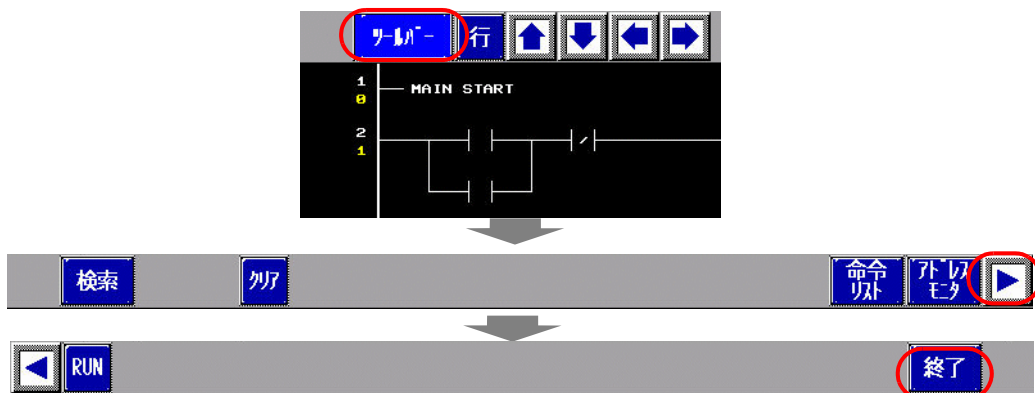
- 1 ロジックプログラム（プロジェクトファイル）を GP に転送します。
- 2 画面の右上隅 → 左下隅または左上隅 → 右上隅の順をタッチしてオフラインのシステムメニューを表示し、3 つめのメニューから「ロジックモニタ」のスイッチをタッチします。



- 3 システムメニューより「ロジックモニタ」のスイッチをタッチします。タッチすると次のような画面が表示されて、転送したロジックプログラムが正常に動作しているか確認できます。



- 4 ロジックモニタを終了します。「ツールバー」をタッチし、ツールバーの「終了」スイッチをタッチすると運転画面に戻ります。



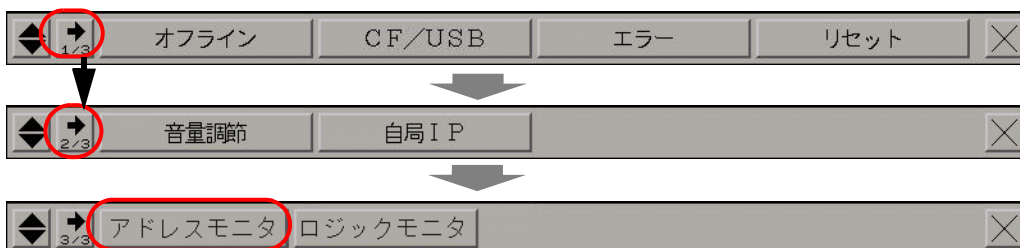
■ アドレスモニタ

ロジックプログラムで使用されている変数のモニタを行います。変数名と現在値が確認できます。また、ロジックプログラムで「アドレス方式」が使用されている場合は、アドレスと現在値が確認できます。

MEMO

- ・ アドレスモニタはロジックプログラムに対応していない機種や、ロジックプログラムを使用しない場合でもシンボル変数の変数が登録されていればモニタできます。

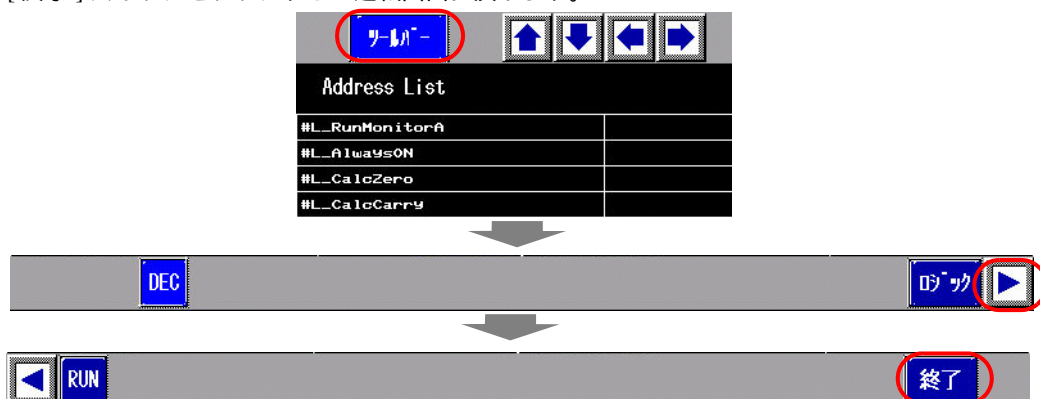
- 1 画面の右上隅 → 左下隅または左上隅 → 右上隅の順をタッチしてオフラインのシステムメニューを表示し、3 つめのメニューから「アドレスモニタ」のスイッチをタッチします。



- 2 タッチすると次のような画面が表示されて、転送したプロジェクトファイルで設定されている変数名と現在値が表示されます。

ツールバー				MAIN	0	Step
Address List						1 / 2
#L_RunMonitorA	OFF	#L_MaxLogicTime				0
#L_AlwaysON	ON	#L_Status				0
#L_CalcZero	OFF	#L_Platform				133140
#L_CalcCarry	OFF	#L_Version				6056
#L_ScanModeSM	OFF	#L_EditCount				0
#L_AutoRunSM	OFF	#L_IDInfoE03				0
#L_InputSM	OFF	#L_ConstantScan				100
#L_FaultRunSM	ON	#L_PersonScan				50
#L_UnlatchClear	OFF	#L_Matchd0Time				5000
#L_LatchClear	OFF	#L_AddressRefreshTime				1010
#L_Clock100ms	ON	#L_Time				0521
#L_Clock1sec	ON	#L_Command				0
#L_Clock1min	OFF	#L_LogiMonitor				1
#L_BatteryErr	OFF	#L_LogiMonStep				0
#L_Error	OFF	#L_I0StatusE03				0
#L_StopPending	OFF	#L_CalcErrCode				0
#L_Fault	OFF	#L_FaultStep				0
#L_I0FaultE03	OFF	#L_FaultLogicScreen				0
#L_ScanTime	0	#L_ForceCount				0
#L_AvgScanTime	0	#L_StopScans				0
#L_MinScanTime	0	#L_BitTran(0)				OFF
#L_MaxScanTime	0	#L_BitTran(1)				OFF
#L_ScanCount	0	#L_BitTran(2)				OFF
#L_LogiTime	0	#L_RealTran(0)				0
#L_AvgLogiTime	0	#L_RealTran(1)				0
#L_MinLogiTime	0	#L_RealTran(2)				0

- 3 アドレスモニタを終了します。「ツールバー」をタッチし、ツールバーの「終了」スイッチをタッチすると運転画面に戻ります。



2.9.2 本体 DIO インターフェイスの ON/OFF が正常かチェックしたい

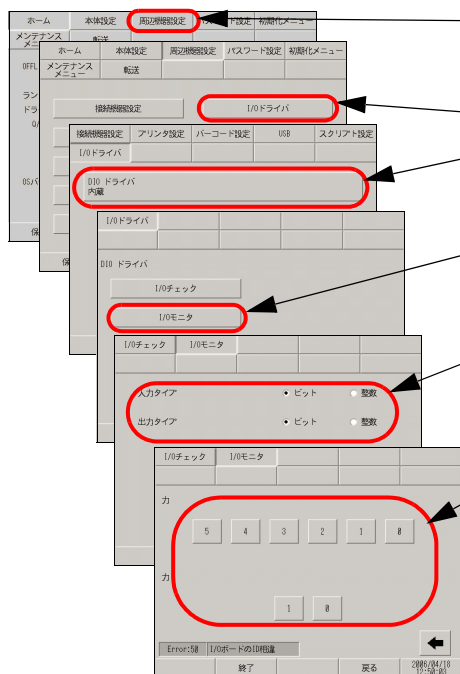
■ 入力、出力が正常に動作するかチェックしよう！

DIO ボードに接続した接続機器が正常に入力、出力しているかチェックし、GP-Pro EX の設定に問題があるのか、GP 側の問題が考えられるのか切り分けします。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定(I/O モニタ)」(2-117 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[I/O ドライバ]をタッチし、[DIO ドライバ]をタッチします。

[I/O ドライバ]が開くので[I/O モニタ]をタッチします。

入出力するデータのタイプを[ビット]、[整数]から選択します。(例：入力、出力ともビット)

入出力ビット表示画面が表示され、[入力]には現在のON/OFF状態が表示されます。[出力]ではタッチするたびにON/OFFを反転します。接続機器が正常に動作する場合はGP-Pro EXでプロジェクトファイルの設定を確認してください。正常に動作しない場合はGPと接続機器の配線を確認して次の項目をチェックします。

■ 内部端子チェックを実行しよう！

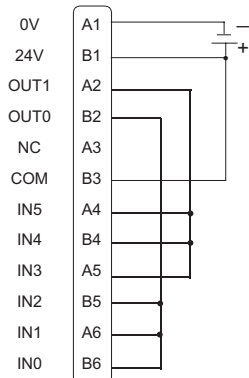
内部端子チェックを実行するには、チェック用のループバックケーブルを作成する必要があります。以下のようにループバックケーブルをまず作成してください。

ループバックケーブルの作成

ループバックの配線は以下のとおりです。

・ シンクタイプ

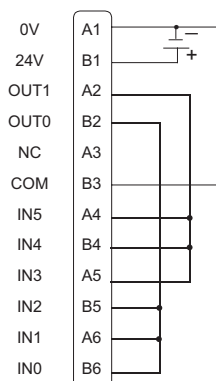
例) OUT0からIN0~IN2へと、OUT1からIN3~IN5への3点ずつチェックする場合



次のページに続きます。

・ ソースタイプ

例) OUT0からIN0~IN2へと、OUT1からIN3~IN5への3点ずつチェックする場合



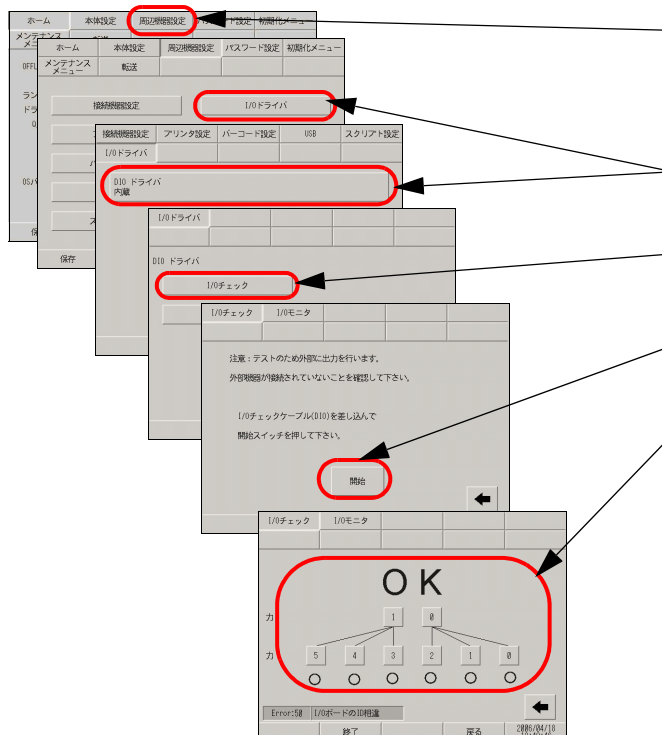
I/O チェック

DIO ボードにループバックケーブルが接続された状態で出力ターミナル 2 点の出力を入力ターミナルの 6 点に入力して出力データと入力データを比較します。データが期待値に一致すると [OK]、一致しないと [NG] が画面に表示され、この結果により接続チェックを行います。

MEMO

・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定(I/O チェック)」(2-116 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[I/O ドライバ]をタッチします。

[I/O ドライバ]が開くので[I/O チェック]をタッチします。

[I/O チェック]が表示されるので[開始]をタッチします。

接続チェック実行画面が表示され、異常がなければ[OK]、エラーがある場合は[NG]と表示されます。[OK]と表示された場合は配線やDIO ボードに接続している機器を確認してください。[NG]と表示された場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.11.3 修理しよう!」(1-193 ページ)

2.9.3 FLEX NETWORK への通信ができるかチェックしたい

■ 入力、出力が正常に動作するかチェックしよう！

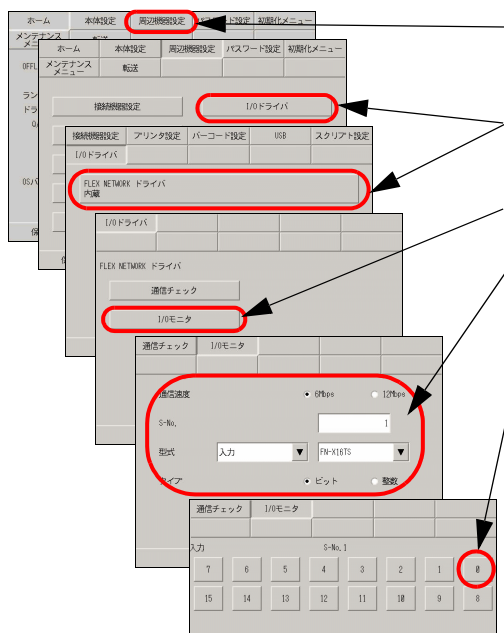
FLEX NETWORK ボードに接続した接続機器が正常に入力、出力しているかチェックします。
GP-Pro EX の設定に問題があるのか、GP 側の問題が考えられるのか切り分けます。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 I/O モニタ」(2-123 ページ)

DIO（例：FN-X16TS）をご利用の場合



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [周辺機器設定] をタッチします。

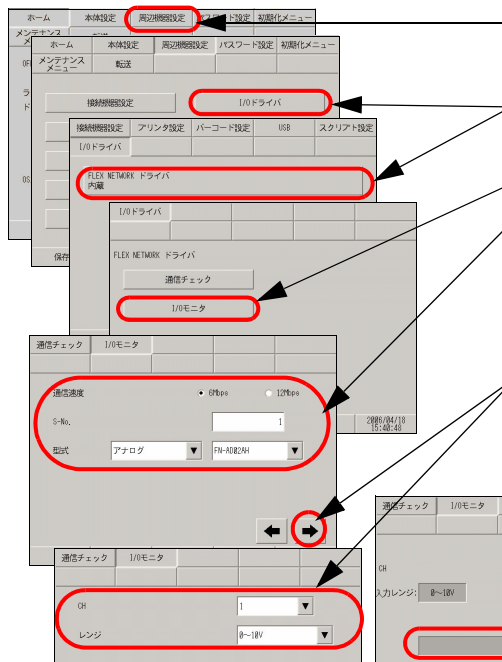
[周辺機器設定] が開くので [I/O ドライバ] をタッチし、
[FLEX NETWORK ドライバ] をタッチします。

[I/O ドライバ] が開くので [I/O モニタ] をタッチします。

[I/O モニタ] が表示されるので [通信速度]、[S-No.]、[型式]、
[タイプ] を設定します。（例：[S-No.]1、[型式]入力、
FN-X16TS、[通信速度]6Mbps、[タイプ]ビット）

ビットモニター画面が表示され、ON/OFF 状態が表示され
ます。スイッチが出た状態が OFF、出していない状態が
ON を示します。接続機器が正常に動作する場合は GP-
Pro EX の設定を確認してください。正常に動作しない場
合は GP と接続機器の配線を確認して次の項目をチェッ
クします。

アナログユニット（例：FN-AD02AH）をご利用の場合



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから
[周辺機器設定] をタッチします。

[周辺機器設定] が開くので [I/O ドライバ] をタッチし、
[FLEX NETWORK ドライバ] をタッチします。

[I/O ドライバ] が開くので [I/O モニタ] をタッチします。

[I/O モニタ] が表示されるので [通信速度]、[S-No.]、[型式]、
[タイプ] を設定します。（例：[S-No.]1、[型式]入力、
FN-AD02AH、[通信速度]6Mbps

矢印スイッチで画面を移動し、[CH(チャンネル)]、
[レンジ] を設定します。

入力モニター画面が表示され、入力状態
が整数で表示されます。接続機器が正
常に動作する場合は GP-Pro EX の設定
を確認してください。正常に動作しな
い場合は GP と接続機器の配線を確認し
て次の項目をチェックします。

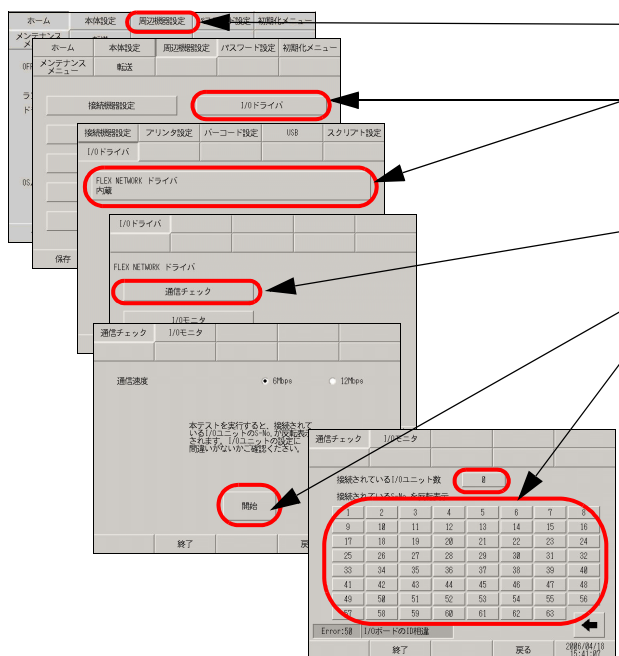
■ 通信チェックでケーブルが正常かチェックしよう！

FLEX NETWORK ボードに接続されている FLEX NETWORK ユニットが通信できているかチェックします。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 通信チェック」(2-122 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[I/Oドライバ]をタッチし、[FLEX NETWORK ドライバ]をタッチします。

[I/Oドライバ]が開くので[通信チェック]をタッチします。

[開始]をタッチします。

通信チェック実行画面が表示され、通信に問題ない場合は、正常に通信されたユニットの合計数値と、ユニットに設定されたS-No.が反転します。正常に通信している場合は配線やFLEX NETWORKユニットに接続している機器を確認してください。正常に通信していない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.11.3 修理しよう！」(1-193 ページ)

以下は通信チェックで対応する I/O ユニット一覧です。

例) FN-X16TS (占有局数 1) 1 台、S-No.1 と FN-XY32SKS (占有局数 4) 1 台、S-No.2 で設定している場合は上記の通信チェック実行画面で 1 ~ 5 の S-No. が反転します。

種類	型式	占有局数
DIO	FN-X16TS	1
	FN-X32TS	2
	FN-Y08RL	1
	FN-Y16SK	1
	FN-Y16SC	1
	FN-XY08TS	1
	FN-XY16SK	1
	FN-XY16SC	1
	FN-XY32SKS	4
アナログ	FN-AD02AH	1
	FN-AD04AH	4
	FN-DA02AH	1
	FN-DA04AH	4
高速カウンタ	FN-HC10SK	8
位置決め	FN-PC10SK	4

2.9.4 LT3000 シリーズ本体の DIO インターフェースに接続している機器の動作チェックをしたい

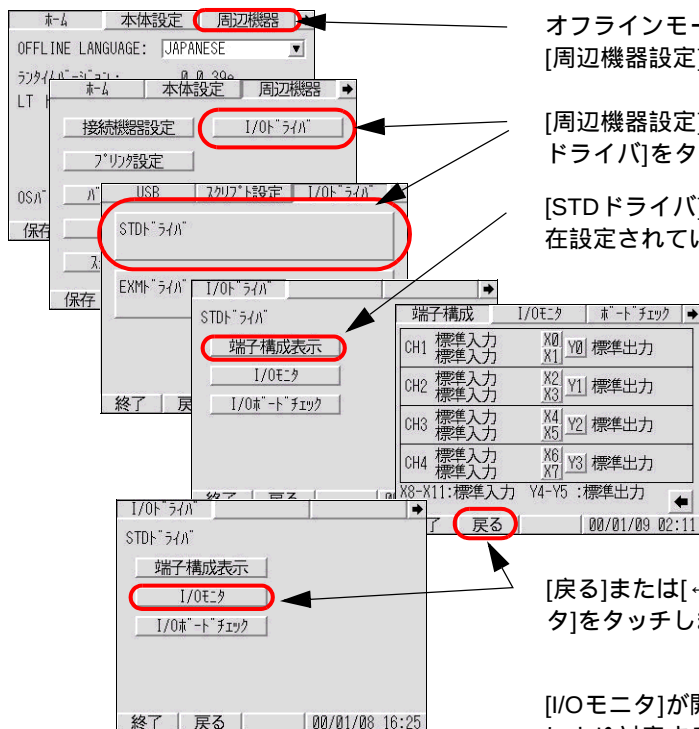
■ 入力、出力が正常に動作するかチェックしよう！

LT の DIO インターフェースの入力、出力をチェックし GP-Pro EX の設定に問題があるのか LT 側の問題が考えられるのかを切り分けます。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合 I/O ドライバ設定 (STD ドライバ)」(2-153 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [周辺機器設定] をタッチします。

[周辺機器設定] が開くので [I/O ドライバ] をタッチし [STD ドライバ] をタッチします。

[STD ドライバ] が開くので [端子構成表示] をタッチし、現在設定されている入力、出力の端子構成を確認します。

MEMO

- ・ LT-33** シリーズをご利用の場合は、入力端子 X0 ~ X15、出力端子 Y0 ~ Y15 の端子構成を表示します。画面の下には [X8-X15 : 標準入力]、[Y4-Y15 : 標準出力] と表示されます。

[戻る] または [-] をタッチして前の画面に戻り、[I/O モニタ] をタッチします。

[I/O モニタ] が開き、[入力] では接続機器からの ON/OFF により対応するビット番号が反転します。[出力] ではそれぞれのビット番号をタッチし対応する出力の ON/OFF を確認できます。



MEMO

- ・ [詳細設定] で入力フィルタ時間を設定している場合は、その設定時間以下の入力は動作しません。

☞「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合・I/O モニタ」(2-154 ページ)

- ・ LT-33** シリーズをご利用の場合は、入力、出力 0 ~ 15 で確認できます。

接続機器が正常に動作する場合は、GP-Pro EX でプロジェクトファイルの設定を確認してください。正常に動作しない場合は LT と接続機器の配線を確認して次の項目をチェックします。

MEMO

- ・ エラーが画面上に表示された場合は、以下を参照してください。

☞「1.7.3 LT3000 シリーズをご利用の場合」(1-170 ページ)

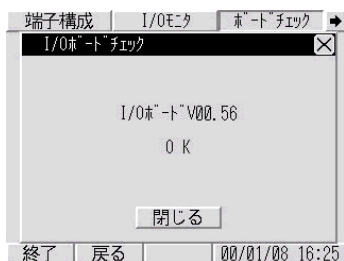
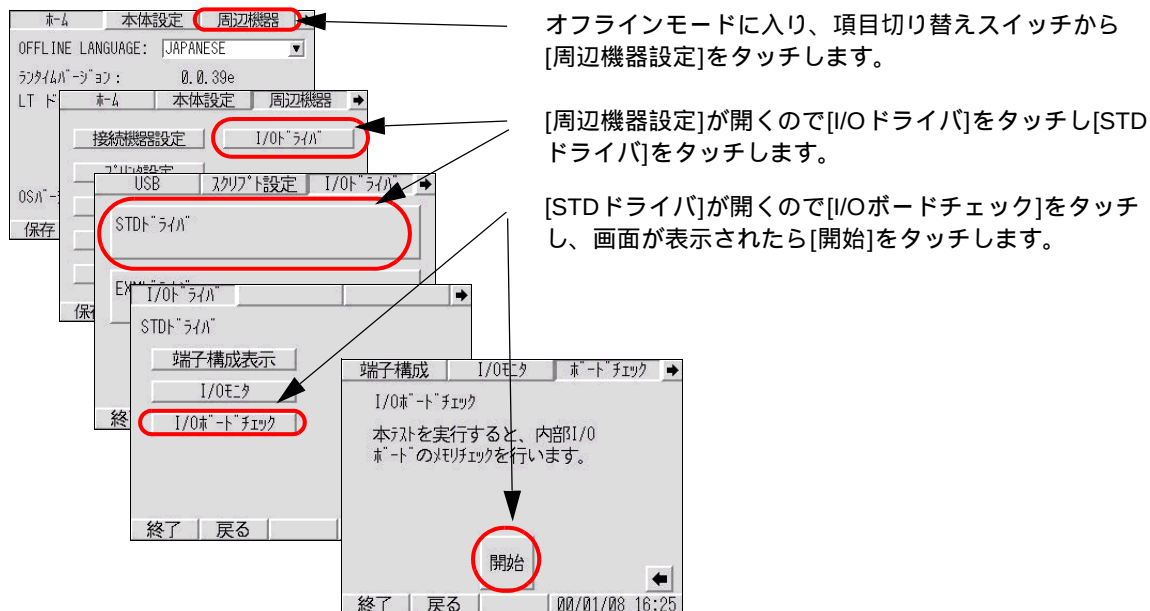
■ I/O ボードのチェックをしたい！

LT 内部の I/O ボードをチェックし、本体に異常がないかを確認します。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合・ボードチェック」(2-155 ページ)



I/O ボードに異常がなければ、[OK] が表示されます。異常がある場合はエラーメッセージが表示されます。

MEMO

- ・ エラーが画面上に表示された場合は、以下を参照してください。

☞ 「1.7.3 LT3000 シリーズをご利用の場合」(1-170 ページ)

2.9.5 EX モジュールへの通信ができるかどうかチェックしたい

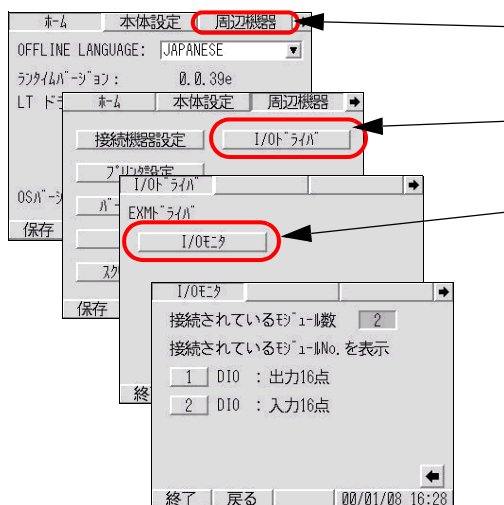
EX モジュールが LT に正常に接続されているか、また EX モジュールに接続されている接続機器が正常に☐入力、☐出力しているかチェックし、GP-Pro EX の設定に問題があるのか、LT 側に問題があるのかを切り分けます。

■ DIO モジュールをご利用の場合

MEMO

- GP-Pro EX で設定した EX モジュールのみ I/O チェックできます。
- 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合・I/O モニタ（DIO 設定）」（2-156 ページ）



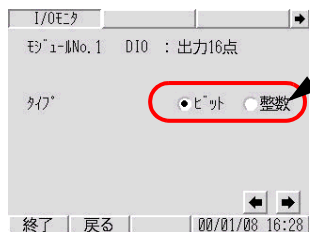
オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [周辺機器設定] をタッチします。

[周辺機器設定] が開くので [I/O ドライバ] をタッチし [EXM ドライバ] をタッチします。

[EXM ドライバ] が開くので [I/O モニタ] をタッチすると、現在接続されているモジュール数と、モジュール No. が表示されます。接続しているモジュールが表示されない場合はモジュールと接続機器の配線を確認してください。

MEMO

- LT-3200 シリーズをご利用の場合、モジュール数は最大 2 台、LT-3300 シリーズをご利用の場合は最大 3 台まで表示されます。



各モジュールの番号をタッチし、画面が表示されたら入出力するデータのタイプを [ビット]、[整数] から選択します。（例：DIO 出力16点、タイプビット）



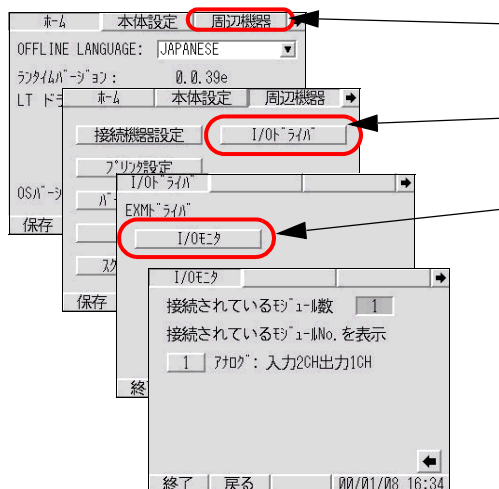
☞ スイッチで画面移動すると入出力実行画面が表示され、入力状態が ON/OFF で表示される、または出力を実行できます。接続機器が正常に動作する場合は GP-Pro EX の設定を確認してください。正常に動作しない場合は EX モジュールと接続機器の配線を確認してください。

■ アナログモジュールをご利用の場合

MEMO

- GP-Pro EX で設定した EX モジュールのみ I/O チェックできます。
- 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合・I/O モニタ（アナログ設定）」（2-157 ページ）



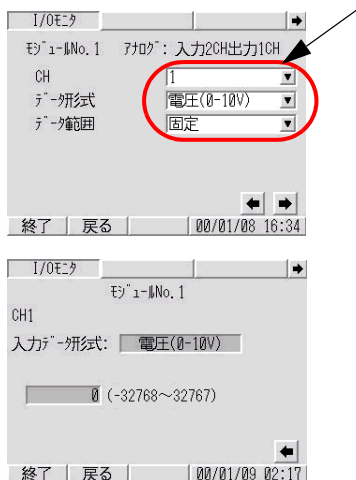
オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [周辺機器設定] をタッチします。

[周辺機器設定] が開くので [I/Oドライバ] をタッチし [EXMドライバ] をタッチします。

[EXMドライバ] が開くので [I/Oモニタ] をタッチすると、現在接続されているモジュール数と、モジュールNo. が表示されます。接続しているモジュールが表示されない場合はモジュールと接続機器の配線を確認してください。

MEMO

- LT-3200 シリーズをご利用の場合、モジュール数は最大 2 台、LT-3300 シリーズをご利用の場合は最大 3 台まで表示されます。



各モジュールの番号をタッチし、画面が表示されたら入力するチャンネル、データ形式、データ範囲を設定します。（例：[CH]1、[データ形式]電圧(0-10V)、[データ範囲]固定）

➡ スイッチで画面移動すると入力か出力実行画面が表示され、入力値が表示される、または出力を実行できます。接続機器が正常に動作する場合はGP-Pro EXの設定を確認してください。正常に動作しない場合はEXモジュールと接続機器の配線を確認してください。

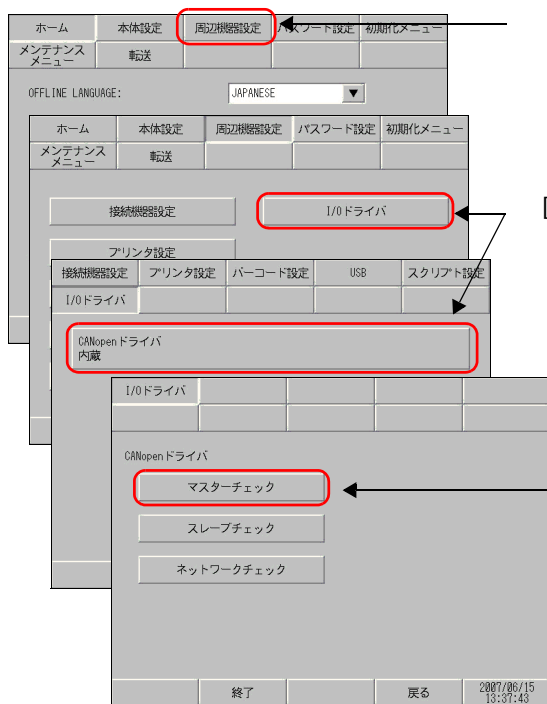
2.9.6 CANopen マスタ対応 GP 側（マスタ側）の通信ができるかどうかチェックしたい

スレーブを接続している状態で、マスタ側が通信を受け入れられる状態にあるかどうかをチェックします。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

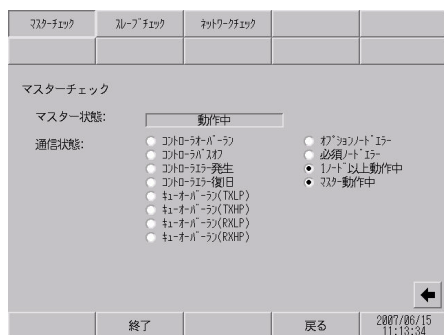
☞ 「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 マスターチェック」(2-162 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [周辺機器設定] をタッチします。

[周辺機器設定] が開くので [I/O ドライバ] をタッチし、[CANopen ドライバ内蔵] をタッチします。

[I/O ドライバ] が開くので、[マスターチェック] をタッチします。



[マスターチェック] が開くので、[マスター状態] と [通信状態] を確認します。

(例：マスター状態：[動作中]、通信状態：[1 ノード以上動作中]、[マスター動作中] マスタは正常に動作している状態を表します。)

[マスター状態] と [通信状態] の各詳細については以下を参照してください

☞ 「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 マスターチェック」(2-162 ページ)

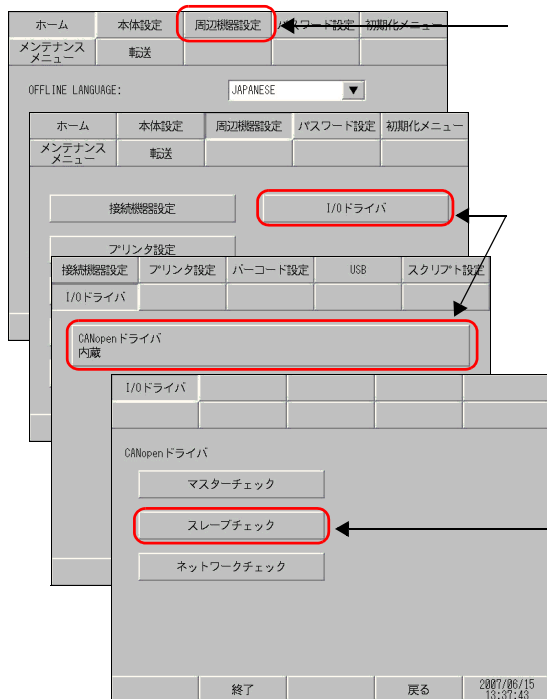
2.9.7 HTB ユニット側（スレーブ側）の通信ができるかどうかチェックしたい

マスタと接続している状態で、スレーブ側が通信を受け入れられる状態にあるかどうかをチェックします。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

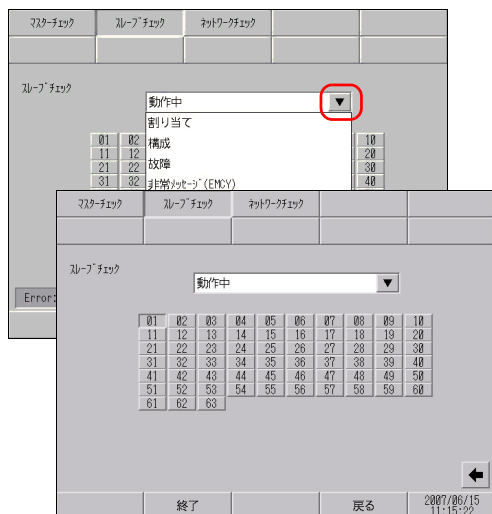
☞ 「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 スレーブチェック (2-164 ページ)」



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [周辺機器設定] をタッチします。

[周辺機器設定] が開くので [I/O ドライバ] をタッチし、[CANopen ドライバ 内蔵] をタッチします。

[I/O ドライバ] が開くので、[スレーブチェック] をタッチします。



[スレーブチェック] が開くので、▼ をタッチし、チェックするスレーブの状態を選択します。その状態にあるスレーブの番号が反転して表示されます。
(例：動作中のモジュール、1つ)

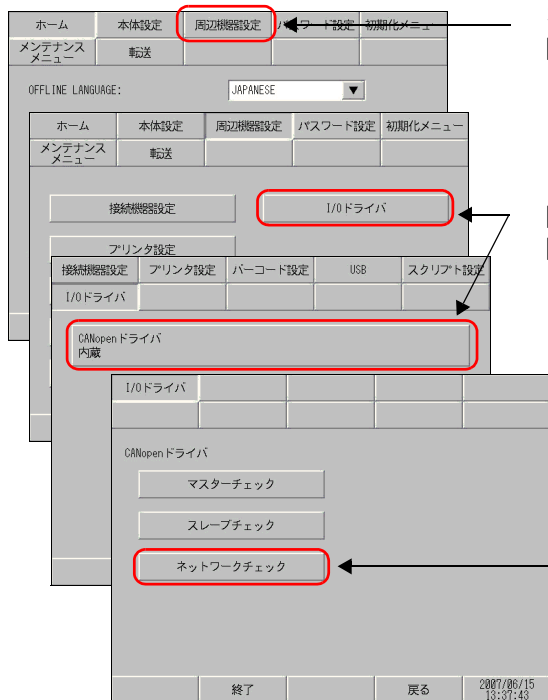
2.9.8 CANopen 通信時にネットワーク全体の状態をチェックしたい

CANopen 通信時にネットワーク全体の状態をチェックします。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

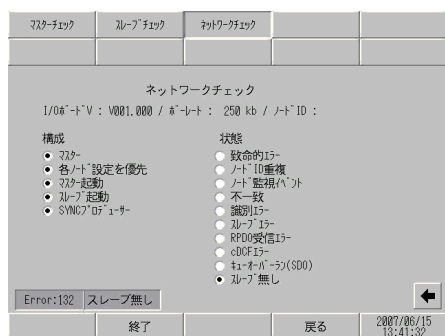
☞ 「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 ネットワークチェック」(2-165 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [周辺機器設定] をタッチします。

[周辺機器設定] が開くので [I/O ドライバ] をタッチし、[CANopen ドライバ内蔵] をタッチします。

[I/O ドライバ] が開くので、[ネットワークチェック] をタッチします。



[ネットワークチェック] が開くので、ネットワークの [構成] と [状態] をランプで確認します。

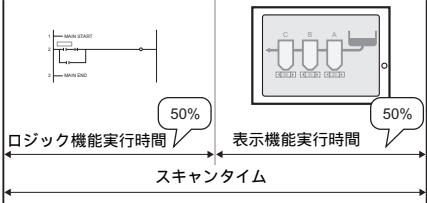
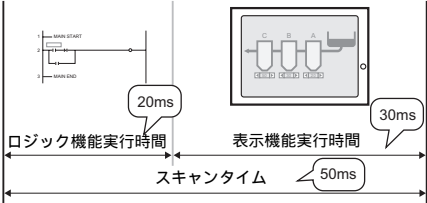
(例：構成：[マスター]、[各ノード設定を優先]、[マスター起動]、[スレーブ起動]、[SYNC プロデューサー]、状態：[スレーブ無し]スレーブのケーブルが抜けている状態を表します。)

[構成] と [状態] の各詳細については以下を参照してください。

☞ 「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 ネットワークチェック」(2-165 ページ)

2.10 コントローラ設定

ロジックプログラムの実行時間を下記のどちらかの方法で設定できます。

できること	設定手順
・ コントローラ機能実行時間の割合で設定 	☞ 「2.10.1 スキャンタイムをロジック機能実行時間の割合で調整したい（パーセントスキャン）」（2-68 ページ）
・ コントローラ機能実行時間と表示機能実行時間で設定 	☞ 「2.10.2 スキャンタイムをロジック機能実行時間と表示機能実行時間の設定で調整したい（コンスタントスキャン）」（2-69 ページ）

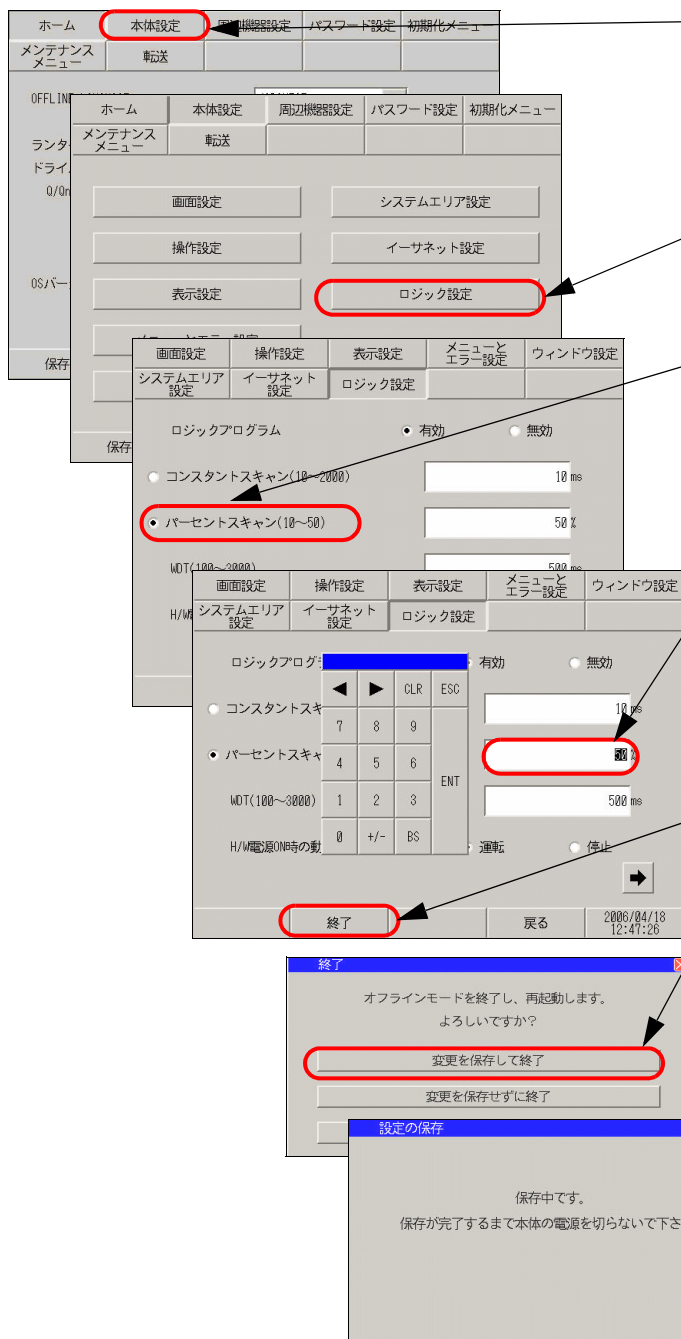
2.10.1 スキャンタイムをロジック機能実行時間の割合で調整したい（パーセントスキャン）

スキャンタイムのうち、ロジック機能実行時間を指定してロジックプログラムを実行するための設定を行います。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.2 GP3000シリーズDIOボードタイプをご利用の場合 ■[本体設定]の設定ガイド」(2-115 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[ロジック設定]をタッチします。

[ロジック設定]が開くので[パーセントスキャン]をタッチします。

[パーセントスキャン]の入力枠をタッチし、テンキーでロジックプログラムのスキャンを実行する割合を入力してください。

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

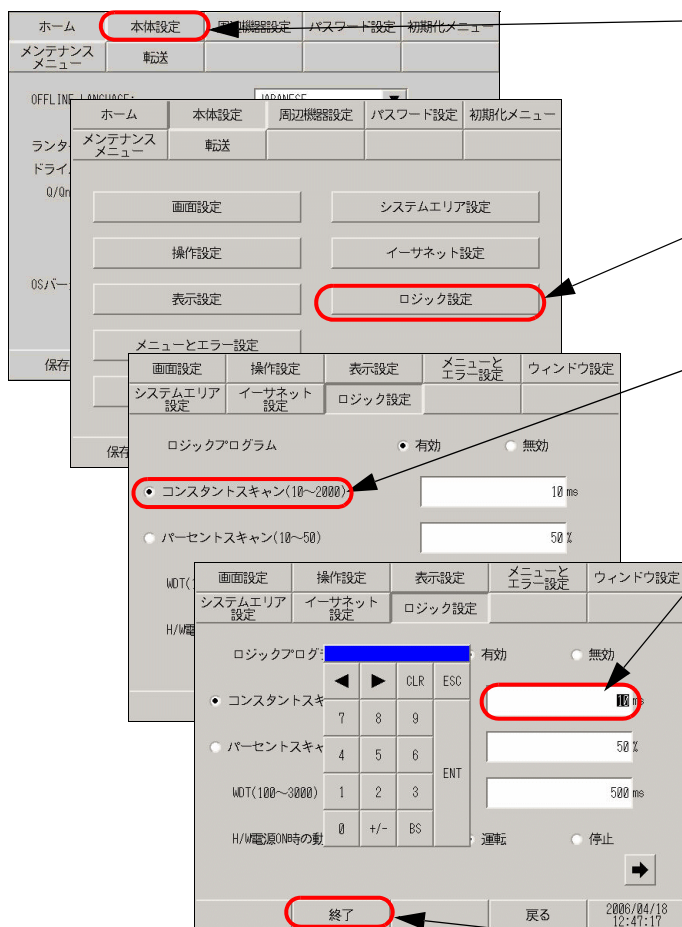
2.10.2 スキャンタイムをロジック機能実行時間と表示機能実行時間の設定で調整したい(コンスタントスキャン)

指定した一定周期でロジックプログラムを実行させるための設定を行います。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.15.2 GP3000シリーズDIOボードタイプをご利用の場合 ■[本体設定]の設定ガイド」(2-115 ページ)

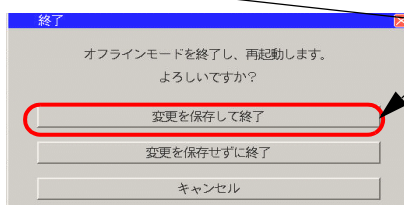


オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

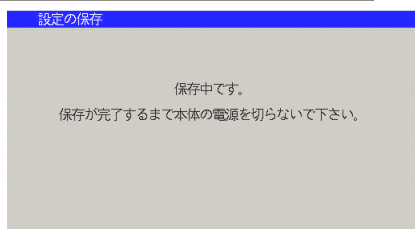
[本体設定]が開くので[ロジック設定]をタッチします。

[ロジック設定]が開くので[コンスタントスキャン]をタッチします。

[コンスタントスキャン]の入力枠をタッチし、テンキーでロジックプログラムのスキャンを実行する周期を入力してください。



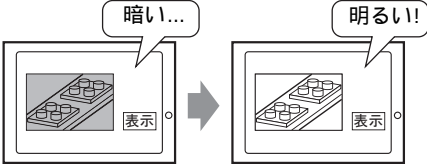
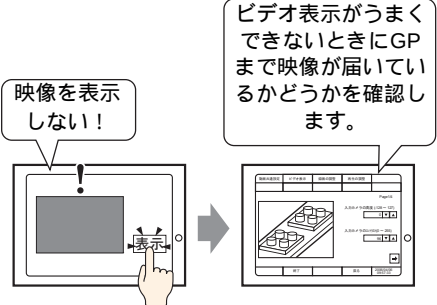
[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。



[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

2.11 ビデオ表示の調整と確認

GP-3*50 シリーズの動画機能や VM ユニット使用時にビデオ表示の調整や確認ができます。

できること	設定手順
・ビデオ表示の画質調整 	☞「2.11.1 ビデオ表示の画質を調整したい」(2-71 ページ)
・ビデオ表示できない時の映像の確認 	☞「2.11.2 ビデオ表示できないときに表示器まで映像が届いているか確認したい」(2-73 ページ)

2.11.1 ビデオ表示の画質を調整したい

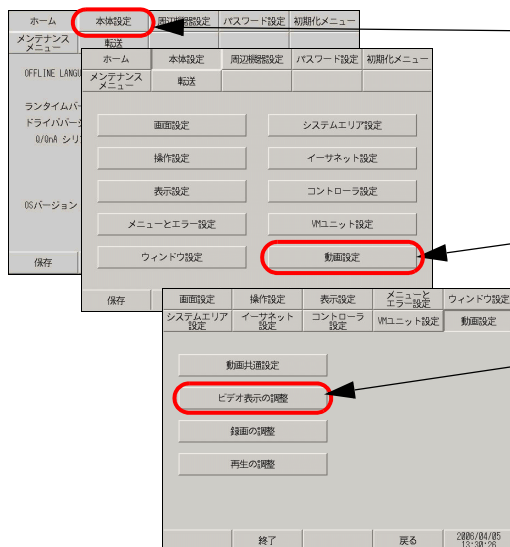
GP-3*50 シリーズの動画機能や VM ユニット使用時にビデオ表示の調整ができます。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定（ビデオ表示）」
（2-132 ページ）

■ GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合

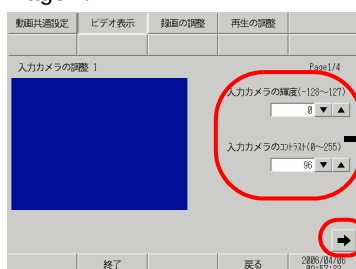


オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

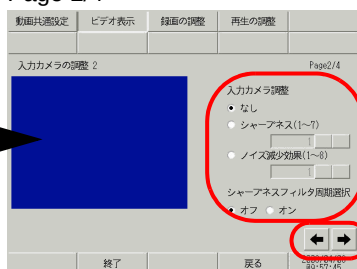
[本体設定]が開くので[動画設定]をタッチします。

[動画設定]が開くので[ビデオ表示の調整]をタッチします。

Page 1/4

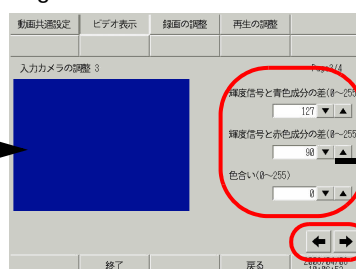


Page 2/4

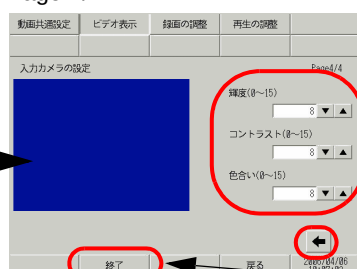


[ビデオ表示の調整]が開くので設定を確認、または変更する項目をタッチします。次のページへは、画面右下の矢印キーで移動できます。

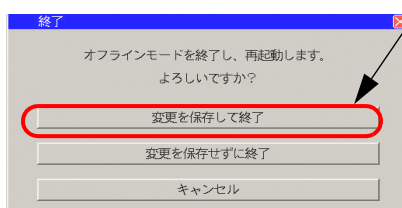
Page 3/4



Page 4/4



[終了]をタッチすると[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。自動的にGPが再起動されます。

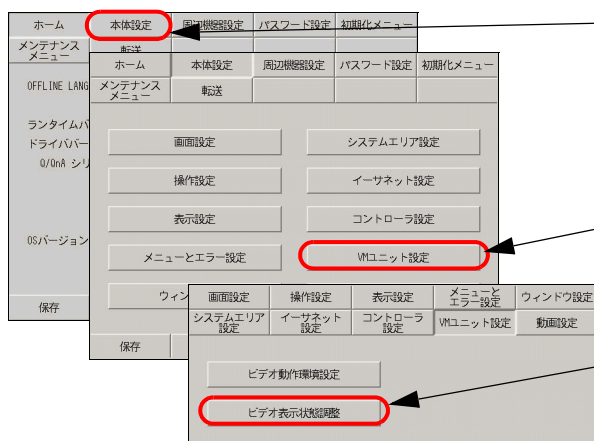


■ VM ユニットをご利用の場合

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.5 VM ユニットをご利用の場合 VM ユニット設定 (ビデオ表示状態調整)」
(2-138 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

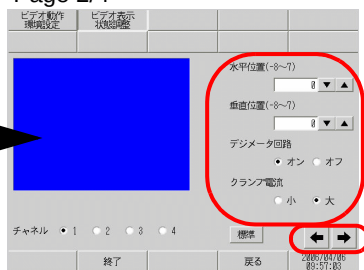
[本体設定]が開くので[VMユニット設定]をタッチします。

[VMユニット設定]が開くので[ビデオ表示状態調整]をタッチします。

Page 1/4

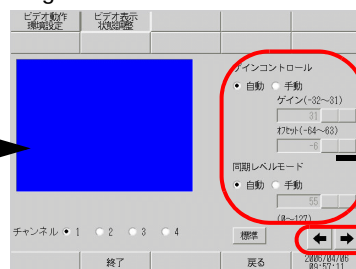


Page 2/4

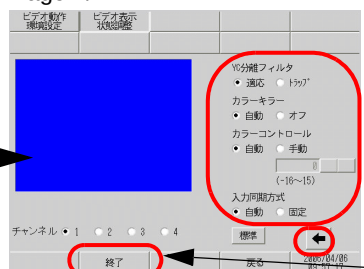


[ビデオ表示状態調整]が開くので設定を確認、または変更する項目をタッチします。次のページへは、画面右下の矢印キーで移動できます。

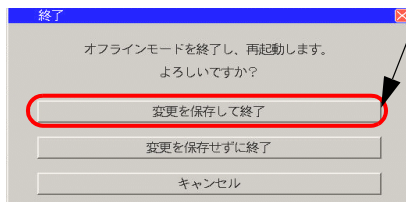
Page 3/4



Page 4/4



[終了]をタッチすると[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。自動的にGPが再起動されます。



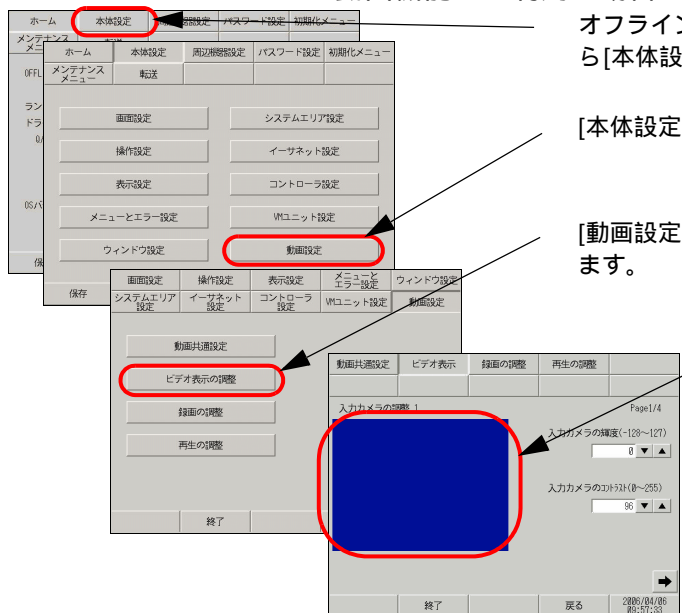
2.11.2 ビデオ表示できないときに表示器まで映像が届いているか確認したい

ビデオ表示がうまくできないときに GP まで映像が届いているか確認します。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。
- ☞ 「2.15.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 (ビデオ表示)」 (2-132 ページ)

■ GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[動画設定]をタッチします。

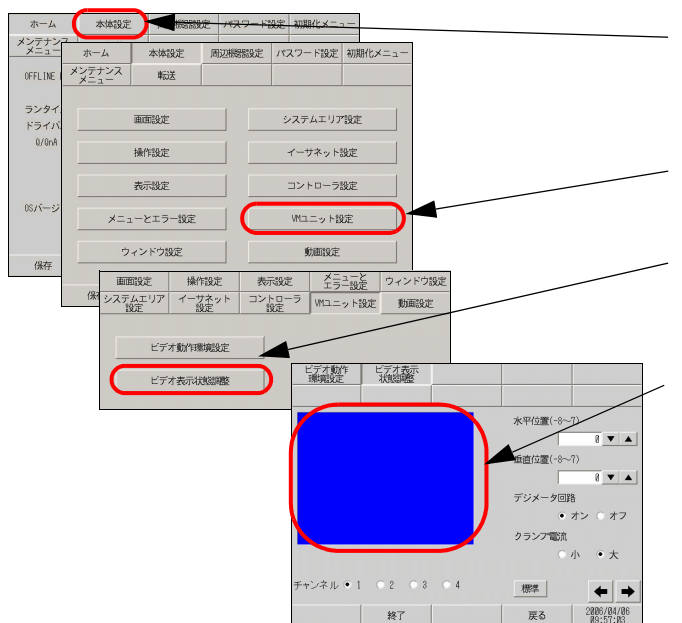
[動画設定]が開くので[ビデオ表示の調整]をタッチします。

[ビデオ表示の調整]の左のエリアに映像が表示されていれば、GP まで映像が届いていることを表します。このエリアに表示されていない場合は映像機器の接続を確認してください。

■ VM ユニットをご利用の場合

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。
- ☞ 「2.15.5 VM ユニットをご利用の場合 VM ユニット設定 (ビデオ表示状態調整)」 (2-138 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

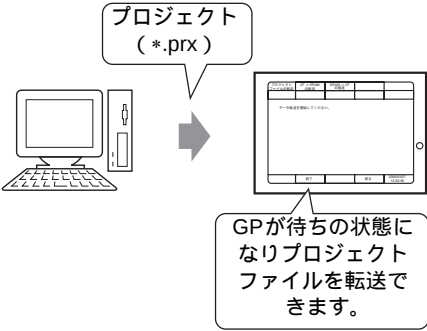
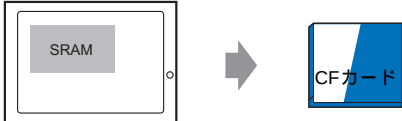
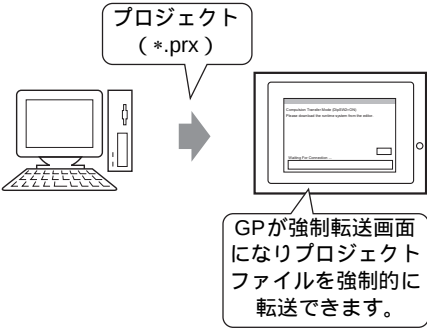
[本体設定]が開くので[VMユニット設定]をタッチします。

[VMユニット設定]が開くので[ビデオ表示状態調整]をタッチします。

[ビデオ表示状態調整]の左のエリアに映像が表示されていれば、GP まで映像が届いていることを表します。このエリアに表示されていない場合は VM ユニットに正しく映像機器が接続されているか確認してください。

2.12 GP-Pro EX からの画面転送

プロジェクトファイルを転送できないときに下記のような転送ができます。

できること	設定手順
• オフラインモードで転送 	☞「2.12.1 プロジェクトファイルが転送できないときに手動で転送画面に切り替えたい」(2-75 ページ)
• SRAM のデータを CF カードにバックアップ  SRAMのデータをバックアップ	☞「2.12.2 新しいプロジェクトファイルを転送する前に、SRAM のデータを CF カードにバックアップしたい」(2-76 ページ)
• 強制転送 	☞「2.12.3 プロジェクトファイルを強制転送したい」(2-77 ページ)

2.12.1 プロジェクトファイルが転送できないときに手動で転送画面に切り替えたい

プロジェクトファイルが転送できないときに、オフラインモードから手動でプロジェクトファイルを転送することができます。オフラインモードでプロジェクトファイルを転送する場合は GP を待ち状態に移行する必要があります。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 プロジェクトファイルの転送」(2-110 ページ)

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[転送]をタッチします。

[転送]が開くので[プロジェクトファイルの転送]をタッチします。

[設定の保存]ダイアログボックスが開くので[はい]をタッチします。

[保存中です]というメッセージがダイアログボックスに表示されます。

[データ転送を開始してください。]と表示されたら、GP-Pro EXからプロジェクトファイルを転送してください。

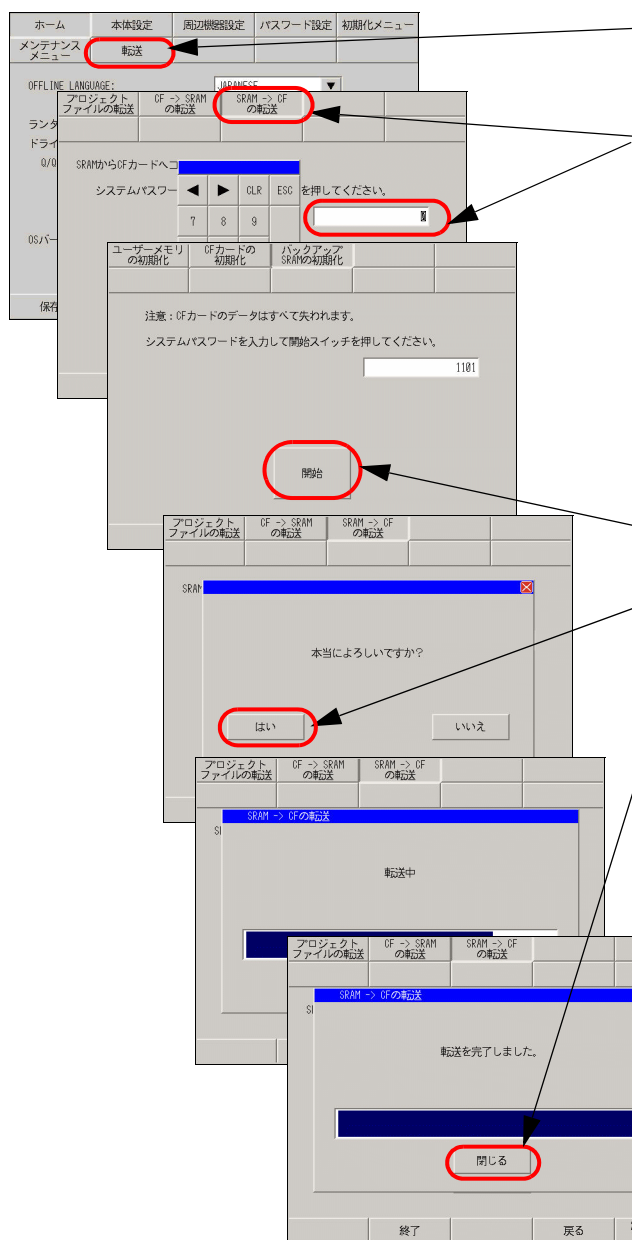
2.12.2 新しいプロジェクトファイルを転送する前に、SRAM のデータを CF カードにバックアップしたい

内部メモリ（SRAM）の内容を CF カードに転送します。CF カードのデータは消去され、内部メモリの内容が上書きされます。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通 SRAM->CF の転送」(2-111 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[転送]をタッチします。

[転送]が開くので[SRAM->CFの転送]をタッチします。入力枠をタッチし、テンキーで「1101」（[システムパスワード]が[無]の場合のみ）または「システムパスワードの設定」で設定したパスワードを入力してください。

[開始]ボタンをタッチします。

次のような確認メッセージが表示されるので[はい]をタッチします。

転送が完了すると以下のようなメッセージが表示されるので、[閉じる]をタッチします。

CFカードのSRAMフォルダの中にZ000001.BINというファイルが作成されていることを確認してください。

MEMO

- ・ CF カードにバックアップされた SRAM のデータを転送する場合は [転送] 画面で [CF->SRAM の転送] をタッチして、上記同様の手順を行います。

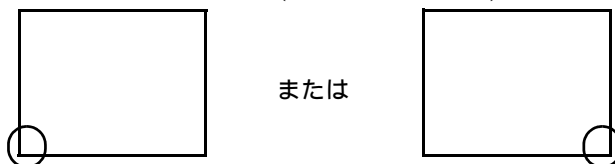
2.12.3 プロジェクトファイルを強制転送したい

プロジェクトファイルが転送できないときに、強制的にプロジェクトファイルを転送することができます。強制転送には2つの方法があります。

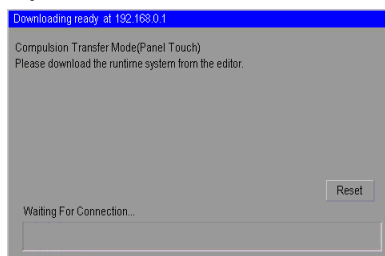
■ 画面タッチで強制転送

画面タッチで強制転送を行います。

- 1 GP の電源投入時に画面の左下もしくは右下 (各 40 × 40 ドット) をタッチし続けます。



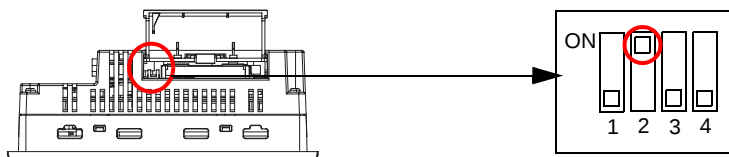
- 2 タッチし続けると次のようなダイアログボックスが表示されるので、GP-Pro EX よりプロジェクトファイルを転送します。強制転送が完了したら、自動的に GP が再起動し、転送したプロジェクトファイルの画面が表示されます。



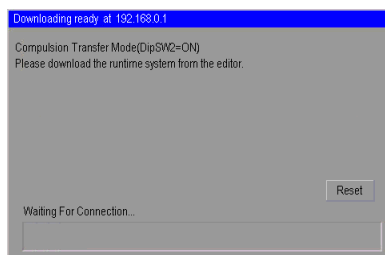
■ ディップスイッチで強制転送

ディップスイッチ2をONしてプロジェクトファイルの強制転送を行います。ディップスイッチが無い機種 (GP-3302B など) をご利用の場合、画面タッチによる強制転送が行えます。

- 1 GP に電源が入っていない状態で、底面の CF カードカバーを開けます。カバーを開けると、CF カードインターフェイスとディップスイッチがあるので、ディップスイッチ2をONにします。



- 2 再度電源を投入すると次のようなダイアログボックスが表示されるので、GP-Pro EX よりプロジェクトファイルを転送します。強制転送が完了したら自動的に GP が再起動し、以下の強制転送画面にもどります。

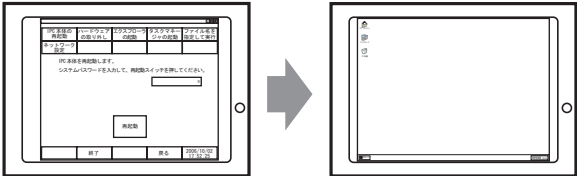
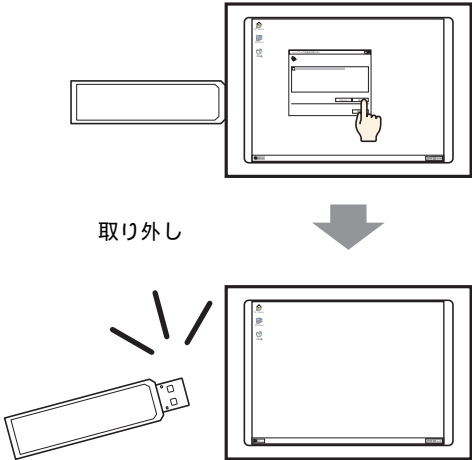


- 3 GP の電源を OFF にし、ディップスイッチ2をOFFにします。再度 GP の電源を入れると上記画面が表示されるので、[Reset] ボタンをタッチしてください。強制転送時以外はディップスイッチ2はOFFでご使用ください。

2.13 IPC 本体の再起動とデバイスの取り外し （パネルコンピュータ使用時のみ）

MEMO

・ 本機能は IPC シリーズのみで設定できます。

できること	設定手順
・ IPC 本体の再起動 再起動 	 「2.13.1 IPC 本体を再起動したい」(2-79 ページ)
・ IPC に接続しているデバイスの取り外し 取り外し 	 「2.13.2 IPC に接続しているデバイスを取り外したい」(2-81 ページ)

2.13.1 IPC 本体を再起動したい

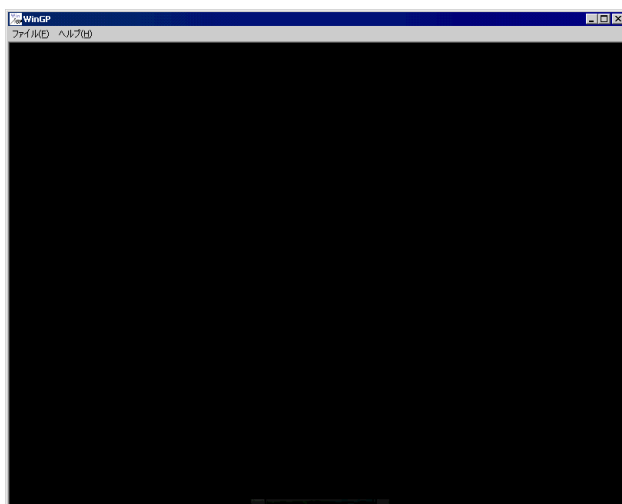
IPC 本体を再起動するための設定を行います。

MEMO

- 本機能は IPC シリーズのみで設定できます。
- 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ） IPC 本体の再起動」（2-144 ページ）

- 1 [スタート]メニューから [プログラム (P)] - [Pro-face] - [WinGP] - [WinGP] - [WinGP] を選択し、WinGP を起動すると以下のような画面が表示されます。画面の右上隅→左下隅または左上隅→右下隅（縦横 40 ドット以内）の順に 0.5 秒以内にタッチまたはクリックします。

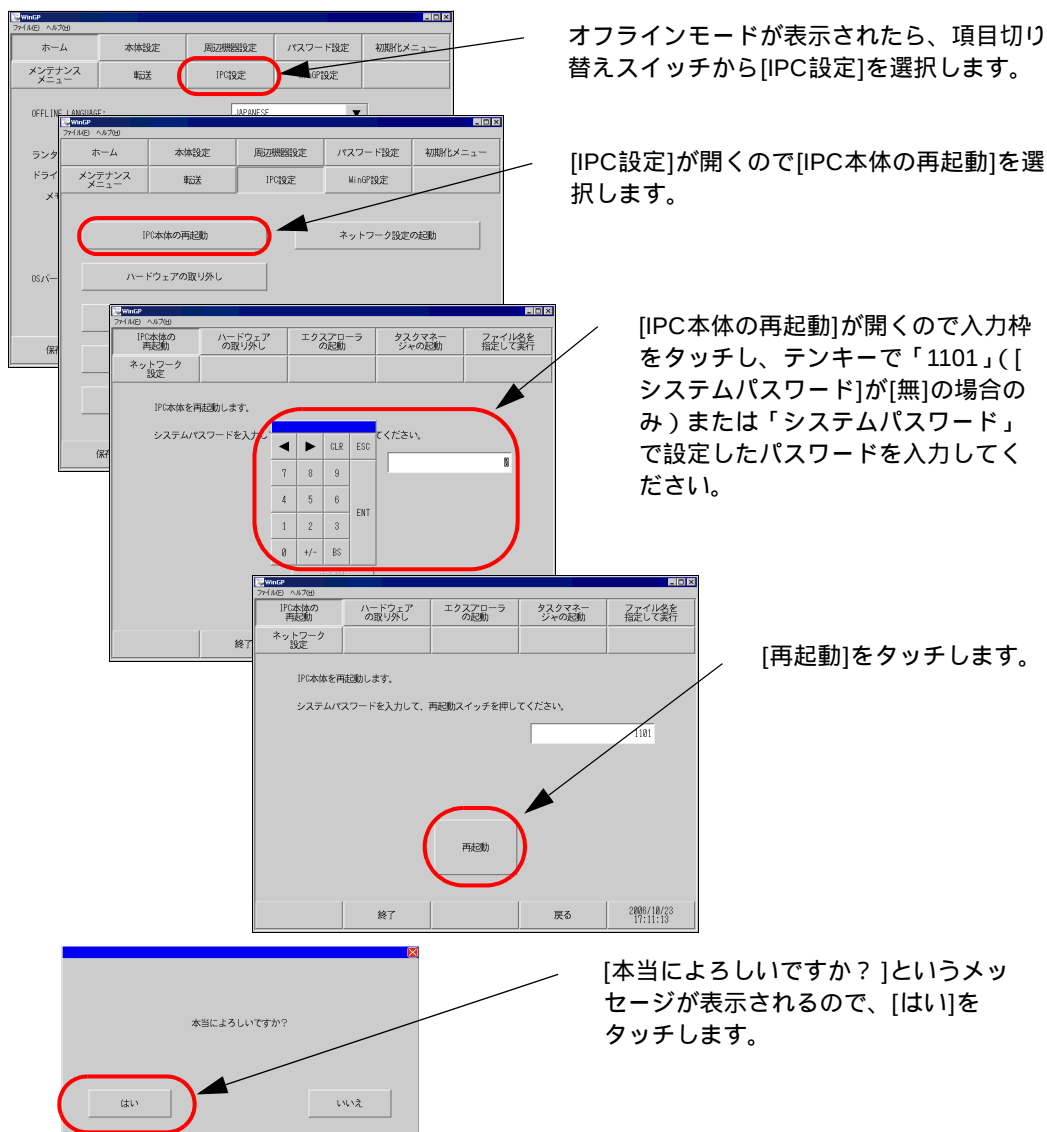


- 2 システムメニューが表示されるので [オフライン] を選択します。



MEMO

- 画面を右クリックして表示されるメニューの [オフラインへ] を選択してもオフラインモードに入ることができます。
-



8 IPC を再起動します。

2.13.2 IPC に接続しているデバイスを取り外したい

IPC に接続しているデバイスの取り外しを行います。

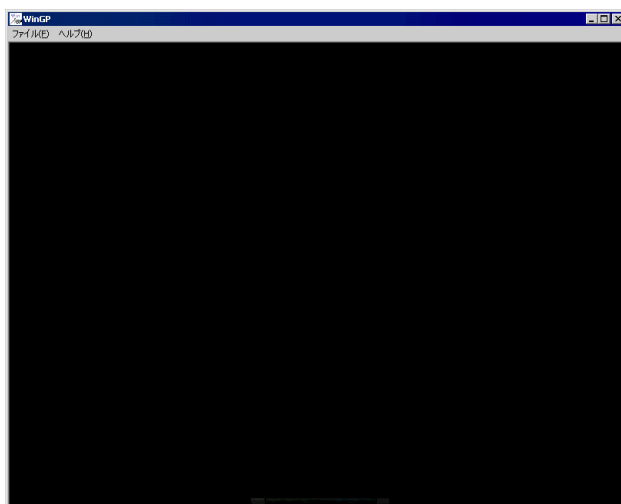
MEMO

- ・ 本機能は IPC シリーズのみで設定できます。

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ） ハードウェアの取り外し」（2-144 ページ）

- 1 [スタート]メニューから [プログラム (P)] - [Pro-face] - [WinGP] - [WinGP] - [WinGP] を選択し、WinGP を起動すると以下のような画面が表示されます。画面の右上隅→左下隅または左上隅→右下隅（縦横 40 ドット以内）の順に 0.5 秒以内にタッチまたはクリックします。



- 2 システムメニューが表示されるので [オフライン] を選択します。



MEMO

- ・ 画面を右クリックして表示されるメニューの [オフラインへ] を選択してもオフラインモードに入ることができます。
-

オフラインモードが表示されたら、項目切り替えスイッチから[IPC設定]を選択します。

[IPC設定]が開くので[ハードウェアの取り外し]を選択します。

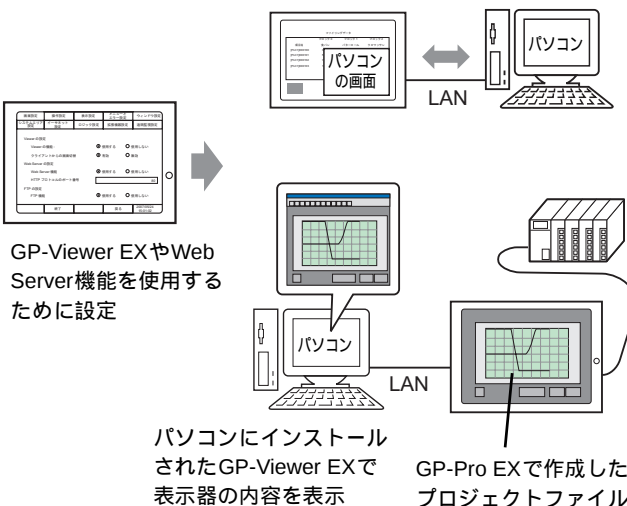
[ハードウェアの取り外し]が開くので入力枠をタッチし、テンキーで「1101」（[システムパスワード]が[無]の場合のみ）または「システムパスワード」で設定したパスワードを入力してください。

[起動]をタッチします。

[本当によろしいですか?]というメッセージが表示されるので、[はい]をタッチします。

以下のようなダイアログボックスが表示され、IPCに接続しているハードウェアを安全に取り外します。

2.14 遠隔監視設定

できること	設定手順
• GP-Viewer EX や Web Server 機能を設定  GP-Viewer EXやWeb Server機能を使用するために設定 パソコンにインストールされたGP-Viewer EXで表示器の内容を表示 GP-Pro EXで作成したプロジェクトファイル	☞「2.14.1 遠隔監視機能（GP-Viewer EX、Web Server）を設定したい」（2-84 ページ）

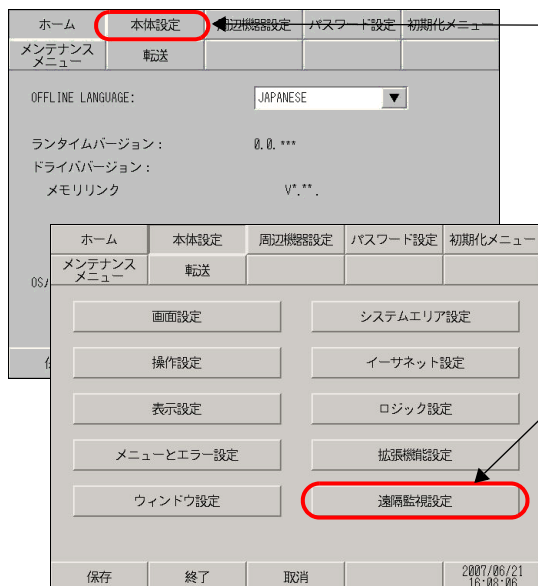
2.14.1 遠隔監視機能（GP-Viewer EX、Web Server）を設定したい

GP-Viewer EX や Web Server 機能の設定を行います。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

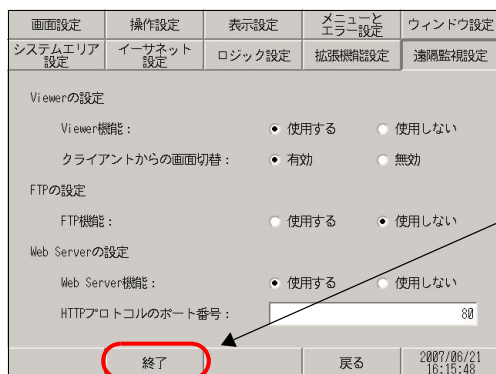
☞ 「2.15.1 表示器共通 遠隔監視設定」(2-96 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[遠隔監視設定]をタッチします。

[遠隔監視設定]が開きます。[Viewer機能]の[使用する]、[クライアントから画面切替を有効にする]をタッチしてチェックを入れます。[使用する]にチェックを入れると、GP-Viewer EX機能が使用できるようになり、[クライアントから画面切替を有効にする]にチェックを入れるとパソコンから表示器の画面切り替え操作できます。



[終了]をタッチして変更を保存すると自動的にGPが再起動されます。

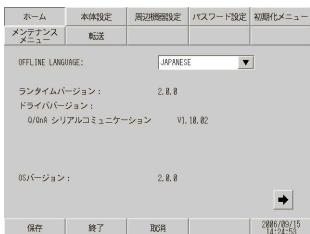
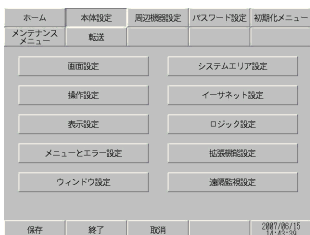
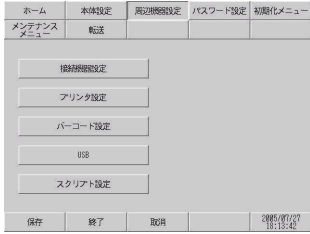
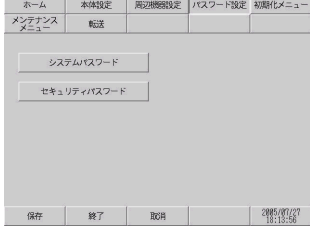
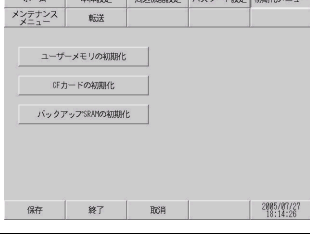
MEMO

- ・ [遠隔監視設定] は GP-Pro EX のシステム設定ウィンドウでも設定できます。詳細は以下を参照してください。

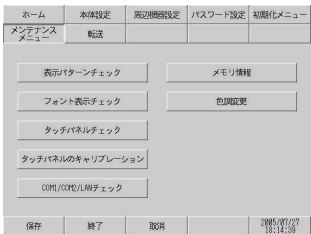
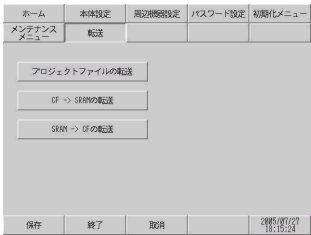
☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「36.12.2 システム設定ウィンドウ [本体設定] - [遠隔監視設定] の設定ガイド」(36-70 ページ)

2.15 オフライン設定ガイド

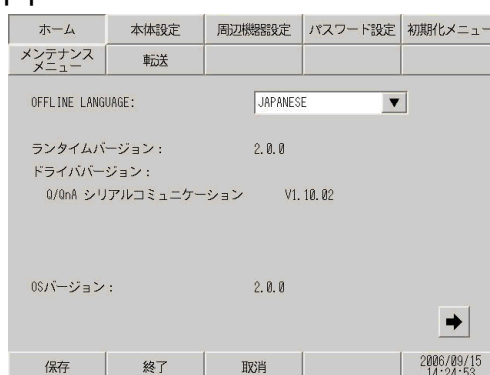
2.15.1 表示器共通

メニュー	設定内容
	「2.15.1 表示器共通 ■ [ホーム] の設定ガイド」(2-86 ページ)
	「2.15.1 表示器共通 ■ [本体設定] の設定ガイド」(2-87 ページ) 「2.15.1 表示器共通 画面設定」(2-87 ページ) 「2.15.1 表示器共通 操作設定」(2-88 ページ) 「2.15.1 表示器共通 表示設定」(2-89 ページ) 「2.15.1 表示器共通 メニューとエラー設定」(2-89 ページ) 「2.15.1 表示器共通 ウィンドウ設定」(2-90 ページ) 「2.15.1 表示器共通 システムエリア設定」(2-93 ページ) 「2.15.1 表示器共通 イーサネット設定」(2-94 ページ) 「2.15.1 表示器共通 拡張機能設定」(2-95 ページ) 「2.15.1 表示器共通 遠隔監視設定」(2-96 ページ)
	「2.15.1 表示器共通 ■ [周辺機器設定] の設定ガイド」(2-97 ページ) 「2.15.1 表示器共通 接続機器設定」(2-97 ページ) 「2.15.1 表示器共通 プリンタ設定」(2-98 ページ) 「2.15.1 表示器共通 バーコード設定」(2-99 ページ) 「2.15.1 表示器共通 USB」(2-100 ページ) 「2.15.1 表示器共通 スクリプト設定」(2-101 ページ)
	「2.15.1 表示器共通 ■ [パスワード設定] の設定ガイド」(2-102 ページ) 「2.15.1 表示器共通 システムパスワード」(2-102 ページ) 「2.15.1 表示器共通 セキュリティパスワード」(2-102 ページ)
	「2.15.1 表示器共通 ■ [初期化メニューの設定] ガイド」(2-103 ページ) 「2.15.1 表示器共通 ユーザメモリの初期化」(2-103 ページ) 「2.15.1 表示器共通 CF カードの初期化」(2-104 ページ) 「2.15.1 表示器共通 バックアップ SRAM の初期化」(2-104 ページ)

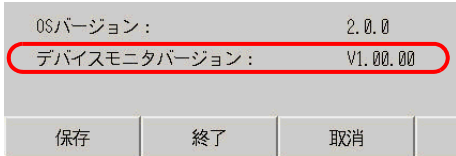
次のページに続きます。

メニュー	設定内容
 ホーム 本体設定 周辺機器設定 パスワード設定 初期化メニュー メンテナンスメニュー 表示パターンチェック メモリ情報 フォント表示チェック 色調変更 タッチパネルチェック タッチパネルのキャリブレーション COM1/COM2/LANチェック 保存 終了 取消	「2.15.1 表示器共通 ■ [メンテナンスメニュー] の設定ガイド」(2-105 ページ) 「2.15.1 表示器共通 表示パターンチェック」(2-105 ページ) 「2.15.1 表示器共通 フォント表示チェック」(2-106 ページ) 「2.15.1 表示器共通 タッチパネルチェック」(2-107 ページ) 「2.15.1 表示器共通 タッチパネルのキャリブレーション」(2-107 ページ) 「2.15.1 表示器共通 COM1/COM2/LAN チェック」(2-108 ページ) 「2.15.1 表示器共通 メモリ情報」(2-108 ページ) 「2.15.1 表示器共通 色調変更」(2-109 ページ)
 ホーム 本体設定 周辺機器設定 パスワード設定 初期化メニュー メンテナンスメニュー プロジェクトファイルの転送 CF → SRAM の転送 SRAM → CF の転送 保存 終了 取消	「2.15.1 表示器共通 ■ [転送] の設定ガイド」(2-110 ページ) 「2.15.1 表示器共通 プロジェクトファイルの転送」(2-110 ページ) 「2.15.1 表示器共通 CF->SRAM の転送」(2-110 ページ) 「2.15.1 表示器共通 SRAM->CF の転送」(2-111 ページ)

■ [ホーム] の設定ガイド



ホーム 本体設定 周辺機器設定 パスワード設定 初期化メニュー
メンテナンスメニュー
OFFLINE LANGUAGE: JAPANESE
ランタイムバージョン: 2.0.0
ドライババージョン: 0/0mA シリアルコミュニケーション V1.10.02
OSバージョン: 2.0.0
保存 終了 取消

設定項目	設定内容
OFFLINE LANGUAGE	オフラインメニューで使用する言語を [JAPANESE]、[ENGLISH] から選択します。
ランタイムバージョン	ランタイムのバージョンが表示されます。
ドライババージョン	プロトコルドライバのバージョンが表示されます。使用可能最大数の4ドライバを表示します。GP-3300 シリーズの場合は使用可能最大数の2ドライバを表示します。
OSバージョン	OSのバージョンが表示されます。
デバイスモニタバージョン	 システム設定ウィンドウ [本体設定] の [拡張機能設定] タブで [デバイスモニタを使用する] を設定している場合のみデバイスモニタバージョンを表示します。

次のページに続きます。

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			

プロジェクト情報

最終保存日時：2005/07/27 18:10

機種情報：AGP-3500S

表示カラー：4096色3速プリンク

作成エディタ名：GP-Pro EX

作成エディタバージョン：1.0.0

作成者：User name

コメント：

保存

終了

取消

2005/07/27 18:12:21

設定項目	設定内容
最終保存日時	プロジェクトの最終保存日時を表示します。
機種情報	設定 GP 機種を表示します。
表示カラー	GP の表示カラーを表示します。
作成エディタ名	プロジェクトを作成したエディタ名を表示します。
作成エディタバージョン	プロジェクトを作成したエディタのバージョンを表示します。
作成者	プロジェクトを作成した人の名前を表示します。
コメント	プロジェクトのコメントを表示します。

■ [本体設定] の設定ガイド

画面設定

電源投入後最初に表示される画面の設定やスタンバイモードの設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			

初期画面番号(1～9999)：1

表示画面番号のデータ形式：☒ BIN ☐ BCD

スタートタイム(0～255秒)：0

スタンバイモード設定：☐ 無 ☐ 画面OFF ☒ 画面切替

スタンバイモード時間(1～255分)：1

スタンバイモード時の切替画面番号(1～9999)：1

終了

戻る

2005/07/27 18:12:27

設定項目	設定内容
初期画面番号	GP が起動時に表示する画面の番号を設定します。 👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「11.3 GP 起動時の表示画面を決めたい」(11-7 ページ) MEMO 画面番号は [表示画面番号のデータ形式] が [Bin] の場合 1 ～ 9999、[BCD] の場合は 1 ～ 7999 で設定します。
表示画面番号のデータ形式	画面切り替え時に指定する画面番号のデータ形式を [Bin]、[BCD] から選択します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
スタートタイム	電源を投入してから GP が立ち上がるまでの時間を 0 ～ 255 秒で設定します。
スタンバイモード設定	スタンバイモードを [無]、[画面 OFF]、[画面切替] から選択します。 - 無 スタンバイモードには切り替わりません。 - 画面 OFF [スタンバイモード時間] で設定した時間が経過しても画面のタッチや、画面切替、アラームメッセージ表示などの動作がない場合、画面を消去します。 - 画面切替 [スタンバイモード時間] で設定した時間が経過しても画面のタッチや、画面切替、アラームメッセージ表示などの動作がない場合 [スタンバイモード時の切替画面番号] で設定した画面に切り替えます。
スタンバイモード時間	GP 保護のために自動画面消去の時間を 1 ～ 255 分で設定します。GP を何も操作せずに、設定時間が経過すると自動的に画面の表示を消したり、設定した画面に切り替えます。
スタンバイモード時の切替画面番号	[スタンバイモード設定] が [画面切替] の場合、[スタンバイモード時間] の経過後に切り替える画面の番号を設定します。 MEMO 画面番号は [表示画面番号のデータ形式] が [Bin] の場合 1 ～ 9999、[BCD] の場合は 1 ～ 7999 で設定します。

操作設定

タッチ操作に関する設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
タッチパネル検出:		☒ ON ☐ OFF		
タッチブザーの音:		☒ 有 ☐ 無		
外部ブザー端子への出力:		☒ 有 ☐ 無		
バックライト切れ検出時のタッチパネル操作:		☒ 操作可能 ☐ 操作禁止		
終了		戻る		2005/07/27 18:12:48

設定項目	設定内容
タッチパネル検出	タッチパネルの検出を、タッチで反応する [ON] か、はなしたときに反応する [OFF] から選択します。
タッチブザーの音	画面にタッチしたときに内蔵のブザー音を鳴らすかどうかを設定します。
外部ブザー端子への出力	タッチパネルブザーを外部ブザー端子へ出力するかどうかを設定します。
バックライト切れ検出時のタッチパネル操作	バックライト切れを検出した際にタッチパネルの操作を可能にするかどうか [操作可能]、[操作禁止] から設定します。

表示設定

パネル表示に関する設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
反転表示: ☐ 有 ☒ 無				
輝度/コントラスト調整バーの表示: ☐ 有 ☒ 無				
D スクリプト _debug() 関数機能: ☐ 有効 ☒ 無効				
		終了	戻る	2005/07/27 18:12:51

設定項目	設定内容
反転表示	画面の白黒反転表示を行うかどうかを設定します。 MEMO モノクロの GP が選択されている場合のみ設定できます。
輝度 / コントラスト調整バーの表示	タッチ入力による、輝度やコントラストを調整する [輝度 / コントラスト調整バー] を表示するかどうかを設定します。
D スクリプト _debug () 関数機能	D スクリプトに記述された _debug() 関数のデータを実行するかを設定します。 👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.8.1 D スクリプト / 共通設定 [グローバル D スクリプト設定] の設定ガイド」(20-48 ページ)

メニューとエラー設定

システムメニューやエラーメッセージの表示位置などを設定します。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
システムの言語設定: JAPANESE ▼				
システムメニューの表示: ☐ 表示しない ☒ 下部 ☐ 上部				
オンライン時のエラー表示: 復旧時消去 ▼				
エラー表示位置: ☐ 上部 ☒ 下部				
システムエラー時の自動復旧: ☒ 有効 ☐ 無効				
		終了	戻る	2005/07/27 18:12:54

設定項目	設定内容
システムの言語設定	GP 上で表示される「システムメニュー」、「輝度、コントラストの調整」、「エラーメッセージ」(1 行メッセージ、詳細メッセージ両方)「ファイルマネージャ」の言語を [日本語]、[英語] から設定します。
システムメニューの表示	システムメニューを表示する位置を [表示しない]、[上部]、[下部] から選択します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
オンライン時のエラー表示	オンライン時のエラー表示を消去するタイミングを[無]、[復旧時消去]、[画面切替時消去]から選択します。 重 要 通信エラーなどにより接続機器（PLC など）への書き込みができなかった場合のエラーメッセージは、[復旧時消去]を設定していても GP 画面上から消去されません。このエラーメッセージは画面切り替えを行うと消去できます。
エラー表示位置	エラーを表示する位置を[上部]、[下部]から選択します。
システムエラー時の自動復旧	システムエラー時に自動復旧を行うかどうかを設定します。[有効]を選択した場合、エラー発生から約 20 秒後に GP が再起動します。

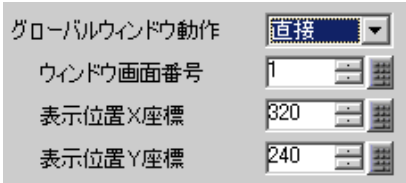
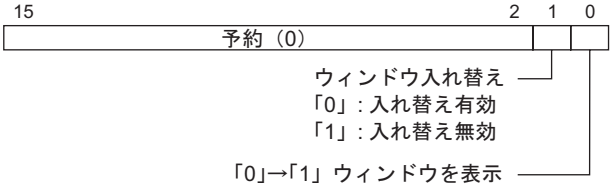
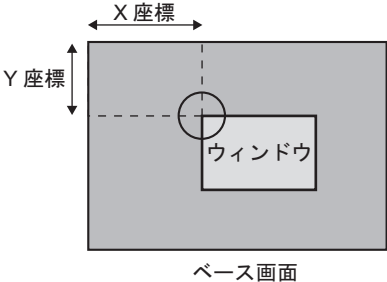
ウィンドウ設定

ウィンドウに関する設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
グローバルウィンドウ動作： ☐ 無効 ☒ 直接 ☐ 間接				
ウィンドウ画面番号(1~2000)： 1				
ウィンドウ位置X座標： 320				
ウィンドウ位置Y座標： 240				
終了		戻る		2005/07/27 18:13:10

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
グローバルウィンドウ動作： ☐ 無効 ☐ 直接 ☒ 間接				
データ形式： ☒ BIN ☐ BCD				
終了		戻る		2005/07/27 18:13:13

次のページに続きます。

設定項目	設定内容								
グローバルウィンドウ動作	すべての画面に共通で表示するグローバルウィンドウの動作を [無効]、[直接]、[間接] から選択します。								
無効	グローバルウィンドウを設定しません。								
直接	表示するウィンドウ画面番号や表示位置を固定で表示します。 表示のコントロールは GP 内部デバイスのアドレス (LS16) を操作するか、システムデータエリアを割り付けた接続機器から行います。 < 設定画面 >  < 使用する内部デバイスアドレス > <table border="1"> <thead> <tr> <th>LS0016</th> <th>コントロールアドレス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>LS0017</td> <td>(予約)</td> </tr> <tr> <td>LS0018</td> <td>(予約)</td> </tr> <tr> <td>LS0019</td> <td>(予約)</td> </tr> </tbody> </table> • コントロールアドレス グローバルウィンドウの表示をコントロールするアドレスです。ビット 0 を ON するとウィンドウが表示されます。  ウィンドウ入れ替え 「0」: 入れ替え有効 「1」: 入れ替え無効 「0」→「1」 ウィンドウを表示 MEMO • 接続機器でシステムデータエリアを使用する場合は、割り付けたアドレスの連続 4 ワードを使用して設定します。 ☞「2.15.1 表示器共通 システムエリア設定」(2-93 ページ)	LS0016	コントロールアドレス	LS0017	(予約)	LS0018	(予約)	LS0019	(予約)
LS0016	コントロールアドレス								
LS0017	(予約)								
LS0018	(予約)								
LS0019	(予約)								
ウィンドウ画面番号	グローバルウィンドウの画面番号を 1 ~ 2000 で設定します。								
表示位置 X 座標 / Y 座標	グローバルウィンドウの表示位置を設定します。画面を切り替えても同じ位置にウィンドウが表示されます。ここで指定した座標がウィンドウの左上隅の位置になります。  MEMO • X 座標は 4 ドット単位で設定します。4 ドット単位からずれていた場合は、指定した座標の左側 4 ドット単位的位置に自動修正され表示されます。								

次のページに続きます。

設定項目		設定内容									
間接		表示するウィンドウ画面番号、表示位置は GP 内部デバイスのアドレス（LS16 ~ LS19）にデータを格納することで設定します。システムデータエリアを接続機器に割り付けると、接続機器からウィンドウ画面を切り替えたり表示位置を変更できます。 < 設定画面 > グローバルウィンドウ動作 間接 データ形式 ☒ Bin ☐ BCD < 使用する内部デバイスアドレス > <table><tr><td>LS0016</td><td>コントロールアドレス</td></tr><tr><td>LS0017</td><td>ウィンドウ画面番号</td></tr><tr><td>LS0018</td><td>表示位置（X 座標）</td></tr><tr><td>LS0019</td><td>表示位置（Y 座標）</td></tr></table> - コントロールアドレス グローバルウィンドウの表示をコントロールするアドレスです。ビット 0 を ON するとウィンドウが表示されます。 15 2 1 0 予約（0） ウィンドウ入れ替え 「0」：入れ替え有効 「1」：入れ替え無効 「0」→「1」 ウィンドウを表示 - ウィンドウ画面番号 表示したいウィンドウ画面の番号を 1 ~ 2000 で指定します。 - 表示位置 X 座標 / Y 座標 グローバルウィンドウの表示位置を指定します。アドレスに格納する値を変更するとウィンドウを移動できます。ここで指定した座標はウィンドウの左上隅の位置になります。 X 座標 Y 座標 ベース画面 ウィンドウ MEMO - 接続機器でシステムデータエリアを使用する場合は、割り付けたアドレスの連続 4 ワードを使用して設定します。 ☞「2.15.1 表示器共通 システムエリア設定」(2-93 ページ)		LS0016	コントロールアドレス	LS0017	ウィンドウ画面番号	LS0018	表示位置（X 座標）	LS0019	表示位置（Y 座標）
	LS0016	コントロールアドレス									
	LS0017	ウィンドウ画面番号									
	LS0018	表示位置（X 座標）									
LS0019	表示位置（Y 座標）										
データ形式	アドレスに格納するデータの形式を [Bin]、[BCD] から選択します。										

次のページに続きます。

システムエリア設定

GP の内部メモリ（システムデータエリア）と接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合の設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
システムエリア機器:		PLC1		
システムエリア先頭アドレス:		D00000		
読み込みエリアサイズ(0~256):		0		
システムデータエリア:		☐ 使用しない ☒ 使用する		
→				
終了		戻る		2005/07/27 18:13:18

設定項目	設定内容
システムエリア機器	システムデータエリアを設定する接続機器を選択します。
システムエリア先頭アドレス	システムエリアに使用する先頭アドレスを指定します。
読み込みエリアサイズ (0 ~ 256)	全画面共通で使用するデータや折れ線グラフの一括表示データなどを格納する [読み込みエリア] のワード数を 0 ~ 256 で設定します。 MEMO メモリリンク方式で接続している場合は設定できません。
システムデータエリア	システムデータエリアを使用するかどうかを設定します。

[システムデータエリアを使用する] を選択した場合は次の画面に移行します。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
LS0 表示中画面番号	H0	LS17 ウィンドウ画面番号	H10	
LS1 エラーステータス	H1	LS18 ウィンドウ表示位置	H11	
LS2 時計データ(現在値)	H2	LS19 ウィンドウ表示位置	H12	
LS3 時計データ(現在値)	H3		H13	
LS4 時計データ(現在値)	H4		H14	
LS5 時計データ(現在値)	H5		H15	
LS10 時計データ(設定値)	H6		H16	
LS11 時計データ(設定値)	H7		H17	
LS12 時計データ(設定値)	H8		H18	
LS13 時計データ(設定値)	H9		H19	
☒ 表示中画面番号	19-d	☒ 時計データ(設定値)	47-d	
☒ エラーステータス	19-d	☐ コントロール	19-d	
☒ 時計データ(現在値)	49-d	☐ 予約(Read)	19-d	
☐ ステータス	19-d	☐ ウィンドウコントロール	19-d	
☐ 予約(Write)	19-d	☒ ウィンドウ画面番号	19-d	
☐ 切替画面番号	19-d	☒ ウィンドウ表示位置	29-d	
☐ 画面表示ON/OFF	19-d			
終了		戻る		2005/07/27 18:13:31

設定項目	設定内容
システムデータエリアの項目	使用するシステムデータエリアの項目にタッチするとチェックをつけ、その項目を選択したことになります。
総使用ワード数	システムエリアの設定で選択した項目をワード数で表示します。 MEMO - 画面の表示ドット数が 320 × 240 の場合は [表示] キーをタッチすると [システムエリアの設定確認] が表示され選択項目を確認できます。 - この設定はダイレクトアクセス方式を使用している場合のみ有効です。 - 画面内で表示される [システムエリア] とは、システムデータエリアのことです。

イーサネット設定

イーサネットに関する設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
自局名:				
IPアドレス:				
サブネットマスク:				
ポート:				
デフォルトゲートウェイ:				
自動認識:				
速度設定:				
Duplex設定:				
終了				戻る
				2005/07/27 18:13:36

設定項目	設定内容
自局名	ネットワーク上で使用される名前を半角 32 文字以内で設定します。
IP アドレス	GP の IP アドレスを設定します。IP アドレスは全 32 ビットを 8 ビットごとの 4 つの組に分け、それぞれ 10 進数で入力します。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。使用しない場合は「0」を設定します。
ポート	ポート番号を 5001 ~ 65516 で設定します。設定されたポート番号から連続した 10 ポートを使用します。ただし、GP で強制転送画面が表示されている場合はポート番号「8000」固定です。 MEMO プロジェクトファイル転送時に LAN での自動検索を行う場合は、[転送ツール] - [転送設定] - [通信ポートの設定] - [ポート (検索)] の番号と同じポート番号を設定してください。
デフォルトゲートウェイ	ゲートウェイの IP アドレスを設定します。ゲートウェイを使用しない場合は、すべて「0」に設定します。設定できるゲートウェイは 1 つのみです。
自動認識	ネットワークの自動認識を有効にするかどうか設定します。自動認識を行わない場合、[速度設定]、[Duplex] を手動で設定します。
速度設定	ネットワークの速度を [100M]、[10M] から選択します。
Duplex 設定	ネットワークの通信方式を [Half]、[Full] から選択します。

拡張機能設定

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定	ロジック設定	拡張機能設定	遠隔監視設定

RPA機能キーコード：

GP-Viewer EX機能キーコード：

	終了		戻る	2007/06/21 16:08:12
--	----	--	----	------------------------

設定項目	設定内容
RPA 機能キーコード	RPA 機能のキーコードを設定します。
GP-Viewer EX 機能キーコード	GP-Viewer EX 機能キーコードを設定します。

重 要

- 上記の機能を使用できる本体機種には制限があります。設定を行う前に、ご使用の機種が機能に対応しているかどうかご確認ください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-5 ページ)

遠隔監視設定

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定	ロジック設定	拡張機能設定	遠隔監視設定

Viewerの設定

Viewer機能: ☒ 使用する ☐ 使用しない

クライアントからの画面切替: ☒ 有効 ☐ 無効

FTPの設定

FTP機能: ☐ 使用する ☒ 使用しない

Web Serverの設定

Web Server機能: ☒ 使用する ☐ 使用しない

HTTPプロトコルのポート番号:

終了

戻る

2007/06/21 16:15:48

設定項目		設定内容
Viewer 機能		GP-Viewer EX 機能を設定します。
	使用する	GP-Viewer EX 機能を使用するかどうかを設定します。
	クライアントから画面切替を有効にする	GP-Viewer EX から表示器の画面切り替えを許可するかどうかを設定します。 MEMO • セキュリティ設定で読み書き操作の権限があるユーザでもこの項目が選択されていない場合は、GP-Viewer EX 側からの画面切り替えはできません。
Web Server の設定		Web Server 機能を設定します。
	Web Server を使用する	Web Server 機能を使用するかどうかを設定します。
	HTTP プロトコルのポート番号	Web Server 機能が使用するポート番号を 1 ~ 65535 で設定してください。 MEMO • 通常は 80 番をご使用になることをお奨めします。ただし、ファイアウォール等を使用しているため、80 番を使用できない場合は、ポート番号を変更する必要があります。 • 使用可能なポート番号については、ファイアウォールの設定より異なるため、ファイアウォールの設定を参照してください。
FTP を使用する		FTP 機能を使用するかどうかを設定します。

■ [周辺機器設定] の設定ガイド

接続機器設定

接続機器（PLC やホストなど）の通信に関する設定をここで行います。接続機器の通信設定と合わせるようにしてください。

MEMO

- ・ [接続機器設定] の詳細設定内容は接続機器により異なります。各接続機器の設定内容詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」をご確認ください。

接続機器設定	プリンタ設定	バーコード設定	USB	スクリプト設定
三菱電機(株) Q/OnA シリアルコミュニケーション COM2 接続台数: 1				
終了				
戻る				
2005/07/27 18:13:44				

設定項目	設定内容
メーカー	現在設定されている接続機器のメーカー名を表示します。
シリーズ	現在設定されている接続機器のシリーズ名を表示します。
ポート	現在設定されている接続機器の接続ポートを表示します。
接続台数	現在設定されている接続機器のタイプに何台接続されているかを表示します。

プリンタ設定

GP と接続するプリンタの機種や印字方法を設定します。

接続機器設定	プリンタ設定	バーコード設定	USB	スクリプト設定
タイプ:	EPSON PM/Stylus 6色インク ▼			
ポート:	USB			
印字方式:	☐ モノクロ ☒ カラー			
白黒反転:	☒ 有 ☐ 無			
画面ハードコピーの回転:	☒ 回転無し ☐ 左90度回転			
印字倍率:	3 ▼ ▲			
終了		戻る		2005/07/27 18:55:33

設定項目	設定内容
タイプ	接続するプリンタのタイプを [使用しない]、[NEC PR201]、[EPSON ESC/P 高速]、[EPSON ESC/P 高品位]、[HP Laser Jet]、[EPSON PM /Stylus6 色インク]、[EPSON Stylus4 色インク]、[テキスト ASCII] から選択します。 MEMO • [テキスト ASCII] の場合は印刷の方法が異なるため、文字の形状が異なる可能性があります。
ポート	プリンタが設定されているポートを表示します。
印字方式	印字方式を [モノクロ]、[カラー] から選択します。 MEMO • GP がモノクロの機種の場合は [印字方式] を [カラー] に設定してもモノクロで印字されます。
白黒反転	白黒反転で印字するかどうかを指定します。
画面ハードコピーの回転	画面ハードコピーする際の印字方向を [回転無し]、[左 90 度回転] から選択します。
印字倍率	タイプが [EPSON PM/Stylus6 色インク]、[EPSON Stylus4 色インク] の場合のみ、印字の倍率を 1 ～ 4 で設定します。

GP と接続するバーコードの通信方法を設定します。

接続機器設定	プリンタ設定	バーコード設定	USB	スクリーン設定
バーコード1 ▼ ポート: COM1 バーコードリーダー データ表示器 通信速度 (bps): 9600 ▼ データ長: 7bit ☐ 8bit ☒ パリティ: ☒ 無 ☐ 偶数 ☐ 奇数 ストップビット: 1 ☒ 2 ☐ フロー制御: RTS/CTS制御 ▼ 5V電源供給: ☐ する ☒ しない 終了 戻る 2005/07/27 18:22:01				

設定項目	設定内容
ポート	バーコードリーダを接続するポートの種別が表示されます。
タイプ	設定するバーコードを [バーコード 1]、[バーコード 2] から選択します。
データ格納先	バーコードリーダが読み取ったデータがどこへ格納されるか [データ表示器]、[内部デバイス] から表示されます。
通信速度	バーコードリーダと GP 間の通信速度を [2400]、[4800]、[9600]、[19200]、[38400]、[57600]、[115200] から選択します。
データ長	通信するデータの長さ (ビット) を [7bit]、[8bit] から選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を [無]、[偶数]、[奇数] から選択します。
ストップビット	ストップビットの長さ (ビット) を [1]、[2] から選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を [無]、[ER(DTR/CTS) 制御]、[RTS/CTS 制御] から選択します。
5V 電源供給	GP から 5V 電源を供給するかどうかを選択します。

USB

GP に接続している USB デバイスの情報（メーカー名と製品名）を表示します。

接続機器設定	プリンタ設定	バーコード設定	USB	スクリーン設定
メーカー 製品名				
				2005/07/27 18:18:50

設定項目	設定内容
メーカー	GP に接続している USB 機器のメーカー名を表示します。
製品名	GP に接続している USB 機器の製品名を表示します。

- MEMO

- 以下の表の同一カテゴリに属する USB 機器を複数同時に使用することはできません。同一カテゴリに属する USB 機器を複数装着しても、使用できるのは先に GP が認識した USB 機器 1 つのみです。

カテゴリ	USB 機器
1	プリンタ、USB-PIO 変換器
2	キーボード、テンキー、バーコードリーダ
3	マウス
4	USB ストレージ（USB メモリ、CF カードリーダ等）
5	USB 転送ケーブル
6	USB- シリアル (RS-232C) 変換ケーブル

スクリプト設定

スクリプトで使用する接続機器の通信設定を行います。

接続機器設定	プリンタ設定	バーコード設定	USB	スクリプト設定
スクリプト1 ▼ ポート: COM1 通信方式: RS232C ▼ 通信速度(bps): 9600 ▼ データ長: ☐ 7bit ☒ 8bit パリティ: ☒ 無 ☐ 偶数 ☐ 奇数 ストップビット: ☒ 1 ☐ 2 フロー制御: RTS/CTS制御 ▼ 5V電源供給: ☐ する ☒ しない 終了 戻る 2005/07/27 18:13:53				

設定項目	設定内容
ポート	スクリプトで使用するポートを [COM1]、[COM2] から選択します。
通信方式	通信方式を [RS232C]、[RS422/485(4 線式)]、[RS422/485(2 線式)] から選択します。
通信速度 (bps)	通信速度を [2400]、[4800]、[9600]、[19200]、[38400]、[57600]、[115200] から選択します。
データ長	通信データ長を [7bit]、[8bit] から選択します。
パリティビット	通信パリティビットを [無]、[奇数]、[偶数] から選択します。
ストップビット	通信ストップビット長を [1]、[2] から選択します。
フロー制御	通信方式が [RS232C] の場合のみ、通信制御方式を [無]、[RTS/CTS 制御]、[ER(DTR/CTS) 制御] から選択します。
5V 電源供給	通信方式が [RS232C] の場合のみ、5V 電源供給の設定をするかどうかを設定します。接続機器が電源供給を必要とする時のみ [する] に設定してください。5V 電源供給を必要としないのに [する] を設定した場合、接続機器や GP の故障の原因になります。設定する際は接続機器や接続ケーブルの仕様をよくご確認ください。

■ [パスワード設定] の設定ガイド

システムパスワード

「メモリの初期化」やオフラインモードに切り替えるときに使用するパスワードの設定です。

システムパスワード セキュリティパスワード

新しいパスワードを入力してください: 0

新しいパスワードを入力してください: 3

再度、新しいパスワードを入力してください: 8

終了 戻る 2005/07/27 18:13:58 2005/07/27 18:14:02

設定項目	設定内容
新しいパスワードを入力してください	初期設定時やオフラインモードに入る際のシステムパスワードを 0 ~ 99999999 で設定します。システムパスワードが不要な場合は「0」を設定します。
再度、新しいパスワードを入力してください	確認のため再度パスワードを入力します。

セキュリティパスワード

レベル 15 のパスワードを入力すると、レベル 1 からレベル 15 までのパスワードが変更できるようになります。

システムパスワード セキュリティパスワード

レベル15のパスワードを入力してください:

レベル15のパスワードを入力してください: z

パスワード変更レベルの選択

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

現在のパスワード: z

終了 戻る 2005/07/27 18:14:11 2005/07/27 18:14:21

設定項目	設定内容
レベル 15 のパスワードを入力してください	セキュリティパスワードを変更するために、レベル 15 のパスワードを入力します。 MEMO ・あらかじめレベル 15 のセキュリティパスワードが設定されていない場合は、オフラインモードでセキュリティパスワードの変更はできません。セキュリティパスワードを設定したプロジェクトファイルを GP に転送してください。
パスワード変更レベルの選択	変更したいパスワードレベルを 1 ~ 15 で選択します。
現在のパスワード	現在のパスワードを入力します。

■ [初期化メニューの設定] ガイド

ユーザメモリの初期化

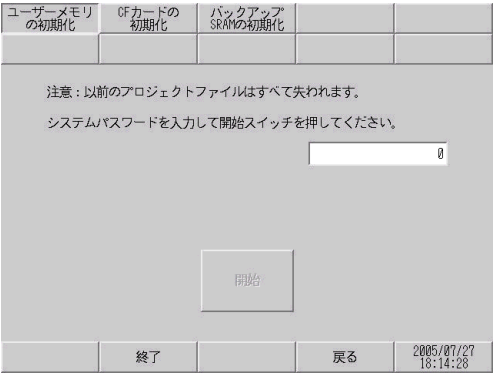
GP のユーザメモリに格納されているデータをすべて消去します。

重 要

- [開始] スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。
初期化中は電源を切らないでください。
- バックアップ SRAM のデータも消去されます。
- 初期化を行っても、GP のシステム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データは消去されません。
- ロジックプログラムの保持データもすべて消去されます。

MEMO

- 初期化に数十秒かかる場合があります。



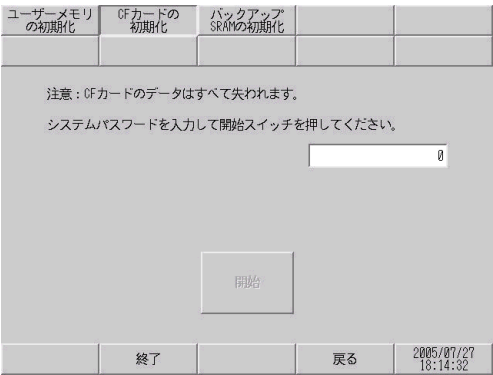
設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	ユーザメモリの初期化を開始します。

CF カードの初期化

GP に装着された CF カードのデータをすべて消去します。

重 要

- ・ [開始] スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。



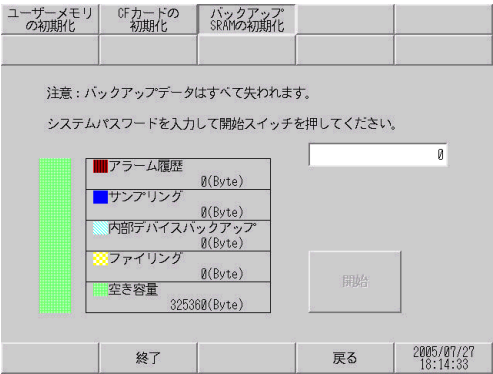
設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	CF カードの初期化を開始します。

バックアップ SRAM の初期化

GP のバックアップ SRAM に格納されているデータをすべて消去します。

重 要

- ・ [開始] スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。
- ・ バックアップしているデータは消去されます。
- ・ 初期化を行っても、システム、通信プロトコル、時刻の設定データ、ロジックプログラムの保持データは消去されません。

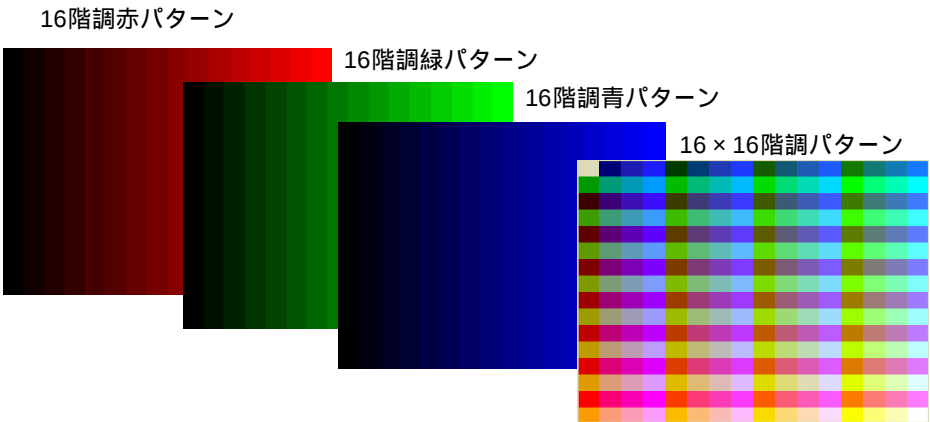


設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	バックアップ SRAM の初期化を開始します。

■ [メンテナンスメニュー] の設定ガイド

表示パターンチェック

描画機能のチェックです。液晶ディスプレイが正しく表示されるかチェックします。画面をタッチすると表示パターンを切り替えて表示します。

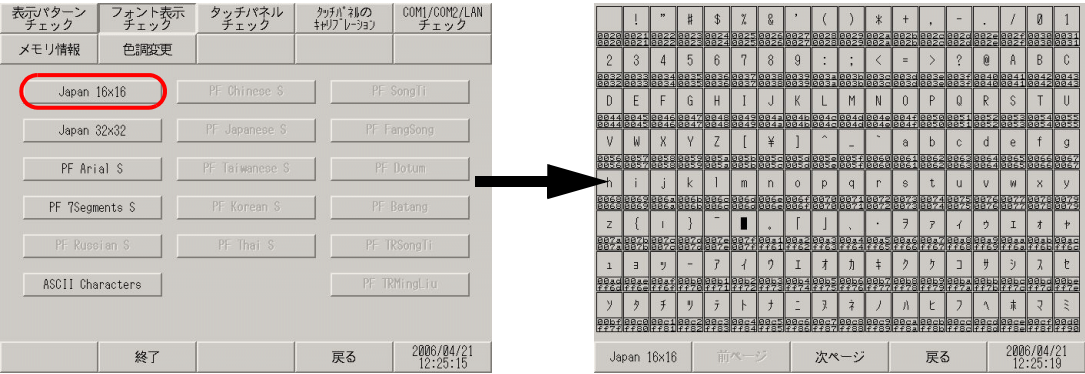


設定項目	設定内容
16 階調赤パターン	16 階調赤パターンを表示します。
16 階調緑パターン	16 階調緑パターンを表示します。
16 階調青パターン	16 階調青パターンを表示します。
16 × 16 階調パターン	16 × 16 階調パターンを表示します。

MEMO	・ モノクロ機種では 16 階調もしくは 8 階調パターンのみ表示されます。
-------------	--

フォント表示チェック

インストールされているフォントのフォントパターンを表示します。各フォント（日本、欧米、中国語（繁体字）中国語（簡体字）、韓国、キリル文字、タイ語）の文字パターンをチェックします。各言語のフォントイメージをチェックします。中国語（繁体字）中国語（簡体字）、韓国、キリル文字、タイ語についてはユーザがダウンロードしているフォントのみチェックできます。



設定項目	設定内容
フォント一覧	イメージチェックするフォントを [Japan16 × 16]、[Japan32 × 32]、[PF Arial S]、[PF 7Segments S]、[PF Russian S]、[ASCII Characters]、[PF Chinese S]、[PF Japanese S]、[PF Taiwanese S]、[PF Korean S]、[PF Thai S]、[PF NumericFull S]、[PF SongTi]、[PF FangSong]、[PF Dotum]、[PF Batang]、[PF TRSongTi]、[PF TRMingLiu] から選択します。フォントの項目をタッチするとパターン表示確認画面に移行します。 MEMO • ASCII フォントグループのみ別画面に項目を表示します。

タッチパネルチェック

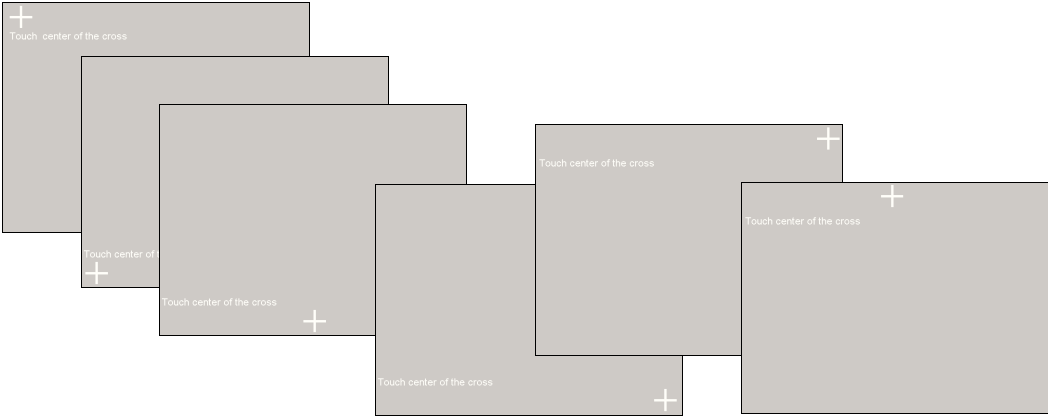
タッチパネルのチェックです。タッチした箇所が正しく反応するかチェックします。



設定項目	設定内容
タッチパネルチェック	タッチパネルの入力を行い、入力された座標にドット表示を行います。タッチ箇所 の表示反転を目視確認できます。 MEMO 画面の右上か左上または左下のいずれかをタッチすると、ドットの色を変更 することができます。それぞれの色は右上（黄色） 左上（青色） 左下（赤色） です。
END	メニュー画面に戻ります。

タッチパネルのキャリブレーション

アナログタッチパネルの補正（キャリブレーションの設定）を行います。



設定項目	設定内容
Touch Center of the Cross	+ 印が移動、または消えるまでタッチし続けます。 MEMO + 印と離れている箇所をタッチした場合は、誤入力と認識し、正常にキャリブ レーションモードを終了しません。

COM1/COM2/LAN チェック

RS-232C、RS-422、LAN の送受信ラインのチェックです。異常が発生したときにチェックします。
COM1、COM2 のチェックを行うには SIO ケーブルの接続が必要です。正常なら [OK]、異常ならエラーメッセージを表示します。

表示パターン チェック	フォント表示 チェック	タッチパネル チェック	カメラの 接続チェック	COM1/COM2/LAN チェック
メモリ情報	色調変更			
COM1/RS232C				
COM1/RS422				
COM2/RS422				
LAN				
終了		戻る		2005/07/27 18:15:01

設定項目	設定内容
COM1/RS232C	GP の COM1、RS-232C モードの端子が正常かどうかをチェックします。
COM1/RS422	GP の COM1、RS-422 モードの端子が正常かどうかをチェックします。
COM2/RS422	GP の COM2 の端子が正常かどうかをチェックします。
LAN	内部のループバックチェックを行います。MAC アドレスのチェックを行います。 MEMO LAN インターフェイスのない機種ではこの項目は表示されません。

MEMO

- COM1、COM2 のチェックを行うにはループバックケーブルの作成が必要になります。詳細は以下を参照してください。

☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ループバックケーブルの作成」(2-50 ページ)

メモリ情報

GP 本体のメモリの総量と使用量が表示されます。

表示パターン チェック	フォント表示 チェック	タッチパネル チェック	カメラの 接続チェック	COM1/COM2/LAN チェック
メモリ情報	色調変更			
NAND USE/TOTAL 6074(KB)/ 32752(KB)				
CF USE/TOTAL 258(KB)/ 31280(KB)				
USB USE/TOTAL 23784(KB)/250352(KB)				
USE		FREE		
終了		戻る		2005/04/24 09:03:56

設定項目	設定内容
NAND USE/TOTAL	NAND (画面データが格納されるエリア) のメモリ総量と使用量を表示します。ヒストグラムでは青色部分が使用量、緑色部分が空き容量を示します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
CF USE/TOTAL	CF カードのメモリ総量と使用量を表示します。ヒストグラムでは青色部分が使用量、緑色部分が空き容量を示します。
USB USE/TOTAL	USB メモリの総量と使用量を表示します。ヒストグラムでは青色部分が使用量、緑色部分が空き容量を示します。 MEMO - 各デバイスの表示容量の上限は 2,097,151 KB(2,147,483,647 バイト) です。(約 2G バイト) 総容量もしくは空き容量が上記上限を超える場合も 2,097,151 KB と表示されます。 - USB メモリが正しく装着されていない場合は表示されません。

色調変更

オフラインモードの色調を変更できます。

設定項目	設定内容
Color	色調を変更する箇所を [Base]、[Text]、[BackGround] から選択します。
Default	調整値を初期状態に戻します。
RGB	[Color] で選択した箇所の色調を変更します。R、G、B の各色設定値を 0 ~ 255 で入力します。入力方法には 3 つの方法があります。 - 数値で入力する (数値をタッチして表示されたキーボードで各要素の値を入力します。) - ドラムボタンで入力する (数値入力枠の横にある ▼ で数値を変更します。+5 または -5 ずつ変化します。) - 直接入力する (RGB の各ヒストグラムを直接タッチして数値を変更します。)

■ [転送] の設定ガイド

プロジェクトファイルの転送

オフラインモードでプロジェクトファイルを転送する場合に設定します。

プロジェクト ファイルの転送	CF → SRAM の転送	SRAM → CF の転送		
データ転送を開始してください。				
終了		戻る		2005/07/27 18:15:26

設定項目	設定内容
データ転送を開始してください。	オフラインモードでプロジェクトファイルを転送する場合は、上記画面で GP を転送待ち状態にする必要があります。 [データ転送を開始してください。] というメッセージが表示されてから、GP-Pro EX でプロジェクトファイル転送を行ってください。 MEMO - プロジェクトファイル転送後は自動的に GP が再起動されます。 - オフラインモードで設定を変更し、保存していない場合は [設定の保存] ダイアログボックスが表示されます。

CF->SRAM の転送

CF カードにある SRAM バックアップデータ (SRAM→CF で転送したデータ) の内容を内部メモリ (SRAM) に転送します。

プロジェクト ファイルの転送	CF → SRAM の転送	SRAM → CF の転送		
CFカードからSRAMへコピー				
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。				
0				
開始				
終了		戻る		2005/07/27 18:15:32

設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	CF カードに保存したバックアップ SRAM データを GP に転送開始します。

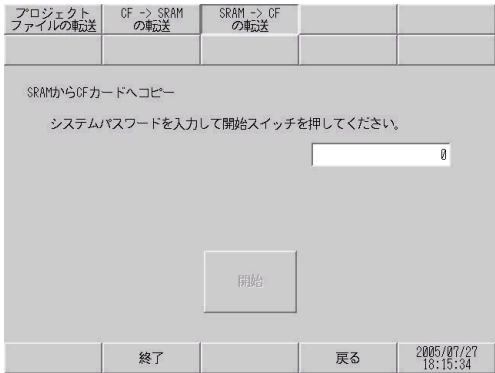
SRAM->CF の転送

内部メモリ（SRAM）の内容を CF カードに転送します。

MEMO

- SRAM の内容は GP-Pro EX で [SRAM 自動バックアップ] の [コントロールワードアドレス] を設定し、このアドレスのビットを ON することでも CF カードに転送できます。アドレスの設定方法は下記を参照してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.15.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド・メモ리카ード設定」(5-140 ページ)



設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	GP 内のバックアップ SRAM データを CF カードに転送開始します。CF カード内に ¥SRAM¥Z000001.BIN というファイルが作成されます。

重要

- CF カードの空き容量は必ずバックアップ SRAM のサイズより大きくしてください。
- バックアップ SRAM のファイルは CF カードに 1 ファイルしか保存できません。
- オフラインモードで [CF カードの初期化] を実行すると SRAM フォルダを作成します。
- オフラインモードで CF カードからバックアップ SRAM への転送を実行すると、それまで保存していたデータ（ロギングデータなど）がすべて転送されたデータに書き換わり、消去されます。
- オフラインモードで CF カードからバックアップ SRAM への転送を実行しても、[輝度]、[コントラスト]、[音量調節] の設定値は変更されません。ただし、運転モードに移行したり、電源を再度投入した場合は転送されたデータで動作します。
- オフラインモードで CF カードからバックアップ SRAM への転送を実行すると、VGA、SVGA 表示している場合に調整済みの VGA/SVGA 表示が変更される場合があります。
- オフラインモードで CF カードからバックアップ SRAM への転送を実行すると、それまで記憶していた日本語 FEP の学習情報が上書きされます。このため日本語 FEP の変換候補に表示されていた使用頻度の優先順位が変わる場合があります。

2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合

メニュー	設定内容
	「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 ■ [ホーム] の設定ガイド」(2-113 ページ)
	「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 ■ [本体設定] の設定ガイド ロジック設定」(2-115 ページ)
	「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 ■ [周辺機器設定] の設定ガイド」(2-116 ページ) 「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定 (I/O チェック)」(2-116 ページ) 「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合・I/O チェック→接続チェック実行画面」(2-116 ページ) 「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定 (I/O モニタ)」(2-117 ページ) 「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合・入力タイ プ (ビット) 出力タイプ (ビット)」(2-117 ページ) 「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合・入力タイ プ (ビット) 出力タイプ (整数)」(2-117 ページ) 「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合・入力タイ プ (整数) 出力タイプ (ビット)」(2-118 ページ) 「2.15.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合・入力タイ プ (整数) 出力タイプ (整数)」(2-118 ページ)

■ [ホーム] の設定ガイド

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			

OFFLINE LANGUAGE: JAPANESE ▼

ランタイムバージョン: 2.0.0

ドライババージョン:
Q/OnA シリアルコミュニケーション V1.10.02

OSバージョン: 2.0.0

→

保存	終了	取消	2006/09/15 14:24:53	
----	----	----	---------------------	--

設定項目	設定内容
OFFLINE LANGUAGE	オフラインメニューで使用する言語を [JAPANESE]、[ENGLISH] から選択します。
ランタイムバージョン	ランタイムのバージョンが表示されます。
ドライババージョン	プロトコルドライバのバージョンが表示されます。使用可能最大数の 4 ドライバを表示します。GP-3300 シリーズの場合は使用可能最大数の 2 ドライバを表示します。
OS バージョン	OS のバージョンが表示されます。
デバイスモニタバージョン	OSバージョン: 2.0.0 デバイスモニタバージョン: V1.00.00 保存 終了 取消 システム設定ウィンドウ [本体設定] の [拡張機能設定] タブで [デバイスモニタを使用する] を設定している場合のみデバイスモニタバージョンを表示します。

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			

I/Oドライババージョン:

D10 ドライバ V0.00.01

← →

保存	終了	取消	2006/04/18 12:46:56	
----	----	----	---------------------	--

設定項目	設定内容
I/O ドライババージョン	I/O ドライバ名と I/O ドライバランタイムバージョンが表示されます。

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			

プロジェクト情報

最終保存日時： 2006/03/31 14:49

機種情報： AGP-3600T-D81K

表示カラー： 16384色3速プリンク

作成エディタ名： GP-Pro EX

作成エディタバージョン： V0.00.000

作成者： TOMONO

コメント：



保存	終了	取消	2006/04/18 12:47:03
----	----	----	---------------------

設定項目	設定内容
最終保存日時	プロジェクトの最終保存日時を表示します。
機種情報	設定 GP 機種を表示します。
表示カラー	GP の表示カラーを表示します。
作成エディタ名	プロジェクトを作成したエディタ名を表示します。
作成エディタバージョン	プロジェクトを作成したエディタのバージョンを表示します。
作成者	プロジェクトを作成した人の名前を表示します。
コメント	プロジェクトのコメントを表示します。

■ [本体設定] の設定ガイド

ロジック設定

ロジックプログラムの設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定	ロジック設定		
ロジックプログラム ☒ 有効 ☐ 無効				
☒ コンスタントスキャン(10~2000) 10 ms				
☐ パーセントスキャン(10~50) 50 %				
WDT(100~3000) 500 ms				
H/W電源ON時の動作 ☒ 運転 ☐ 停止				
➡				
終了		戻る		2006/04/18 12:47:19

設定項目	設定内容
ロジックプログラム	[有効] の場合は、以下のすべての項目が設定できます。[無効] の場合は設定できません。
コンスタントスキャン	ロジック機能実行時間を 10~2000ms で設定します。
パーセントスキャン	ロジック機能実行時間の割合を 10 ~ 50% で設定します。
WDT(100 ~ 3000)	ウォッチドッグタイムを 100 ~ 3000ms で設定します。
H/W 電源 ON 時の動作	GP 本体を ON した時のロジックの動作を [運転]、[停止] から選択します。

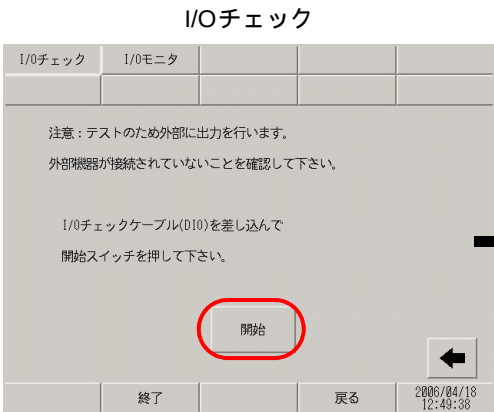
画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定	ロジック設定		
アドレスリフレッシュ 中速 ▼				
マイナーエラー時処理 ☐ 運転 ☒ 停止				
入出力設定 ☐ 有効 ☒ 無効				
⬅				
終了		戻る		2006/04/18 16:56:51

設定項目	設定内容
アドレスリフレッシュ	ロジックプログラムに割り付けられた接続機器や内部デバイスアドレスの値を更新する早さを [高速]、[中速]、[低速] から選択します。
マイナーエラー時処理	継続異常が発生したときのロジック動作を [運転]、[停止] から選択します。
入出力設定	入力、出力の動作を行う場合は [有効]、入力、出力の動作を [停止] する場合は [無効] を選択します。

■ [周辺機器設定] の設定ガイド

I/O ドライバ設定 (I/O チェック)

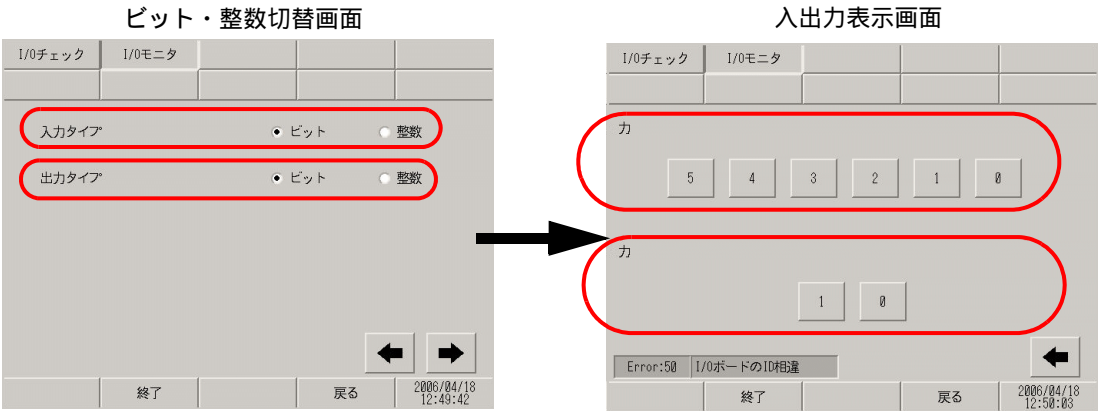
- I/O チェック→接続チェック実行画面



設定項目		設定内容
I/O チェック		I/O チェックを開始する画面です。
	開始	接続チェック実行画面に移り、I/O チェックを開始します。 MEMO • I/O チェックを開始するにはループバックケーブルの接続が必要です。DIO ボードにはシンクタイプとソースタイプがあり、それぞれループバックの配線も異なります。各配線方法は下記を参照してください。 ☞「2.9.2 本体DIOインターフェイスのON/OFFが正常かチェックしたい ■ 内部端子チェックを実行しよう！」(2-56 ページ)
接続チェック実行画面		接続チェックを実行する画面です。
	接続チェック実行画面	DIO ボードにループバックケーブルが接続された状態で、出力ターミナル 2 点の出力を入力ターミナル 6 点に入力して出力データと入力データを比較し、データが期待値に一致すれば正常に動作していると判断され [OK] が画面に表示されます。期待値と一致しない場合は [NG] が表示されます。

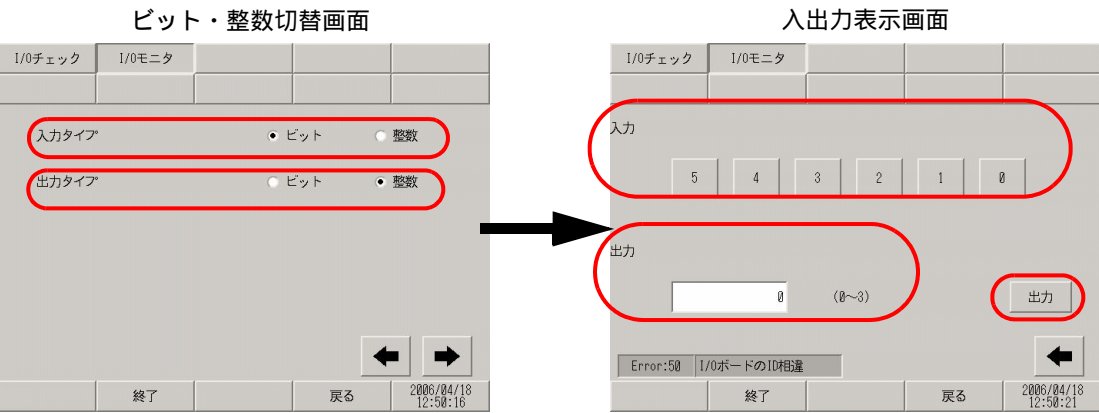
I/O ドライバ設定 (I/O モニタ)

- ・ 入力タイプ (ビット) 出力タイプ (ビット)



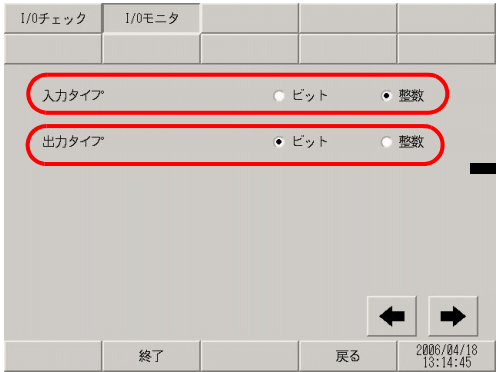
設定項目	設定内容
ビット・整数切替画面	入出力の状態をビットで表示するか、整数で表示するかを選択する画面です。
入力タイプ	入力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
出力タイプ	出力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
入出力表示画面	入出力状態をビットで表示する画面です。
入力	DIO の入力ビット 0 ~ 5 の現在の ON/OFF 状態が表示されます。
出力 [1]	タッチするたびに、DIO の出力ビット 1 の ON/OFF を反転します。
出力 [0]	タッチするたびに、DIO の出力ビット 0 の ON/OFF を反転します。

- ・ 入力タイプ (ビット) 出力タイプ (整数)

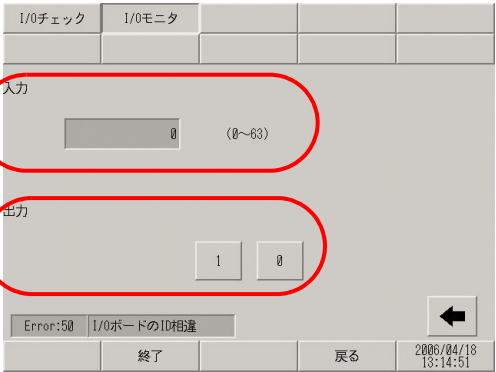


設定項目	設定内容
ビット・整数切替画面	入出力の状態をビットで表示するか、整数で表示するかを選択する画面です。
入力タイプ	入力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
出力タイプ	出力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
入出力表示画面	入力状態をビット、出力状態を整数で表示する画面です。
入力	DIO の入力ビット 0 ~ 5 の現在の ON/OFF 状態が表示されます。
出力	タッチするとテンキーが表示されます。出力する値を 0 ~ 3 で設定します。
出力	入力枠をタッチして表示される、テンキーで設定した値を出力します。

- ・ 入力タイプ (整数) 出力タイプ (ビット)
ビット・整数切替画面

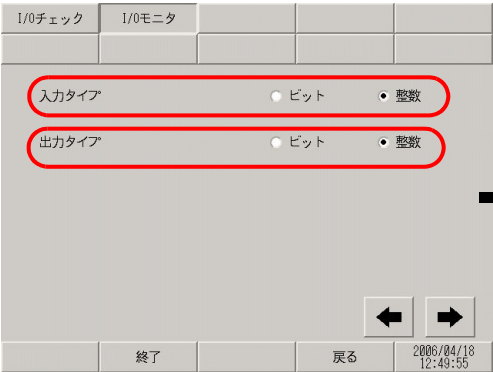


入出力表示画面

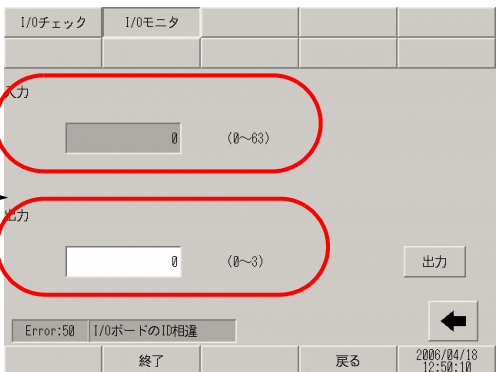


設定項目	設定内容
ビット・整数切替画面	入出力の状態をビットで表示するか、整数で表示するかを選択する画面です。
入力タイプ	入力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
出力タイプ	出力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
入出力表示画面	入力状態を整数、出力状態をビットで表示する画面です。
入力	DIN の現在の入力値が 0 ～ 63 で表示されます。
出力 [1]	タッチするたびに、DIO の出力ビット 1 の ON/OFF を反転します。
出力 [0]	タッチするたびに、DIO の出力ビット 0 の ON/OFF を反転します。

- ・ 入力タイプ (整数) 出力タイプ (整数)
ビット・整数切替画面



入出力表示画面



設定項目	設定内容
ビット・整数切替画面	入出力の状態をビットで表示するか、整数で表示するかを選択する画面です。
入力タイプ	入力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
出力タイプ	出力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
入出力表示画面	入出力の状態を整数で表示します。
入力	DIN の現在の入力値が 0 ～ 63 で表示されます。
出力	タッチするとテンキーが表示されます。出力する値を 0 ～ 3 で設定します。
出力	入力枠をタッチして表示される、テンキーで設定した値を出力します。

メニュー	設定内容
	「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 ■ [ホーム] の設定ガイド」(2-120 ページ)
	「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 ■ [本体設定] の設定ガイド ロジック設定」(2-121 ページ)
	「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 ■ [周辺機器設定] の設定ガイド」(2-122 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 通信チェック」(2-122 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・通信チェック → 通信チェック実行画面」(2-122 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 I/O モニタ」(2-123 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] 入力、FN-X16TS 使用時」(2-123 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] 入力、FN-X32TS 使用時」(2-123 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] 出力、FN-Y08L 使用時」(2-124 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] 出力、FN-Y16SK 使用時」(2-124 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] 出力、FN-Y16SC 使用時」(2-125 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] 入出力、FN-XY08TS 使用時」(2-125 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] 入出力、FN-XY16SK 使用時」(2-126 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] 入出力、FN-XY16SC 使用時」(2-126 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] 入出力、FN-XY32SKS 使用時」(2-127 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] アナログ、FN-AD02AH 使用時」(2-127 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] アナログ、FN-DA02AH 使用時」(2-128 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] アナログ、FN-AD04AH 使用時」(2-129 ページ) 「2.15.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[型式] アナログ、FN-DA04AH 使用時」(2-130 ページ)

■ [ホーム] の設定ガイド

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			

OFFLINE LANGUAGE: JAPANESE ▼

ランタイムバージョン: 2.0.0

ドライババージョン:
Q/OnA シリアルコミュニケーション V1.10.02

OSバージョン: 2.0.0

➡

保存	終了	取消	2006/09/15 14:24:53
----	----	----	------------------------

設定項目	設定内容
OFFLINE LANGUAGE	オフラインメニューで使用する言語を [JAPANESE]、[ENGLISH] から選択します。
ランタイムバージョン	ランタイムのバージョンが表示されます。
ドライババージョン	プロトコルドライバのバージョンが表示されます。使用可能最大数の 4 ドライバを表示します。GP-3300 シリーズの場合は使用可能最大数の 2 ドライバを表示します。
OS バージョン	OS のバージョンが表示されます。
デバイスモニタバージョン	OSバージョン: 2.0.0 デバイスモニタバージョン: V1.00.00 保存 終了 取消 システム設定ウィンドウ [本体設定] の [拡張機能設定] タブで [デバイスモニタを使用する] を設定している場合のみデバイスモニタバージョンを表示します。

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			

I/Oドライババージョン:
FLEX NETWORK ドライバ V0.00.02

◀ ▶

保存	終了	取消	2006/04/18 15:40:05
----	----	----	------------------------

設定項目	設定内容
I/O ドライババージョン	I/O ドライバ名と I/O ドライバランタイムバージョンが表示されます。

次のページに続きます。

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			

プロジェクト情報

最終保存日時: 2006/03/31 15:53

機種情報: AGP-3600T

表示カラー: 16384色3速プリンク

作成エディタ名: Convert Tool

作成エディタバージョン:

作成者:

コメント: 無題

←

保存	終了	取消		2006/04/18 15:40:09
----	----	----	--	---------------------

設定項目	設定内容
最終保存日時	プロジェクトの最終保存日時を表示します。
機種情報	設定 GP 機種を表示します。
表示カラー	GP の表示カラーを表示します。
作成エディタ名	プロジェクトを作成したエディタ名を表示します。
作成エディタバージョン	プロジェクトを作成したエディタのバージョンを表示します。
作成者	プロジェクトを作成した人の名前を表示します。
コメント	プロジェクトのコメントを表示します。

■ [本体設定] の設定ガイド

ロジック設定

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定	ロジック設定		

ロジックプログラム ☒ 有効 ☐ 無効

☒ コンスタントスキャン(10~2000) ms

☐ パーセントスキャン(10~50) %

WDT(100~3000) ms

H/W電源ON時の動作 ☒ 運転 ☐ 停止

→

	終了		戻る	2006/04/18 12:47:15
--	----	--	----	---------------------

設定項目	設定内容
ロジックプログラム	[有効] の場合は、以下のすべての項目が設定できます。[無効] の場合は設定できません。
コンスタントスキャン	ロジック機能実行時間を 10~2000ms で設定します。
パーセントスキャン	ロジック機能実行時間の割合を 10 ~ 50% で設定します。
WDT	ウォッチドッグタイムを 100 ~ 3000ms で設定します。
H/W 電源 ON 時の動作	GP 本体を ON した時のロジックの動作を [運転]、[停止] から選択します。

次のページに続きます。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定	ロジック設定		
アドレスリフレッシュ 中速				
マイナーエラー時処理 ☐ 運転 ☒ 停止				
入出力設定 ☐ 有効 ☒ 無効				
←				
終了		戻る		2006/04/18 16:56:51

設定項目	設定内容
アドレスリフレッシュ	ロジックプログラムに割り付けられた接続機器や内部デバイスアドレスの値を更新する早さを「高速」、「中速」、「低速」から選択します。
マイナーエラー時処理	継続異常が発生したときのロジック動作を「運転」、「停止」から選択します。
入出力設定	入力、出力の動作を行う場合は「有効」、入力、出力の動作を「停止」する場合は「無効」を選択します。

■ 「周辺機器設定」の設定ガイド

通信チェック

通信チェックし、チェック結果が表示されます。

- 通信チェック → 通信チェック実行画面

通信チェック

通信チェック	I/Oモニタ			
通信速度 ☒ 6Mbps ☐ 12Mbps				
本テストを実行すると、接続されているI/OユニットのS-No.が反転表示されます。I/Oユニットの設定に間違いがないかご確認ください。				
開始				
終了		戻る		2006/04/18 15:40:55

通信チェック実行画面

通信チェック	I/Oモニタ						
接続されているI/Oユニット数 0							
接続されているS-No.を反転表示							
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	32
33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54	55	56
57	58	59	60	61	62	63	
Error:50 I/OボードのID相違							
終了		戻る		2006/04/18 15:41:07			

設定項目	設定内容
通信チェック	通信チェック開始画面です。
通信速度	通信速度を「6Mbps」、「12Mbps」から選択します。
開始	通信チェック実行画面に移り、通信チェックを開始します。
通信チェック実行画面	通信チェックを実行する画面です。
接続されている I/O ユニット数	正常に通信が行われたユニットの合計数が数値で表示されます。
接続されている S-No. を反転表示	正常に通信が行われたユニットの S-No. が反転表示されます。

I/O モニタ

- ・ [型式] 入力、FN-X16TS 使用時

ユニット設定画面



ビットモニタ画面

整数モニタ画面

設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ～ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態を整数表示します。

- ・ [型式] 入力、FN-X32TS 使用時

ユニット設定画面



ビットモニタ画面

整数モニタ画面

設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ～ 62 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態をビット表示します。 MEMO ・ 一度にモニタできるのは 16 ビットです。入力 16 ～ 31 をモニタしたい場合は前画面に戻り、[S-No] を +1 の値で入力してからモニタしてください。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態を整数表示します。

- ・ [型式] 出力、FN-Y08L 使用時

ユニット設定画面

ビットモニタ画面

整数モニタ画面

設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ～ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態を整数表示します。

- ・ [型式] 出力、FN-Y16SK 使用時

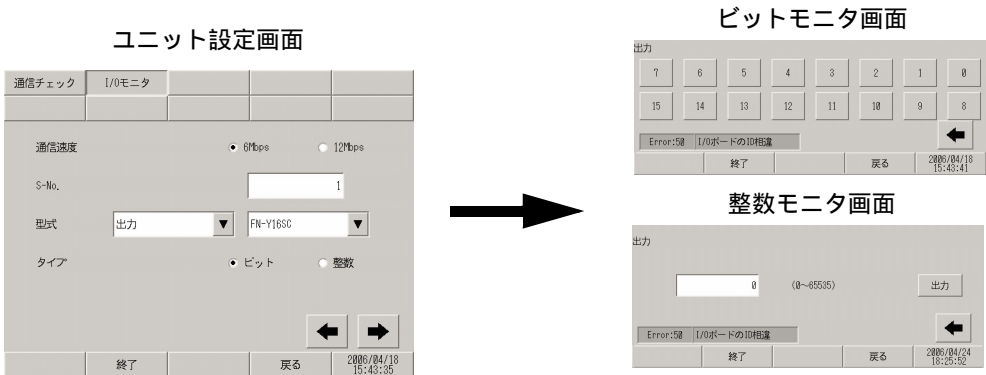
ユニット設定画面

ビットモニタ画面

整数モニタ画面

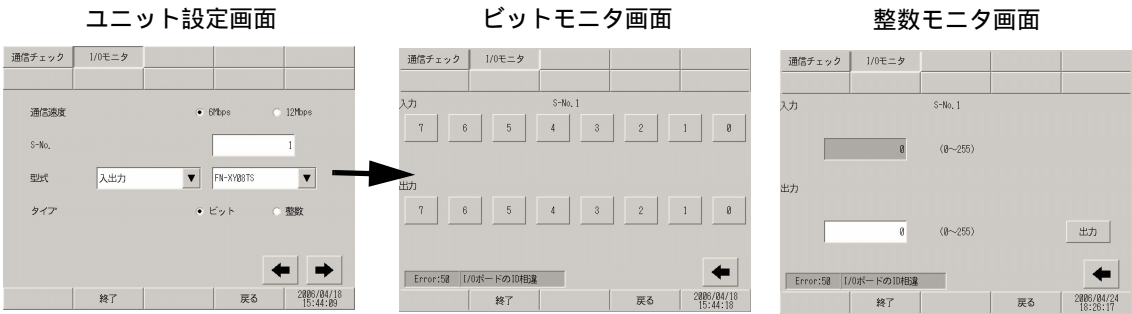
設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ～ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態を整数表示します。

- ・ [型式] 出力、FN-Y16SC 使用時



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ～ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態を整数表示します。

- ・ [型式] 入出力、FN-XY08TS 使用時



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ～ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態を整数表示します。

- ・ [型式] 入出力、FN-XY16SK 使用時

ユニット設定画面

通信チェック I/Oモニタ

通信速度 ☒ 6Mbps ☐ 12Mbps

S-No.

型式 FN-XY16SK

タイプ ☒ ビット ☐ 整数

終了 戻る 2005/04/18 15:44:34

ビットモニタ画面

通信チェック I/Oモニタ

入力 S-No. 1

7	6	5	4	3	2	1	0
15	14	13	12	11	10	9	8

出力

7	6	5	4	3	2	1	0
15	14	13	12	11	10	9	8

Error:5端 I/Oポートの10相違

終了 戻る 2005/04/18 15:44:39

整数モニタ画面

通信チェック I/Oモニタ

入力 S-No. 1

(0~65535)

出力

(0~65535) 出力

Error:5端 I/Oポートの10相違

終了 戻る 2005/04/24 18:28:38

設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ～ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態を整数表示します。

- ・ [型式] 入出力、FN-XY16SC 使用時

ユニット設定画面

通信チェック I/Oモニタ

通信速度 ☒ 6Mbps ☐ 12Mbps

S-No.

型式 FN-XY16SC

タイプ ☐ ビット ☒ 整数

終了 戻る 2005/04/18 15:45:00

ビットモニタ画面

通信チェック I/Oモニタ

入力 S-No. 1

7	6	5	4	3	2	1	0
15	14	13	12	11	10	9	8

出力

7	6	5	4	3	2	1	0
15	14	13	12	11	10	9	8

Error:5端 I/Oポートの10相違

終了 戻る 2005/04/18 15:45:06

整数モニタ画面

通信チェック I/Oモニタ

入力 S-No. 1

(0~65535)

出力

(0~65535) 出力

Error:5端 I/Oポートの10相違

終了 戻る 2005/04/24 18:28:46

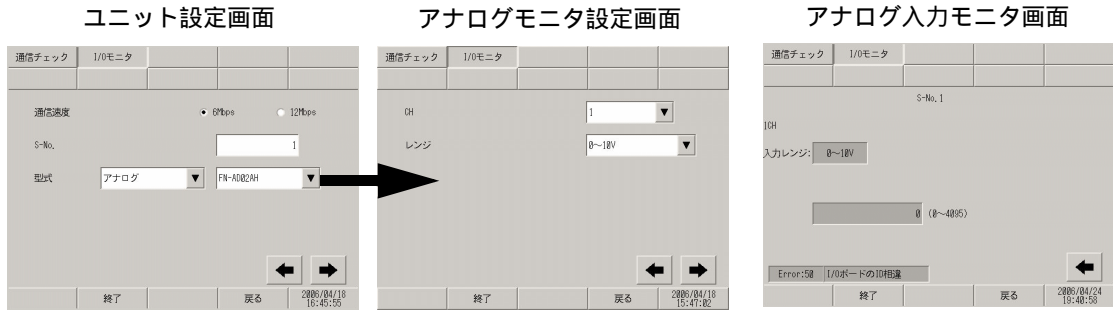
設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ～ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態を整数表示します。

- ・ [型式] 入出力、FN-XY32SKS 使用時



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ～ 60 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態をビット表示します。 MEMO ・ 一度にモニタできるのは 16 ビットです。入力 16 ～ 31 をモニタしたい場合は前画面に戻り、[S-No.] を +1 の値で入力してからモニタしてください。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態を整数表示します。

- ・ [型式] アナログ、FN-AD02AH 使用時

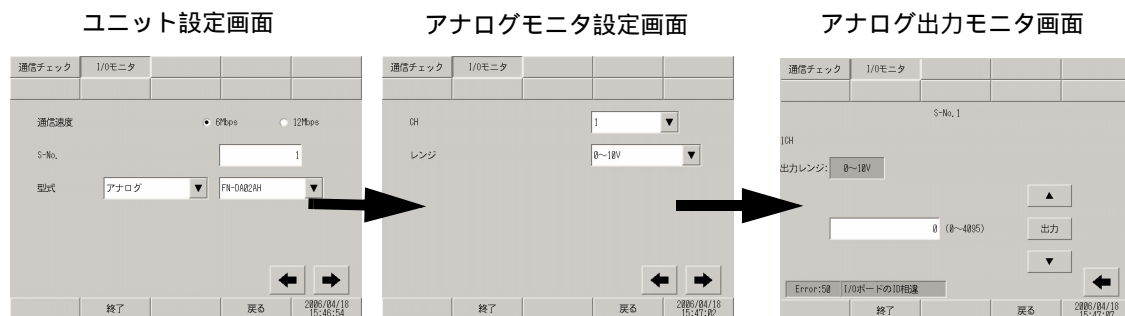


設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ～ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
アナログモニタ設定画面	確認するチャンネルとレンジを設定します。
CH (チャンネル)	確認するチャンネルを 1 ～ 2 で選択します。
レンジ	確認するレンジを [0 ～ 10V]、[0 ～ 20mA]、[4 ～ 20mA] から選択します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
アナログ入力モニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態を整数表示します。
S-No.	AD ユニットの設定した S-No. が表示されます。
入力レンジ	アナログモニタ設定画面で選択されたレンジが表示されます。
入力値の表示	ユニットから読み出された 12 ビットの AD 値が表示されます。

- ・ [型式] アナログ、FN-DA02AH 使用時



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
アナログモニタ設定画面	確認するチャンネルとレンジを設定します。
CH (チャンネル)	確認するチャンネルを 1 ~ 2 で選択します。
レンジ	確認するレンジを [0 ~ 10V]、[0 ~ 20mA]、[4 ~ 20mA] から選択します。
アナログ出力モニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態を整数表示します。
S-No.	DA ユニットの設定した S-No. が表示されます。
出力レンジ	アナログモニタ設定画面で選択されたレンジが表示されます。
数値入力	ユニットに出力する 12 ビットの DA 値を設定します。
出力	設定された DA 値をユニットに出力します。
↑↓	出力する DA 値を ± 1 ずつ上げ下げするスイッチです。

- ・ [型式] アナログ、FN-AD04AH 使用時

ユニット設定画面

通信チェック I/Oモニタ

通信速度 ☒ 6Mbps ☐ 12Mbps

S-No.

型式

← →

終了 戻る 2005/04/18 15:47:20

アナログモニタ設定画面

通信チェック I/Oモニタ

CH

← →

終了 戻る 2005/04/18 15:47:24

アナログ入力モニタ画面

通信チェック I/Oモニタ

S-No. 1 V000.000

1CH

入力レンジ:

(0~4095)

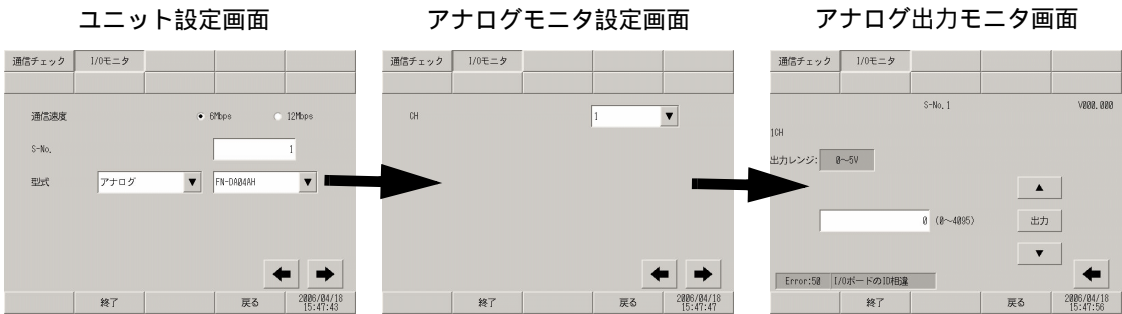
Error:50 I/OポートのIOP故障

←

終了 戻る 2005/04/18 15:47:29

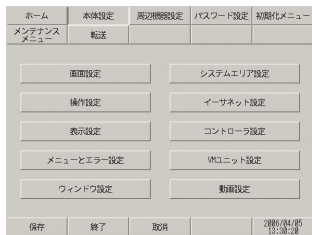
設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 60 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
アナログモニタ設定画面	確認するチャンネルを設定します。
CH (チャンネル)	確認するチャンネルを 1 ~ 4 で選択します。
アナログ入力モニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態を整数表示します。
S-No.	AD ユニットの設定した S-No. が表示されます。
バージョン	ユニットのバージョン情報が表示されます。
入力レンジ	ユニット側で設定されたレンジが表示されます。
入力値の表示	ユニットから読み出された 12 ビットの AD 値が表示されます。

- ・ [型式] アナログ、FN-DA04AH 使用時



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 60 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
アナログモニタ設定画面	確認するチャンネルを設定します。
CH (チャンネル)	確認するチャンネルを 1 ~ 4 で選択します。
アナログ出力モニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態を整数表示します。
S-No.	DA ユニットの設定した S-No. が表示されます。
バージョン	ユニットのバージョン情報が表示されます。
出力レンジ	ユニット側で設定されたレンジが表示されます。
数値入力	ユニットに出力する 12 ビットの DA 値を設定します。
出力	設定された DA 値をユニットに出力します。
↑↓	出力する DA 値を ± 1 ずつ上下するスイッチです。

2.15.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合

メニュー	設定内容
	「2.15.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 ■ [本体設定] の設定ガイド」(2-131 ページ) 「2.15.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 (動画共通設定)」(2-131 ページ) 「2.15.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 (ビデオ表示)」(2-132 ページ) 「2.15.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 (ビデオ録画)」(2-134 ページ) 「2.15.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 (ビデオ再生)」(2-136 ページ)

■ [本体設定] の設定ガイド

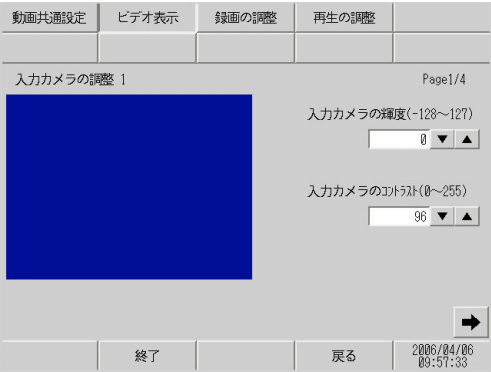
動画設定 (動画共通設定)

動画共通設定	ビデオ表示	録画の調整	再生の調整	
ビデオ入力 ☒ NTSC ☐ PAL ☐ SECAM 録画サイズ ☒ QVGA (320×240) ☒ 384 Kbps ☐ 256 Kbps ☐ QCIF (176×144) ☒ 128 Kbps ☐ 64 Kbps 設定を反映させる為、再起動してください				
終了			戻る	2006/04/06 10:06:42

設定項目	設定内容
ビデオ入力	入力画像信号を選択します。 ・ NTSC : 640 × 480 ドット ・ PAL : 768 × 576 ドット ・ SECAM : 768 × 576 ドット
録画サイズ	録画サイズを選択します。 ・ QVGA(384kbps) : 320 × 240 ドット ・ QVGA(256kbps) : 320 × 240 ドット ・ QCIF(128kbps) : 176 × 144 ドット ・ QCIF(64kbps) : 176 × 144 ドット

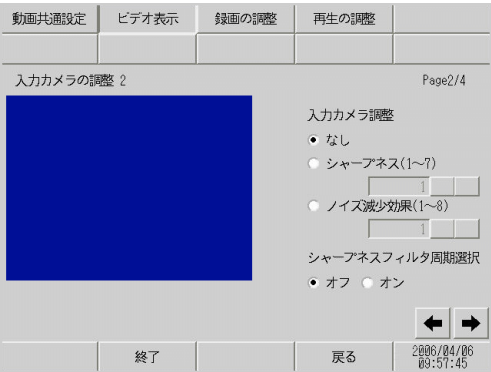
動画設定（ビデオ表示）

（ 1/4 ）



設定項目	設定内容
入力カメラの輝度	入力カメラの輝度を設定します。設定範囲は 0 ～ 255 です。
入力カメラのコントラスト	入力カメラのコントラストを設定します。設定範囲は 0 ～ 255 です。

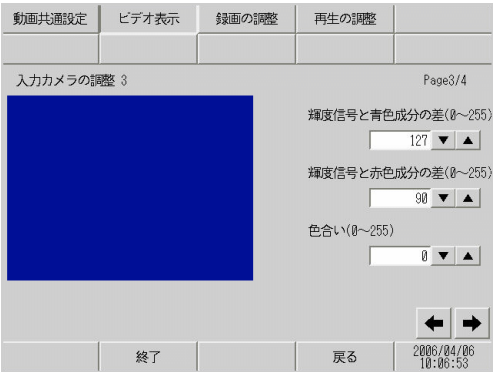
（ 2/4 ）



設定項目	設定内容
入力カメラ調整	入力カメラの調整を「なし」、「シャープネス」、「ノイズ減少効果」から選択します。「シャープネス」はコントラストを上げることで被写体をくっきり見せますがノイズまでくっきり見えてしまう場合があります。「ノイズ減少効果」はコントラストを下げ、ノイズをぼやけさせます。「シャープネス」を選択している場合は、1(弱)～7(強)で設定します。
シャープネスフィルタ周期選択	輝度信号の輪郭部を強調補正するかどうかを設定します。これにより、映像の細部をよりクリアに表現することができます。

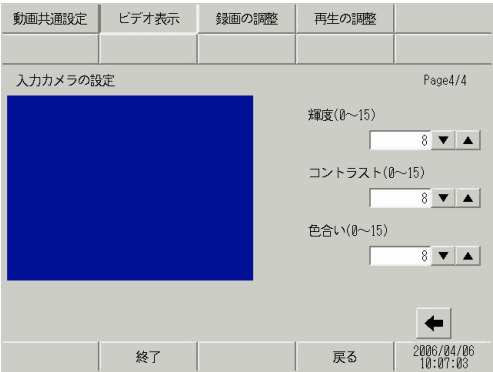
次のページに続きます。

(3/4)



設定項目	設定内容
輝度信号と青色成分の差 (0 ~ 255)	輝度信号 (Y) と、輝度信号と青色成分の差 (U)、輝度信号と赤色成分の差 (V) の 3 つの情報で色を表記する際の (YUV 表記) 青色成分の差を 0 ~ 255 で設定します。人間の目において調整すると、輝度情報により多くのデータ量を割り当てることができ、少ない画質の劣化で高いデータ圧縮率を得ることができます。
輝度信号と赤色成分の差 (0 ~ 255)	輝度信号 (Y) と、輝度信号と青色成分の差 (U)、輝度信号と赤色成分の差 (V) の 3 つの情報で色を表記する際の (YUV 表記) 赤色成分の差を 0 ~ 255 で設定します。人間の目において調整すると、輝度情報により多くのデータ量を割り当てることができ、少ない画質の劣化で高いデータ圧縮率を得ることができます。
色合い (0 ~ 255)	入力カメラ画面の色合いを設定します。設定範囲は 0 ~ 255 です。

(4/4)



設定項目	設定内容
輝度 (0 ~ 15)	画面の輝度を設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
コントラスト (0 ~ 15)	画面のコントラストを設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
色合い (0 ~ 15)	画面の色合いを設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。

動画設定（ビデオ録画）

(1/4)

動画共通設定	ビデオ表示	録画の調整	再生の調整	
入力カメラの調整 1 Page1/4				
		入力カメラの輝度(-128~127)		
		0 ▼ ▲		
		入力カメラのコントラスト(0~255)		
			96 ▼ ▲	
		録画 再生		➡
終了		戻る		2006/04/06 09:57:56

設定項目	設定内容
入力カメラの輝度	入力カメラの輝度を設定します。設定範囲は 0 ～ 255 です。
入力カメラのコントラスト (0 ～ 255)	入力カメラのコントラストを設定します。設定範囲は 0 ～ 255 です。

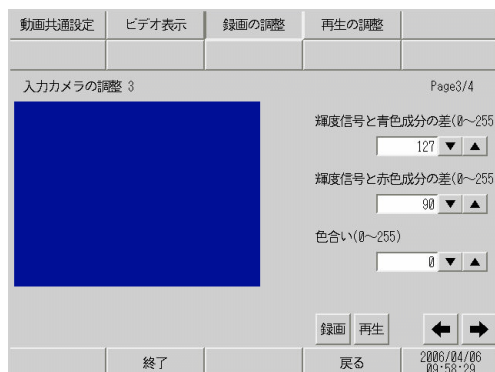
(2/4)

動画共通設定	ビデオ表示	録画の調整	再生の調整	
入力カメラの調整 2 Page2/4				
		入力カメラ調整		
		☒ なし		
		☐ シャープネス(1~7)		
		1 1		
		☐ ノイズ減少効果(1~8)		
			1 1	
		シャープネスフィルタ周期選択		
		☒ オフ ☐ オン		
		録画 再生		⬅ ➡
終了		戻る		2006/04/06 09:58:23

設定項目	設定内容
入力カメラ調整	入力カメラの調整を [なし]、[シャープネス]、[ノイズ減少効果] から選択します。[シャープネス] はコントラストを上げることで被写体をくっきり見せますがノイズまでくっきり見えてしまう場合があります。[ノイズ減少効果] はコントラストを下げ、ノイズをぼやけさせます。[シャープネス] を選択している場合は、1(弱) ～ 7(強) で設定します。
シャープネスフィルタ周期選択	輝度信号の輪郭部を強調補正するかどうかを設定します。これにより、映像の細部をよりクリアに表現することができます。

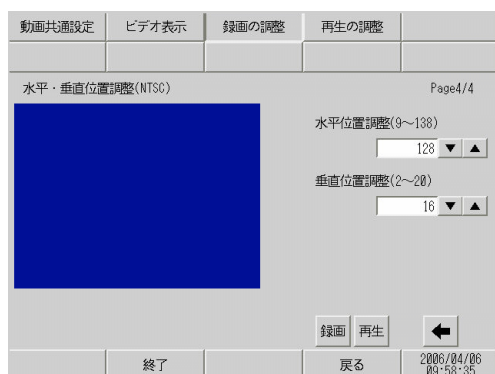
次のページに続きます。

(3/4)



設定項目	設定内容
輝度信号と青色成分の差 (0 ~ 255)	輝度信号 (Y) と、輝度信号と青色成分の差 (U)、輝度信号と赤色成分の差 (V) の 3 つの情報で色を表記する際の (YUV 表記) 青色成分の差を 0 ~ 255 で設定します。人間の目において調整すると、輝度情報により多くのデータ量を割り当てることができ、少ない画質の劣化で高いデータ圧縮率を得ることができます。
輝度信号と赤色成分の差 (0 ~ 255)	輝度信号 (Y) と、輝度信号と青色成分の差 (U)、輝度信号と赤色成分の差 (V) の 3 つの情報で色を表記する際の (YUV 表記) 赤色成分の差を 0 ~ 255 で設定します。人間の目において調整すると、輝度情報により多くのデータ量を割り当てることができ、少ない画質の劣化で高いデータ圧縮率を得ることができます。
色合い (0 ~ 255)	入力カメラ画面の色合いを設定します。設定範囲は 0 ~ 255 です。

(4/4)

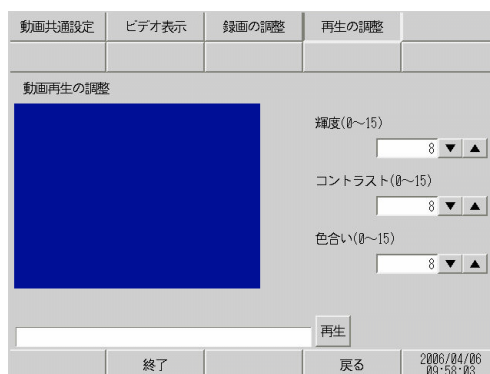


設定項目	設定内容
水平位置調整 (9 ~ 138)	ビデオ入力信号の水平位置を選択します。設定範囲は使用するカメラの映像信号の種類により異なります。 - NTSC の場合 水平位置を 9 ~ 138 で設定します。 - PAL の場合 水平位置を 9 ~ 144 で設定します。 - SECAM の場合 水平位置を 9 ~ 144 で設定します。

次のページに続きます。

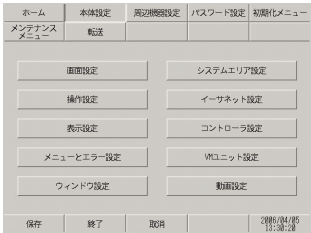
設定項目	設定内容
垂直位置調整 (2 ~ 20)	ビデオ入力信号の垂直位置を選択します。設定範囲は使用するカメラの映像信号の種類により異なります。 • NTSC の場合 垂直位置を 2 ~ 20 で設定します。 • PAL の場合 垂直位置を 2 ~ 22 で設定します。 • SECAM の場合 垂直位置を 2 ~ 22 で設定します。

動画設定 (ビデオ再生)



設定項目	設定内容
輝度 (0 ~ 15)	画面の輝度を設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
コントラスト (0 ~ 15)	画面のコントラストを設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
色合い (0 ~ 15)	画面の色合いを設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。

2.15.5 VM ユニットをご利用の場合

メニュー	設定内容
	「2.15.5 VM ユニットをご利用の場合 ■ [本体設定] の設定ガイド」(2-137 ページ) 「2.15.5 VM ユニットをご利用の場合 VM ユニット設定 (ビデオ動作環境設定)」(2-137 ページ) 「2.15.5 VM ユニットをご利用の場合 VM ユニット設定 (ビデオ表示状態調整)」(2-138 ページ)

■ [本体設定] の設定ガイド

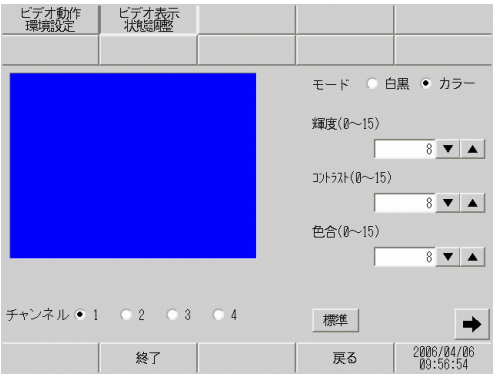
VM ユニット設定 (ビデオ動作環境設定)

ビデオ動作 環境設定	ビデオ表示 状態調整			
ビデオ制御エリア先頭アドレス (LS) 20 ビデオ入力信号 ☒ NTSC ☐ PAL				
終了				戻る 2006/04/06 09:57:22

設定項目	設定内容
ビデオ制御エリア先頭アドレス	GP の LS エリアのうち、LS0020 ~ LS1989、LS2096 ~ LS8957 がビデオ制御エリア先頭エリアに指定できます。先頭アドレスから連続する 43 ワードが、ビデオ制御エリアとして割り付けられます。
ビデオ入力信号	入力画像信号を選択します。 • NTSC : 640 × 480 ドット • PAL : 768 × 576 ドット

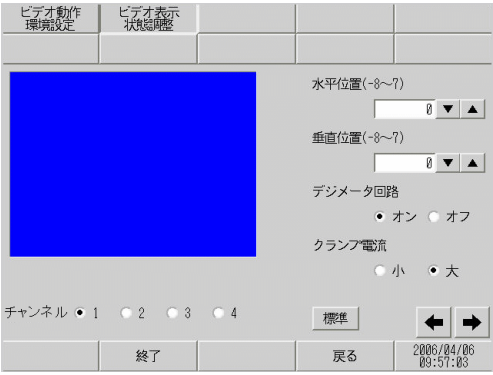
VM ユニット設定（ビデオ表示状態調整）

(1/4)



設定項目	設定内容
チャンネル	ビデオウィンドウで設定したチャンネルを 1 ～ 4 で選択します。
モード	ビデオ入力モードを [カラー] または [白黒] から選択します。
輝度 (0 ～ 15)	画面の輝度を設定します。設定範囲は 0 ～ 15 です。
コントラスト (0 ～ 15)	画面のコントラストを設定します。設定範囲は 0 ～ 15 です。
色合い (0 ～ 15)	画面の色合いを設定します。設定範囲は 0 ～ 15 です。
標準	選択されているチャンネルの各種設定を初期値にもどします。

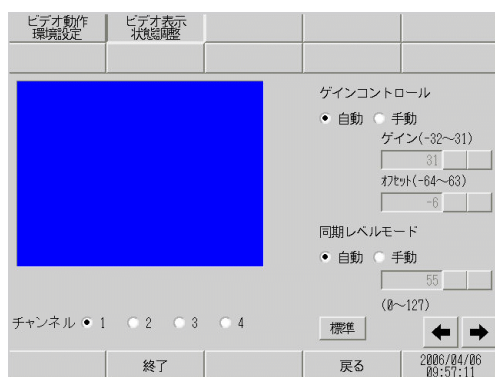
(2/4)



設定項目	設定内容
チャンネル	ビデオウィンドウで設定したチャンネルを 1 ～ 4 で選択します。
水平位置	ビデオ入力信号の水平位置を -8 ～ 7 で設定します。
垂直位置	ビデオ入力信号の垂直位置を -8 ～ 7 で設定します。
デジメータ回路	デコーダ内蔵のデジメータ回路のオン / オフ を行います。モノクロ信号は、信号処理フィルタ (デジメータ) 回路を動作させない方が画質がよくなる場合があります。通常は [オン] のままで問題ありません。
クランプ電流	クランプ回路の電流設定を [小]、[大] から選択します。ビデオ入力信号が規格より外れている場合、同期信号を検出できないことや黒レベルを捉えることができず、画面が乱れることがあります。このような場合、クランプ回路の内部電流を変化させることで画面が安定することがあります。
標準	選択されているチャンネルの各種設定を初期値にもどします。

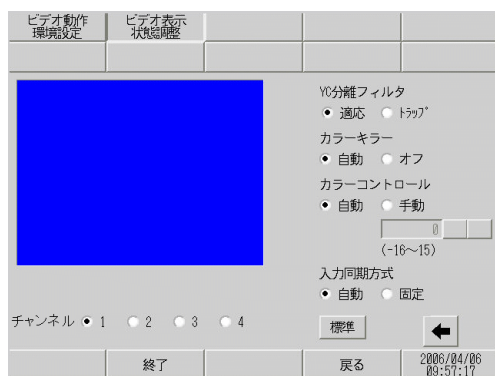
次のページに続きます。

(3/4)



設定項目	設定内容
チャンネル	ビデオウィンドウで設定したチャンネルを 1 ～ 4 で選択します。
ゲインコントロール	デジタルアンプ回路のゲイン制御を行います。全チャンネル共通の設定です。
ゲイン	ゲインコントロールで [手動] を選択している場合の [ゲイン] (増幅率) を -32 ～ 31 で設定します。
オフセット	ゲインコントロールで [手動] を選択している場合の [オフセット] (黒レベル) を -64 ～ 63 で設定します。
同期レベルモード	[自動]、[手動] から選択します。
入力枠	[同期レベルモード] が [手動] の場合 0 ～ 127 で設定します。
標準	選択されているチャンネルの各種設定を初期値にもどします。

(4/4)

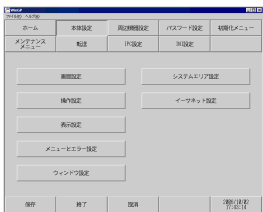
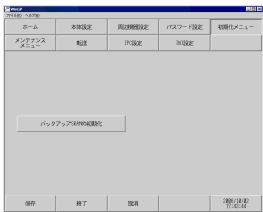
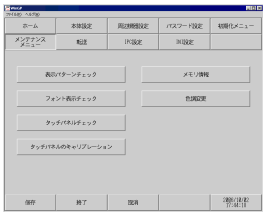
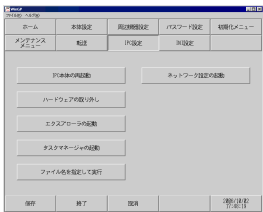
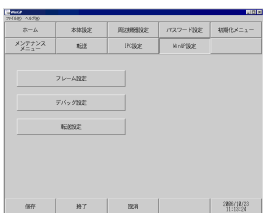


設定項目	設定内容
チャンネル	ビデオ機器を接続している 1 ～ 4 の入力チャンネルを選択します。
YC 分離フィルタ	入力 Y/C 分離フィルタの選択を行います。彩度の高い画像表示時、カラー信号に関するノイズが目立つ場合に、[トラップ] を選択するとノイズが減少することがあります。全チャンネル共通の設定です。
カラーキラー	カラーキラー機能のオン / オフを自動で行うか、強制的に [オフ] にするかを選択します。カラーバースト信号の振幅レベルが小さいときに自動でモノクロ画像に切り替わることがあります。[オフ] にすると常にカラー画像として表示します。全チャンネル共通の設定です。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
カラーコントロール	クロマ信号の増幅率を変化させます。クロマ信号振幅値 (カラーバースト信号を含む) が規定から外れており、かつ調整機能で最適な映像が得られない場合に手動設定すると、最適な画像が得られることがあります。全チャンネル共通の設定です。
入力同期方式	同期信号を検出する深さレベルを設定します。ビデオ入力の同期信号の深さが規格よりも浅くなっている場合や変動している場合、同期信号を検出できず、画面が横や縦に流れることがあります。このような場合、検出レベルを調整することで画面が安定することがあります。通常は [自動] で問題ありません。全チャンネル共通の設定です。
標準	選択されているチャンネルの各種設定を初期値にもどします。

2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）

メニュー	設定内容
	「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」■ [本体設定] の設定ガイド」(2-142 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」[操作設定] の設定ガイド」(2-142 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」[イーサネット設定] の設定ガイド」(2-142 ページ)
	「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」■ [初期化メニューの設定] の設定ガイド」(2-143 ページ)
	「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」■ [メンテナンスメニュー] の設定ガイド」(2-143 ページ)
	「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」■ [IPC 設定] の設定ガイド」(2-144 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」IPC 本体の再起動」(2-144 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」ハードウェアの取り外し」(2-144 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」エクスプローラの起動」(2-145 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」タスクマネージャの起動」(2-145 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」ファイル名を指定して実行」(2-146 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」ネットワーク設定の起動」(2-146 ページ)
	「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」■ [WinGP 設定] の設定ガイド」(2-147 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」フレーム設定」(2-147 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」デバッグ設定」(2-148 ページ) 「2.15.6 IPC で WinGP をご利用の場合（パネルコンピュータ使用時のみ）」転送設定」(2-148 ページ)

■ [本体設定] の設定ガイド

[操作設定] の設定ガイド



設定項目	設定内容
タッチパネル検出	タッチパネルの検出を、タッチで反応する [ON] か、はなしたときに反応する [OFF] から選択します。
タッチブザーの音	画面にタッチしたときに内蔵のブザー音を鳴らすかどうかを設定します。 MEMO タッチブザーの音設定は WinGP が鳴らす音の設定であり、IPC のタッチブザーの音設定とは異なります。IPC のタッチブザー音と WinGP のタッチブザー音を両方とも設定されている場合は WinGP の画面をタッチしたときに 2 回ブザーがなりますので WinGP のタッチブザー音は [無] に設定してください。

[イーサネット設定] の設定ガイド



設定項目	設定内容
自局名	ネットワーク上で使用される名前を半角 32 文字以内で設定します。
ポート	ポート番号を 5001 ~ 65516 で設定します。設定されたポート番号から連続した 10 ポートを使用します。ただし、GP で強制転送画面が表示されている場合はポート番号「8000」固定です。 MEMO プロジェクトファイル転送時に LAN での自動検索を行う場合は、[転送ツール] - [転送設定] - [通信ポートの設定] - [ポート (検索)] の番号と同じポート番号を設定してください。

■ [初期化メニューの設定] の設定ガイド

バックアップ SRAM の初期化

GP のバックアップ SRAM に格納されているデータをすべて消去します。

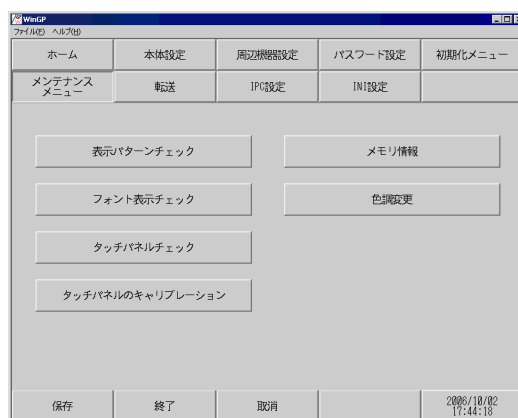
重 要

- [開始] スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。
- 初期化中は電源を切らないでください。
- バックアップしているデータは消去されます。
- 初期化を行っても、システム、通信プロトコル、時刻の設定データ、ロジックプログラム の保持データは消去されません。



設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	バックアップ SRAM の初期化を開始します。

■ [メンテナンスメニュー] の設定ガイド



[メンテナンスメニュー] の各設定は以下を参照してください。

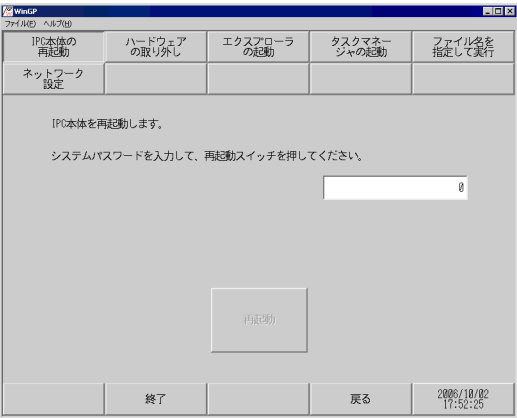
☞ 「2.15.1 表示器共通 ■ [メンテナンスメニュー] の設定ガイド」(2-105 ページ)

MEMO

- IPC で WinGP をご利用の場合は COM ポートや LAN ポートのチェックができません。

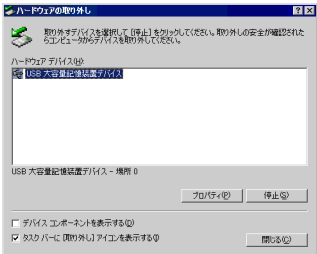
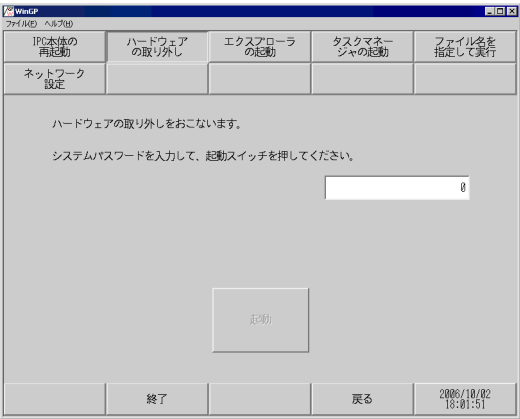
■ [IPC 設定] の設定ガイド

IPC 本体の再起動



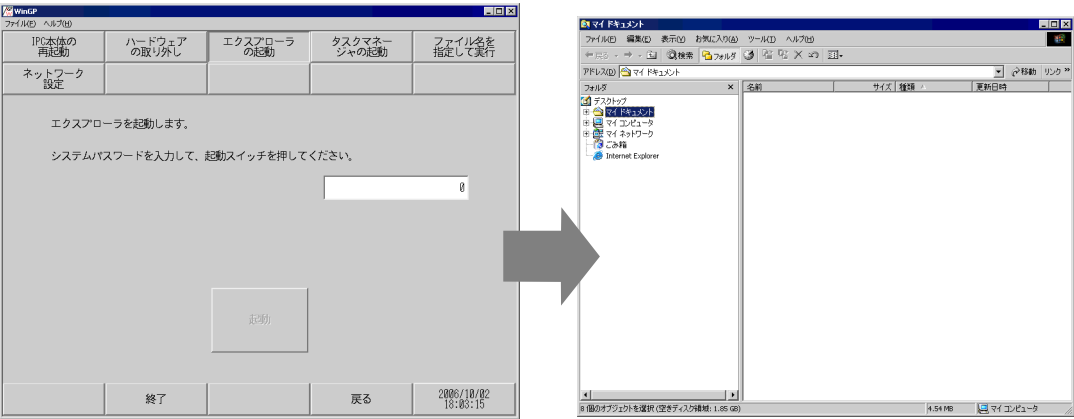
設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して、再起動スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
再起動	IPC 本体の再起動を開始します。

ハードウェアの取り外し



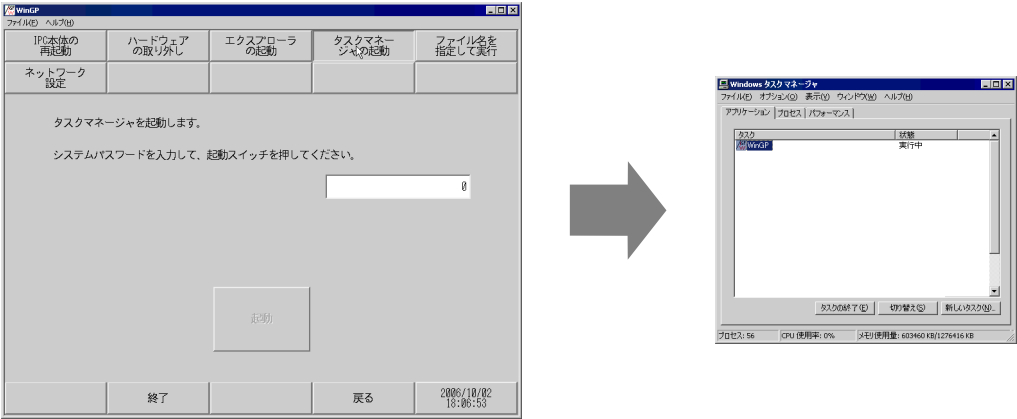
設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して、起動スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
起動	[ハードウェアの安全な取り外し] を起動します。

エクスプローラの起動



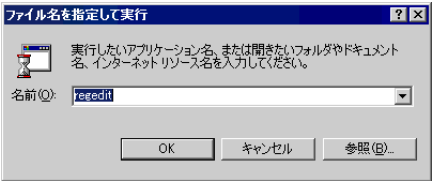
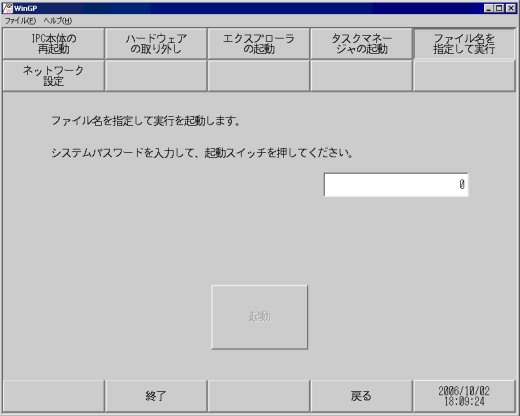
設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して、起動スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
起動	[エクスプローラ]を起動します。

タスクマネージャの起動



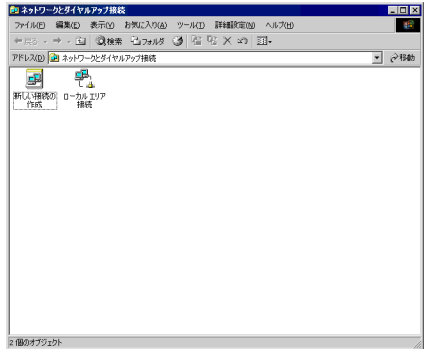
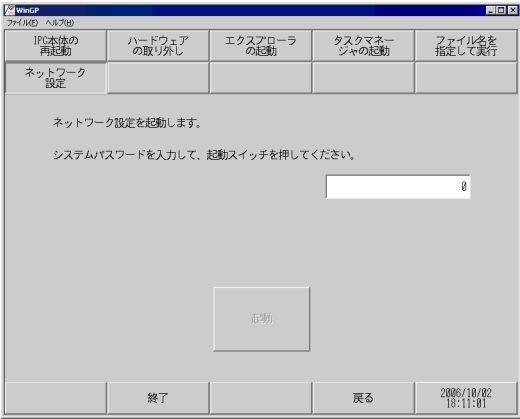
設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して、起動スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
起動	[Windows タスク マネージャ]を起動します。

ファイル名を指定して実行



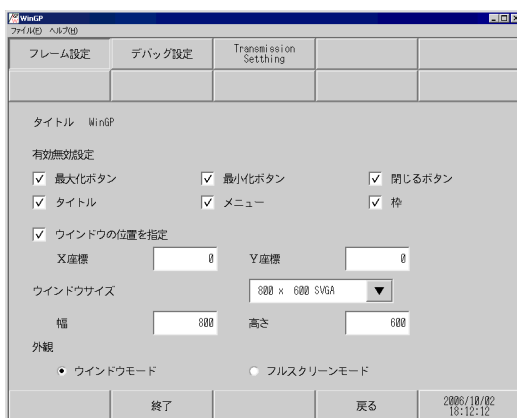
設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して、起動スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
起動	[ファイル名を指定して実行] を起動します。

ネットワーク設定の起動



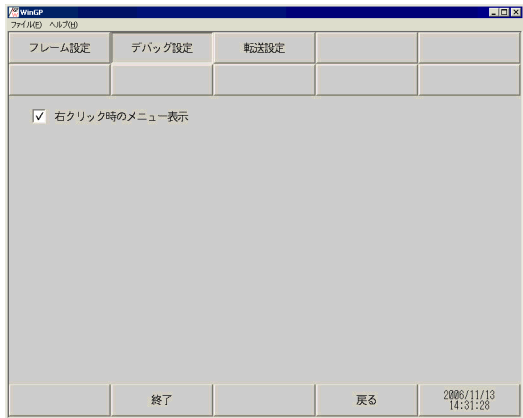
設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して、起動スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
起動	[ネットワークとダイヤルアップ接続] を起動します。 MEMO Windows[®] XP をご利用の場合は [ネットワーク接続] が起動します。

フレーム設定



設定項目	設定内容
タイトル	WinGP ウィンドウのタイトルを表示します。
有効無効設定	チェックを入れることにより以下の設定を有効にします。
最大化ボタン	ウィンドウをフルスクリーンモードに変更します。
最小化ボタン	ウィンドウを隠し、タスクバー内にアイコンを表示します。
閉じるボタン	WinGP を終了します。
タイトル	ウィンドウタイトルや、ウィンドウ最小化、最大化、閉じるボタンを表示します。
メニュー	[ファイル (F)]、[ヘルプ (H)] のメニューを表示します。
枠	カーソルをウィンドウ枠にあてて、カーソルをドラッグ & ドロップするとウィンドウサイズを変更できます。初期設定のサイズより小さく変更した場合は、スクロールバーが表示され、スクロール表示します。
ウィンドウの位置を指定	WinGP 起動時のウィンドウ表示位置を指定するかどうかを設定します。表示位置は X 座標、Y 座標から設定します。 • X 座標 0 ~ 選択機種の最大解像度 (横) -1 • Y 座標 0 ~ 選択機種の最大解像度 (横) -1 • ウィンドウサイズ ウィンドウサイズを [320 × 240 QVGA]、[640 × 480 VGA]、[800 × 600 SVGA]、[1024 × 768 XGA] から選択します。 • 幅 ウィンドウサイズの [幅] を 0 ~ 選択機種の最大解像度で設定します。 • 高さ ウィンドウサイズの [高さ] を 0 ~ 選択機種の最大解像度で設定します。
外観	ウィンドウの表示を [ウィンドウモード]、[フルスクリーンモード] から選択します。

デバッグ設定



設定項目	設定内容
右クリック時のメニュー表示	WinGP 上でウィンドウを右クリックしてメニューを表示するかどうかを設定します。

転送設定



設定項目	設定内容
ポート番号	GP-Pro EX で設定した、転送用に使用するポート番号を確認できます。

重 要

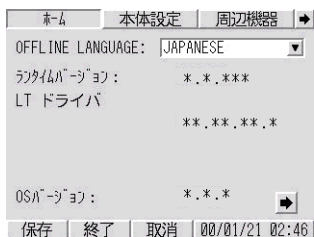
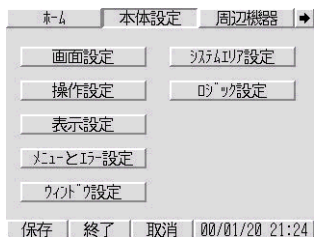
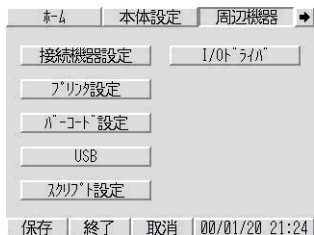
- 転送ツールで使用するポート番号を忘れた場合は上記の設定でポート番号を確認できます。

2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合

MEMO

- ・ LT-33** シリーズをご利用の場合は、下記の設定以外に [イーサネット設定] や、[COM1/COM2/LAN チェック] 設定がメニューに追加されます。
- これらの機能については表示器共通の設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.15.1 表示器共通」(2-85 ページ)

メニュー	設定内容
	「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合 ■ [ホーム] の設定ガイド」(2-150 ページ)
	「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合 ■ [本体設定] の設定ガイドロジック設定」(2-152 ページ)
	「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合 ■ [周辺機器設定] の設定ガイド」(2-153 ページ) 「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合 I/O ドライバ設定 (STD ドライバ)」(2-153 ページ) 「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合・端子構成表示」(2-153 ページ) 「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合・I/O モニタ」(2-154 ページ) 「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合・ボードチェック」(2-155 ページ) 「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合 I/O ドライバ設定 (EXM ドライバ)」(2-155 ページ) 「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合・I/O モニタ (DIO 設定)」(2-156 ページ) 「2.15.7 LT3000 シリーズをご利用の場合・I/O モニタ (アナログ設定)」(2-157 ページ)

■ [ホーム] の設定ガイド

ホーム

本体設定

周辺機器

➡

OFFLINE LANGUAGE: JAPANESE

ランタイムバージョン: *.*.*.*

LT ドライバ: **.*.*.*

OSバージョン: *.*.*

➡

保存

終了

取消

00/01/21 02:46

***にはバージョンが表示されます。

設定項目	設定内容
OFFLINE LANGUAGE	オフラインメニューで使用する言語を [JAPANESE]、[ENGLISH] から選択します。
ランタイムバージョン	ランタイムのバージョンが表示されます。
LT ドライバ	LT ドライバのバージョンが表示されます。 MEMO LT-33** シリーズの場合はプロトコルドライバのバージョンが表示されます。
OS バージョン	OS のバージョンが表示されます。

ホーム

本体設定

周辺機器

➡

I/Oドライババージョン:

STDドライバ: *.*.*.*

EXMTドライバ: *.*.*.*

⬅ ➡

保存

終了

取消

00/01/20 21:23

***にはバージョンが表示されます。

設定項目	設定内容
I/O ドライババージョン	I/O ドライバ名と I/O ドライバランタイムバージョンが表示されます。

次のページに続きます。

ホーム

本体設定

周辺機器

➡

プロジェクト情報

最終保存日時：2006/10/04 16:13

機種情報：LT-3201A

表示カラー：モノクロ8階調フリック無

作成エディタ名：GP-Pro EX

作成エディタバージョン：*.**.*.**.*

作成者：

コメント：

◀

保存

終了

取消

00/01/21 02:47

***にはバージョンが表示されます。

設定項目	設定内容
最終保存日時	プロジェクトの最終保存日時を表示します。
機種情報	設定 LT 機種を表示します。
表示カラー	LT の表示カラーを表示します。
作成エディタ名	プロジェクトを作成したエディタ名を表示します。
作成エディタバージョン	プロジェクトを作成エディタのバージョンを表示します。
作成者	プロジェクトを作成した人の名前を表示します。
コメント	プロジェクトのコメントを表示します。

■ [本体設定] の設定ガイド

ロジック設定

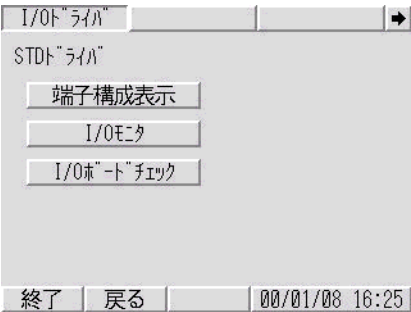
ロジックプログラムの設定を行います。

設定項目	設定内容
ロジックプログラム	[有効] の場合は、以下のすべての項目が設定できます。[無効] の場合は設定できません。
コンスタントスキャン	ロジック機能実行時間を 10 ～ 2000ms で設定します。
パーセントスキャン	ロジック機能実行時間の割合を 10 ～ 50% で設定します。
WDT(100 ～ 3000)	ウォッチドッグタイムを 100 ～ 3000ms で設定します。
H/W 電源 ON 時の動作	GP 本体を ON した時のロジックの動作を [運転]、[停止] から選択します。

設定項目	設定内容
アドレスリフレッシュ	ロジックプログラムに割り付けられた接続機器や内部デバイスアドレスの値を更新する早さを [高速]、[中速]、[低速] から選択します。
マイナーエラー時処理	継続異常が発生したときのロジック動作を [運転]、[停止] から選択します。
入出力設定	入力、出力の動作を行う場合は [有効]、入力、出力の動作を [停止] する場合は [無効] を選択します。

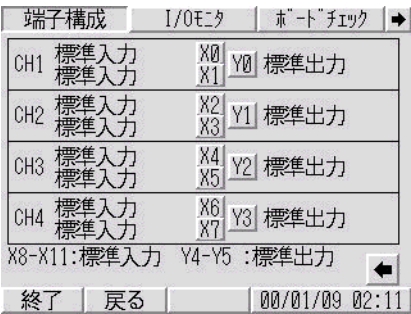
■ [周辺機器設定] の設定ガイド

I/O ドライバ設定 (STD ドライバ)



設定項目	設定内容
端子構成表示	端子構成表示画面を表示します。
I/O モニタ	I/O モニタ画面を表示します。
I/O ボードチェック	I/O ボードチェック実行画面を表示します。

- 端子構成表示



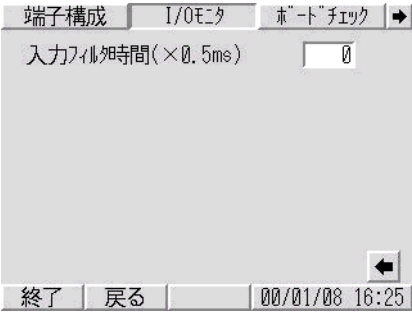
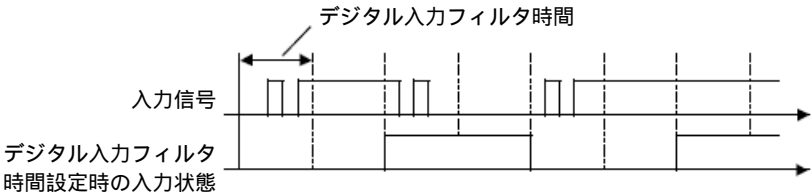
設定項目	設定内容
端子構成表示画面	設定されている入力端子 X0 ~ X11、出力端子 Y0 ~ Y5 の端子構成を表示します。 MEMO • LT-33** シリーズをご利用の場合は、入力端子 X0 ~ X15、出力端子 Y0 ~ Y15 の端子構成を表示します。画面の下には [X8-X15 : 標準入力]、[Y4-Y15 : 標準出力] と表示されます。

・ I/O モニタ

標準入力と標準出力のモニタリング結果をビットまたは整数で表示選択できます。ただし特殊 I/O を使用している場合は [整数] 表示できません。

<I/O モニタ入出力実行画面 (ビット)> <I/O モニタ入出力実行画面 (整数)>

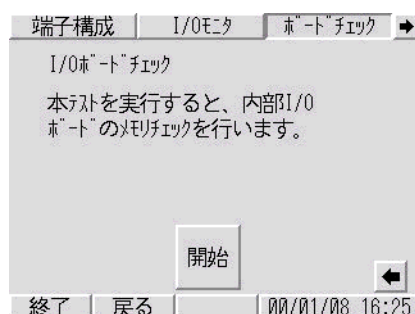


設定項目	設定内容
詳細設定	以下のような詳細設定画面が表示されます。  詳細設定画面では入力フィルタ時間を 0 ～ 40 で設定します。入力フィルタは入力信号のノイズ除去を行い、ここで設定した時間以下の入力は動作しません。0.5ms 周期でサンプリングしたデータを内部に蓄積し、2ms 周期ごとの I/O リフレッシュで設定された時間分の前の入力端子状態を読み出してから照合します。入力端子の状態がすべて同一の場合はその状態を入力端子の値とし、同一でない場合はその前の値とします。  デジタル入力フィルタ時間 入力信号 デジタル入力フィルタ 時間設定時の入力状態
入力 0 ～ 11	・ [タイプ] が [ビット] の場合 標準入力に設定された端子の番号が表示され、入力値をビット別に確認できます。スイッチが押されていない場合は OFF 値、スイッチが押されている場合は ON 値を表します。 MEMO ・ LT-33** シリーズをご利用の場合は、入力 0 ～ 15 で確認できます。 ・ [タイプ] が [整数] の場合 LT-32** シリーズをご利用の場合は 0 ～ 4095 で LT-33** シリーズをご利用の場合は 0 ～ 65535 で入力値が確認できます。

次のページに続きます。

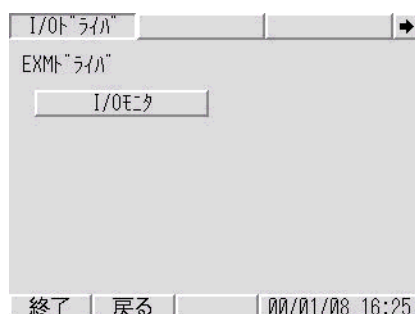
設定項目	設定内容
出力 0 ~ 5	・ [タイプ] が [ビット] の場合 標準出力に設定された端子の番号が表示され、出力値をビット別に確認できます。 MEMO ・ LT-33** シリーズをご利用の場合は、出力 0 ~ 15 で確認できます。 ・ [タイプ] が [整数] の場合 LT-32** シリーズをご利用の場合は 0 ~ 63 で LT-33** シリーズをご利用の場合は 0 ~ 65535 で出力値が確認できます。
エラー表示	I/O ドライバがエラーを認識した場合エラーコードとエラーメッセージが表示されます。 エラーメッセージの詳細は以下を参照してください。 ☞「1.7.3 LT3000 シリーズをご利用の場合 ■ I/O ドライバエラー (1-170 ページ)」

・ ボードチェック



設定項目	設定内容
開始	I/O ボードが正常に動作するかどうかのチェックを開始します。異常がある場合はエラーが表示されます。 エラー表示の詳細については以下を参照してください。 ☞「1.7.3 LT3000 シリーズをご利用の場合 ■ I/O ドライバエラー (1-170 ページ)」

I/O ドライバ設定 (EXM ドライバ)



設定項目	設定内容
I/O モニタ	I/O モニタ接続モジュール情報画面を表示します。

I/O モニタ (DIO 設定)

I/Oモニタ

→

接続されているモジュール数 2

接続されているモジュールNo.を表示

1 DIO : 出力16点

2 DIO : 入力16点

←

終了 戻る 00/01/08 16:28

設定項目	設定内容
接続されているモジュール数	接続されているモジュール数を 0 ~ 2 で表示します。 MEMO LT-33** シリーズをご利用の場合は、接続されているモジュール数を 0 ~ 3 で表示します。
接続されているモジュール No. を表示	接続されているモジュール数を表示します。モジュール No. は LT 背面に直接取り付けられているモジュールから 1 となります。
モジュール No.	I/O モニタ設定画面を表示します。 - I/O モニタ設定画面タイプ I/Oモニタ → モジュールNo. 1 DIO : 出力16点 タイプ ☒ビット ☐整数 ← → 終了 戻る 00/01/08 16:28 - 入出力実行画面 (ビット) 接続先モジュールへの出力をビット別に行うことができます。入力モジュールを選択している場合は、I/O モニタした結果の入力状態をビット表示します。 出力 7 6 5 4 3 2 1 0 15 14 13 12 11 10 9 8 ← 終了 戻る 00/01/08 16:28 - 入出力実行画面 (整数) 接続先モジュールへの出力値を設定し、出力を確認できます。入力モジュールを選択している場合は、I/O モニタした結果の入力値を確認できます。 出力 0 (0~65535) 出力 ← 終了 戻る 00/01/08 16:28

・ I/O モニタ（アナログ設定）

I/Oモニタ接続モジュール情報画面

I/Oモニタ

接続されているモジュール数 1

接続されているモジュールNo.を表示

1 アナログ：入力2CH出力1CH

終了 戻る 00/01/08 16:34

設定項目	設定内容
接続されているモジュール数	接続されているモジュール数を 0 ～ 2 で表示します。 MEMO ・ LT-33** シリーズをご利用の場合は、接続されているモジュール数を 0 ～ 3 で表示します。
接続されているモジュール No. を表示	接続されているモジュール数を表示します。モジュール No. は LT 背面に直接取り付けられているモジュールから 1 となります。
モジュール No.	I/O モニタ設定画面を表示します。

I/Oモニタ接続モジュール情報画面

I/Oモニタ

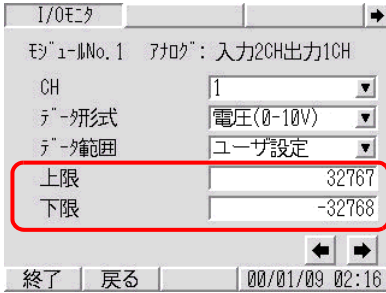
モジュールNo.1 アナログ：入力2CH出力1CH

CH 1

データ形式 電圧(0-10V)

データ範囲 固定

終了 戻る 00/01/08 16:34

設定項目	設定内容
CH	I/O モニタを実行する CH の番号を設定します。 MEMO ・ [入力 2CH 出力 1CH] を選択している場合は、3CH 目が出力となります。
データ形式	I/O モニタを実行するデータの形式を [電圧 (0-10V)]、[電流 (4-20mA)]、[Pt100]、[K 熱伝対]、[J 熱伝対]、[T 熱伝対] から選択します。
データ範囲	I/O モニタを実行するデータの範囲を [固定]、[摂氏]、[華氏]、[ユーザ設定] から選択します。
上限 / 下限	I/O モニタを実行するデータの上限値または下限値を設定します。 [データ範囲] で [ユーザ設定] を選択しているときのみ設定できます。 

次のページに続きます。

I/Oモニタアナログ入力実行画面

I/Oモニタ

モニ1-1No. 1

CH1

入力データ形式: 電圧(0-10V)

0 (-32768~32767)

終了戻る00/01/09 02:17

設定項目	設定内容
入力データ形式	I/O モニタ設定で設定した [データ形式] を表示します。
入力値	入力値が表示されます。
入力データ範囲	I/O モニタ設定で設定した [データ範囲] を表示します。

I/Oモニタアナログ出力実行画面

I/Oモニタ

モニ1-1No. 1

CH1

出力データ形式: 電圧(0-10V)

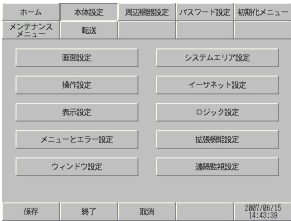
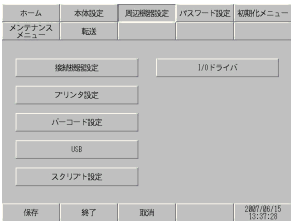
0 (-32768~32767)

出力

終了戻る00/01/08 16:38

設定項目	設定内容
出力データ形式	I/O モニタ設定で設定した [データ形式] を表示します。
出力値	出力値が表示されます。タッチするとテンキーが表示され出力値を設定できます。
出力データ範囲	I/O モニタ設定で設定した [データ範囲] を表示します。
▲ ▼	出力値を増加または減少します。
出力	[出力値] で設定した値を出力します。

2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合

メニュー	設定内容
	「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 ■ホームの設定ガイド」(2-159 ページ)
	「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 ■ [本体設定] の設定ガイド ロジック設定」(2-161 ページ)
	「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 ■ [周辺機器設定] の設定ガイド」(2-162 ページ) 「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 マスターチェック」(2-162 ページ) 「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 スレーブチェック」(2-164 ページ) 「2.15.8 CANopen マスタ対応 GP をご利用の場合 ネットワークチェック」(2-165 ページ)

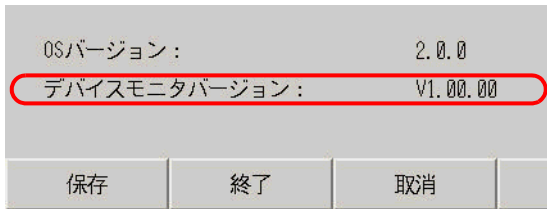
■ ホームの設定ガイド

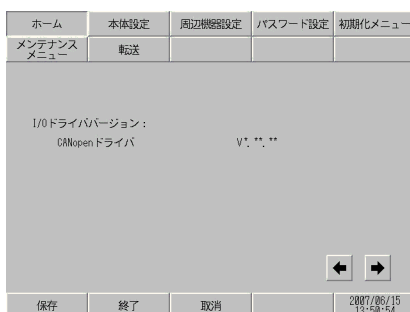
ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			
OFFLINE LANGUAGE: JAPANESE				
ランタイムバージョン: 0.0.***				
ドライババージョン: V1.***				
メモリリンク				
OSバージョン: 1.0.0				
保存	終了	取消		2007/06/15 13:42:09

***にはバージョンが表示されます。

設定項目	設定内容
OFFLINE LANGUAGE	オフラインメニューで使用する言語を [JAPANESE]、[ENGLISH] から選択します。
ランタイムバージョン	ランタイムのバージョンが表示されます。
ドライババージョン	プロトコルドライバのバージョンが表示されます。使用可能最大数の4ドライバを表示します。GP-3300 シリーズの場合は使用可能最大数の2ドライバを表示します。
OS バージョン	OS のバージョンが表示されます。

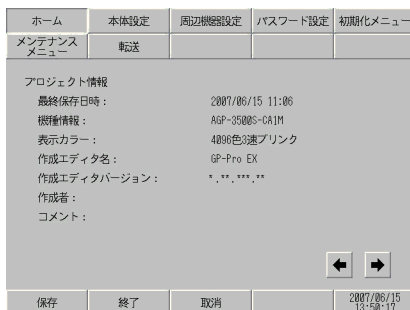
次のページに続きます。

設定項目	設定内容
デバイスモニタバージョン	 システム設定ウィンドウ[本体設定]の[拡張機能設定]タブで「デバイスモニタを使用する」を設定している場合のみデバイスモニタバージョンを表示します。



***にはバージョンが表示されます。

設定項目	設定内容
I/O ドライババージョン	I/O ドライバ名と I/O ドライバランタイムバージョンが表示されます。



***にはバージョンが表示されます。

設定項目	設定内容
最終保存日時	プロジェクトの最終保存日時を表示します。
機種情報	設定 GP 機種を表示します。
表示カラー	GP の表示カラーを表示します。
作成エディタ名	プロジェクトを作成したエディタ名を表示します。
作成エディタバージョン	プロジェクトを作成したエディタのバージョンを表示します。
作成者	プロジェクトを作成した人の名前を表示します。
コメント	プロジェクトのコメントを表示します。

■ [本体設定] の設定ガイド

ロジック設定

ロジックプログラムの設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定	ロジック設定		
ロジックプログラム ☒ 有効 ☐ 無効				
☒ コンスタントスキャン(10~2000)		10 ms		
☐ パーセントスキャン(10~50)		50 %		
WDT(100~3000)		500 ms		
H/W電源ON時の動作 ☒ 運転 ☐ 停止				
				
終了		戻る		2006/04/18 12:47:15

設定項目	設定内容
ロジックプログラム	[有効] の場合は、以下のすべての項目が設定できます。[無効] の場合は設定できません。
コンスタントスキャン	ロジック機能実行時間を 10~2000ms で設定します。
パーセントスキャン	ロジック機能実行時間の割合を 10 ~ 50% で設定します。
WDT (100 ~ 3000)	ウォッチドッグタイムを 100 ~ 3000ms で設定します。
H/W 電源 ON 時の動作	GP 本体を ON した時のロジックの動作を [運転]、[停止] から選択します。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定	ロジック設定	拡張機能設定	遠隔監視設定
アドレスリフレッシュ		中速 ▼		
入出力設定		☒ 有効 ☐ 無効		
マイナーエラー時処理		☒ 運転 ☐ 停止		
				
終了		戻る		2007/06/15 13:51:33

設定項目	設定内容
アドレスリフレッシュ	ロジックプログラムに割り付けられた接続機器や内部デバイスアドレスの値を更新する早さを [高速]、[中速]、[低速] から選択します。
入出力設定	入力、出力の動作を行う場合は [有効]、入力、出力の動作を [停止] する場合は [無効] を選択します。
マイナーエラー時処理	継続異常が発生したときのロジック動作を [運転]、[停止] から選択します。

■ [周辺機器設定] の設定ガイド

マスターチェック

スレーブを接続している状態で、マスタ側が通信を受け入れられる状態にあるかどうかをチェックし
チェック結果が表示されます。

MEMO

- ・ チェック結果の表示にはしばらく時間がかかる場合があります。

マスターチェック	スレーブチェック	ネットワークチェック		
マスターチェック				
マスター状態: 動作中				
通信状態:				
☐ コントローラ側エラー ☐ コントローラ側発生 ☐ コントローラ側通信エラー ☐ コントローラ側通信エラー (TXLP) ☐ コントローラ側通信エラー (RXLP) ☐ コントローラ側通信エラー (RXLP) ☐ コントローラ側通信エラー (RXLP) ☐ ネットワークエラー ☐ ネットワークエラー ☐ ネットワークエラー ☐ ネットワークエラー ☐ ネットワークエラー ☐ ネットワークエラー ☐ ネットワークエラー				
終了 戻る 2007/06/15 11:13:34				

設定項目	設定内容
マスター状態	CANopen マスタ対応 GP のボードの状態を表示します。
初期化中	CANopen マスタ対応 GP のボードはまだ初期化されていません。
リセット中	CANopen マスタ対応 GP のボードはリセット中です。
スレーブチェック中	CANopen マスタ対応 GP のボードはスレーブ割り当てチェックを行います。
ネットワークリセット中	CANopen ネットワークは NMT コマンドによってリセットされます。すべてのコミュニケーションノードをリセットします。
ネットワーク待機中	CANopen マスタ対応 GP のボードは、通信コマンドのリセットができるように一定時間待機します。
各スレーブ初期化中	CANopen マスタ対応 GP のボードはネットワーク上の個々のスレーブを初期化します。
クリア中	CANopen ネットワークをスキャンします。CANopen、モジュールが起動できます。
動作中	CANopen ネットワークは動作可能です。
動作準備中	CANopen ネットワークは動作前の状態です。
致命的エラー	ネットワークで致命的なエラーが発生しました。CANopen マスタ対応 GP のボードはリセットされます。 エラーコードの中で致命的エラーが発生している状態を表します。画面左下に表示される詳細エラーの内容を確認し、以下を参照して対処方法を行ってください。 ☞「1.8.2 FLEX NETWORK ユニット使用時 ■ CANopen 使用時に表示されるエラー」(1-183 ページ)
必須ノード無し	CANopen ネットワークの必須ノードに異常が発生しています。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
通信状態	CANopen マスタ対応 GP のボードの通信状態を表示します。
コントローラオーバーラン	CAN コントローラオーバーランが発生しました。
コントローラバスオフ	CAN コントローラよりバスオフが検出されました。
コントローラエラー発生	CAN コントローラにエラーが発生しています。接続機器（コネクタ、ケーブルなど）を確認してください。確認後は CANopen マスタ対応 GP のリセットを行ってください。
コントローラエラー復旧	CAN コントローラがエラー状態から復旧しました。
キューオーバーラン (TXLP)	優先度の低い送信キューのオーバーランが発生しました。優先度の低い送信キューはハートビート、ノードガード、SDO 転送に使用されます。
キューオーバーラン (TXHP)	優先度の高い送信キューのオーバーランが発生しました。優先度の高い送信キューは TPDOs、NMT、コマンド、SYNC、EMCY メッセージ用です。
キューオーバーラン (RXLP)	優先度の低い受信キューのオーバーランが発生しました。優先度の低い受信キューはハートビート、ノードガード、SDO 転送に使用されます。
キューオーバーラン (RXHP)	優先度の高い受信キューのオーバーランが発生しました。優先度の高い受信キューは RPDOs、NMT、コマンド、SYNC、EMCY メッセージ用です。
オプションノードエラー	少なくとも 1 つの任意、または予期しないモジュールがネットワーク設定と一致していません。ネットワークをリセットしてください。それでも直らない場合、プロジェクトの設定とノード構成を見直してください。
必須ノードエラー	少なくとも 1 つの必須モジュールがネットワーク設定と一致していません。プロジェクトの設定とノード構成を見直してください。
1 ノード以上動作中	少なくとも 1 つのモジュール（GP 以外）が動作中である。
マスター動作中	CANopen マスタ対応 GP のボード（GP）が動作中である。
エラーメッセージ	I/O ドライバエラーメッセージを表示します。表示される各エラーの詳細は以下を参照してください。  「1.8.2 FLEX NETWORK ユニット使用時 ■ CANopen 使用時に表示されるエラー」(1-183 ページ)

スレーブチェック

マスタと接続している状態で、スレーブ側が通信を受け入れられる状態にあるかどうかをチェックします。



設定項目	設定内容
スレーブ診断状態一覧	各スレーブ診断状態の一覧が表示されます。
割り当て	GP-Pro EX で割り当てられているスレーブを表示します。
構成	CANopen 対応マスタ GP により構成されているネットワークのスレーブを表示します
故障	時間内にハートビートを送信しないスレーブ、初期化されていないスレーブ、エラー cDCF ファイルをもつスレーブを表示します。
非常メッセージ (EMCY)	非常メッセージを送信したスレーブを表示します。非常メッセージはオブジェクトの「0x2018」で読み込むことができます。ノード ID はサブインデックスとして読み込むことができます。
動作中	動作中のスレーブを表示します。
停止中	停止中のスレーブを表示します。
動作準備中	動作前状態のスレーブを表示します。
不一致	プロジェクトにフォーマットエラーがあります。
cDCF エラー	プロジェクトの設定値にエラーがあります。
識別エラー	識別エラーのあるスレーブを表示します。識別エラーは下記のエラーのどれかをさします。 - デバイス ID エラー [オブジェクト番号 : 0x1F84] - デバイスタイプ [オブジェクト番号 : 0x1000] - アイデンティティオブジェクト [オブジェクト番号 : 0x1018] - 供給メーカー ID エラー [オブジェクト番号 : 0x1F85] - 製品コードエラー [オブジェクト番号 : 0x1F86] - 改訂番号番号 エラー [オブジェクト番号 : 0x1F87]
エラーメッセージ	I/O ドライバエラーメッセージを表示します。表示される各エラーの詳細は以下を参照してください。 ☞「1.8.2 FLEX NETWORK ユニット使用時 ■ CANopen 使用時に表示されるエラー」(1-183 ページ)

ネットワークチェック

CANopen 通信時にネットワーク全体の状態をチェックします。

マスターチェック	スレーブチェック	ネットワークチェック						
ネットワークチェック I/O ボード V : V001.000 / ボーレート : 250 kb / ノード ID : <table> <tr> <td>構成</td> <td>状態</td> </tr> <tr> <td> ● マスター ● 各ノード設定を優先 ● マスター起動 ● スレーブ起動 ● SYNC プロデューサー </td> <td> ● 致命的エラー ● ノード ID 重複 ● ノード監視イベント ● 不一致 ● 識別エラー ● スレーブエラー ● RPDO受信エラー ● cDOFエラー ● キューオーバーラン(SDO) ● スレーブ無し </td> </tr> </table> Error:132 スレーブ無し 終了 戻る 2007/06/15 13:41:32					構成	状態	● マスター ● 各ノード設定を優先 ● マスター起動 ● スレーブ起動 ● SYNC プロデューサー	● 致命的エラー ● ノード ID 重複 ● ノード監視イベント ● 不一致 ● 識別エラー ● スレーブエラー ● RPDO受信エラー ● cDOFエラー ● キューオーバーラン(SDO) ● スレーブ無し
構成	状態							
● マスター ● 各ノード設定を優先 ● マスター起動 ● スレーブ起動 ● SYNC プロデューサー	● 致命的エラー ● ノード ID 重複 ● ノード監視イベント ● 不一致 ● 識別エラー ● スレーブエラー ● RPDO受信エラー ● cDOFエラー ● キューオーバーラン(SDO) ● スレーブ無し							

設定項目		設定内容
I/O ボード V		CANopen マスタモジュール内にあるファームウェアのバージョン番号を表示します。
ボーレート		構成されているボーレートを表示します。
ノード ID		CANopen マスタ対応 GP のノード ID を表示します。
構成	マスター	I/O ボードが動作している状態です。点灯している場合は CANopen マスタ対応 GP のボードがマスタとして動作中、点灯していない場合はスレーブとして動作中です。
	各ノード設定を優先	CANopen マスタ対応 GP のボードが構成されたスレーブを起動させます。
	マスター起動	CANopen マスタ対応 GP のボードは自ら起動します。
	スレーブ起動	CANopen マスタ対応 GP のボードがスレーブを起動させます。
	SYNC プロデューサー	CANopen マスタ対応 GP のボードが SYNC メッセージを配信します。
状態	致命的エラー	致命的なエラーが発生しました。CANopen マスタ対応 GP のボードをリセットします。
	ノード ID 重複	ネットワークのノードに、GP と同じノード ID があります。
	ノード監視イベント	必須モジュールのノード監視イベントです。マスターの動作は I/O ドライバ設定のマスタ設定で設定されている必須ノードのエラー発生時の動作によります。
	不一致	プロジェクトにフォーマットエラーがあります。
	識別エラー	ネットワークのノードに以下のエラーがあります。 ・ デバイス ID エラー (オブジェクト番号: 0x1F84) ・ デバイスタイプ [オブジェクト番号: 0x1000] ・ アイデンティティオブジェクト [オブジェクト番号: 0x1018] ・ 供給メーカー ID エラー (オブジェクト番号: 0x1F85) ・ 製品コードエラー (オブジェクト番号: 0x1F86) ・ 改訂番号エラー (オブジェクト番号: 0x1F87) ・ シリアル番号エラー (オブジェクト番号: 0x1F88) 対象ノードは停止状態になっています。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
	スレーブエラー	ネットワークのノードに CANopen マスタ対応 GP に対応していない特徴のあるノードがあります。
	RPDO 受信エラー	CANopen マスタ対応 GP のボードが、サイズが正しくない RPDO を受け取りました。
	cDCF エラー	プロジェクトの設定値にエラーがあります。
	キューオーバーラン (SDO)	SDO キューのオーバーラン
	スレーブ無し	スレーブが接続されていません。
エラーメッセージ		エラーメッセージ：I/O ドライバエラーメッセージを表示します。表示される各エラーの詳細は以下を参照してください。 ☞「1.8.2 FLEX NETWORK ユニット使用時 ■ CANopen 使用時に表示されるエラー」(1-183 ページ)

2.15.9 「GP-32** シリーズ」をご利用の場合

■ [本体設定]

[表示設定]

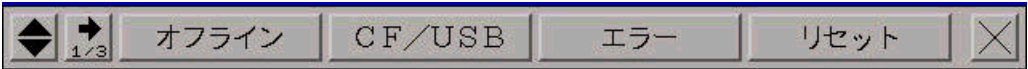
画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
反転表示: ☐ 有 ☒ 無				
輝度/コントラスト調整バーの表示: ☒ 有 ☐ 無				
Dスクリプト _debug()関数機能: ☒ 有効 ☐ 無効				
クロスカーソル表示: ☒ 有効 ☐ 無効				
終了		戻る		2005/07/27 18:12:51

設定項目	設定内容
反転表示	画面の白黒反転表示を行うかどうかを設定します。 MEMO モノクロの GP が選択されている場合のみ設定できます。
輝度 / コントラスト調整バーの表示	タッチ入力による、輝度やコントラストを調整する [輝度 / コントラスト調整バー] を表示するかどうかを設定します。
D スクリプト _debug() 関数機能	D スクリプトに記述された _debug() 関数のデータを実行するかを設定します。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.8.1 D スクリプト / 共通設定 [グローバル D スクリプト設定] の設定ガイド」(20-48 ページ)
クロスカーソル表示	クロスカーソル表示を行うかどうかを設定します。クロスカーソル表示を行っていると、画面をタッチした位置に「+」(クロスカーソル) が表示され、この「+」と描画位置のずれからタッチキャリブレーションのずれを確認することができます。

2.15.10 システムメニュー

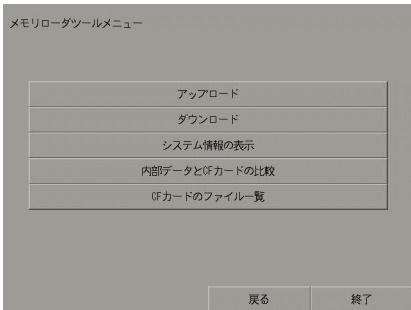
■ オフライン、CF 起動、エラー、リセット

システムメニューに 1 番目に表示される各メニュー項目を説明します。



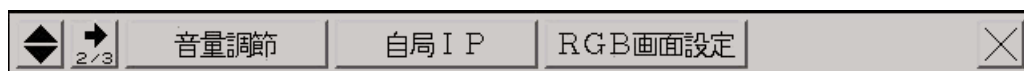
メニュー項目	メニュー内容
オフライン	オフラインモードに入る場合にタッチします。
CF/USB	◆◀▶▶ CF起動 USB起動 ✕ CF メモリローダプログラムを起動する場合にタッチします。CF メモリローダツールを CF カードに保存している場合、[CF 起動] をタッチ、または USB ストレージに保存している場合は [USB 起動] をタッチすると再起動し、次のような画面が表示されます。 メモリローダツール Language Japanese アップロード (本体→CF) ダウンロード (CF→本体) Ver. 2.0.0 メニュー 終了 CF カード、USB ストレージの手順については以下を参照してください。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7 CF カードや USB ストレージを使って転送したい」(32-36 ページ) MEMO - GP-3302B ではこのメニューは表示されません。 - LT-3*** シリーズをご利用の場合は、USB メモリローダのみ起動できます。
Language	CF メモリローダツールの表示言語を [Japanese]、[English] から選択します。
アップロード	アップロード画面に移行します。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 ■ GP からパソコン (または他の GP) にプロジェクトファイルを転送する」(32-43 ページ)
ダウンロード	ダウンロード画面に移行します。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 ■ パソコンから GP にプロジェクトファイルを転送する」(32-37 ページ)

次のページに続きます。

メニュー項目	メニュー内容
メニュー	以下のメニュー画面が表示されます。  • アップロード アップロード画面に移行します。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 ■ GP からパソコン（または他の GP）にプロジェクトファイルを転送する」（32-43 ページ） • ダウンロード ダウンロード画面に移行します。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 ■ パソコンから GP にプロジェクトファイルを転送する」（32-37 ページ） • システム情報の表示 CF カード内のバックアップデータと GP 内のデータの内容を表示します。 • 内部データと CF カードの比較 GP 内のすべてのデータと CF カードにアップロードしたバックアップデータとを比較します。 • CF カードのファイル一覧 CF カード内のすべてのファイルを一覧表示し、選択したファイルの詳細を表示したり、ファイルのコピー、削除、名称変更もできます。
	戻る 初期画面に戻ります。
	終了 終了確認ウィンドウが表示され、[はい] をタッチすると CF メモリローダツールを終了し、GP をリセットします。
エラー	常に最新のエラーメッセージを一行で表示します。エラーメッセージが一行で表示しきれない場合は、表示可能な文字数分だけ表示します。
リセット	GP 本体をリセットする場合にタッチします。

■ 音量調節、自局 IP

システムメニュー 2 番目に表示される各メニュー項目を説明します。

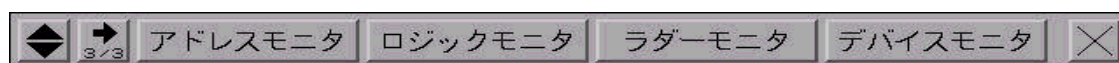


メニュー項目	メニュー内容
音量調節	AUX 端子に接続された外部スピーカーの音量を調整します。サウンド出力 (AUX 出力) 対応している機種のみ表示します。
自局 IP	GP に設定されている IP アドレスを確認する場合にタッチします。イーサネットに対応している機種のみ表示します。
RGB 画面設定	VM ユニットを使用している場合にのみ表示されます。タッチすると [位置調整]、[画面調整]、[色調整]、[標準設定] 各種設定に移動するメニューが表示され、RGB 入力からの映像を調整できます。
位置調整	水平位置、垂直位置の調整を行います。水平位置は -128 ~ 128、垂直位置は -16 ~ 16 で設定します。
画面調整	クロック、フェイズの調整を行います。クロックは -128 ~ 128、フェイズは 0 ~ 63 で設定します。
色調整	赤色、緑色、青色のレベル設定または微調整を行います。レベルは 0 ~ 3、微調整は 0 ~ 255 で設定します。
標準設定	[実行] をタッチすると、[位置調整]、[画面調整]、[色調整] の内容を初期値に設定します。

次のページに続きます。

■ アドレスモニタ、ロジックモニタ

システムメニュー 3 番目に表示されるメニュー項目を説明します。



アドレスのモニタや、ロジックプログラムの動作状況と命令の確認を行う場合にタッチします。

MEMO

- ・ [アドレスモニタ] については GP-3000 シリーズの全機種で対応していますが、[ロジックモニタ] については、ロジック使用可能な機種のみ表示されます。ロジック機能が [使用しない] と設定されている場合はロジックモニタのスイッチをタッチしてもアドレスモニタが表示されます。

メニュー項目	メニュー内容
アドレスモニタ	ロジックで使用されている変数のモニタを行います。変数名と現在値が確認できます。また、アドレス方式ではロジックアドレスのモニタを行います。 ☞ 「2.9.1 ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい ■ アドレスモニタ」(2-55 ページ)
ロジックモニタ	ロジックプログラムのモニタを行います。ロジックモニタではロジックプログラムの動作状況と命令の変数の状況が確認できます。 ☞ 「2.9.1 ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい ■ ロジックモニタ」(2-54 ページ)
ラダーモニタ	PLC(三菱電機(株)製 PLC Q シリーズ)のラダープログラムを読み出して表示器画面でモニタできます。他の機能を停止させることなく、オンラインでラダープログラムをモニタすることができます。 ☞ 三菱電機(株)製 Q シリーズ対応 PLC ラダーモニタオペレーションマニュアル
デバイスモニタ	指定した接続機器の任意のデバイスを GP 画面上でモニタできます。また GP 画面上から任意のアドレスの値を変更できます。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 2 接続機器デバイスの現在値を一覧で確認したい(デバイスモニタ)」(A-42 ページ)

■ 輝度、コントラスト

このメニューの表示方法は下記を参照してください。

☞ 「2.3.1 明るさ（輝度、コントラスト）を調整したい」(2-23 ページ)



メニュー項目	メニュー内容
輝度	GP の輝度を調整します。  MEMO • GP の機種が TFT の場合は、[輝度] 調整しかできないためメニュー表示は次のようになります。  • GP-3200 シリーズでは 16 段階の輝度調整ができます。
コントラスト	GP のコントラストを調整します。ボタンをタッチすると表示されます。  MEMO • GP の機種が TFT の場合は [コントラスト] の調整はできません。